

Ⅲ. 調查結果

1 男女の地位に関する意識について

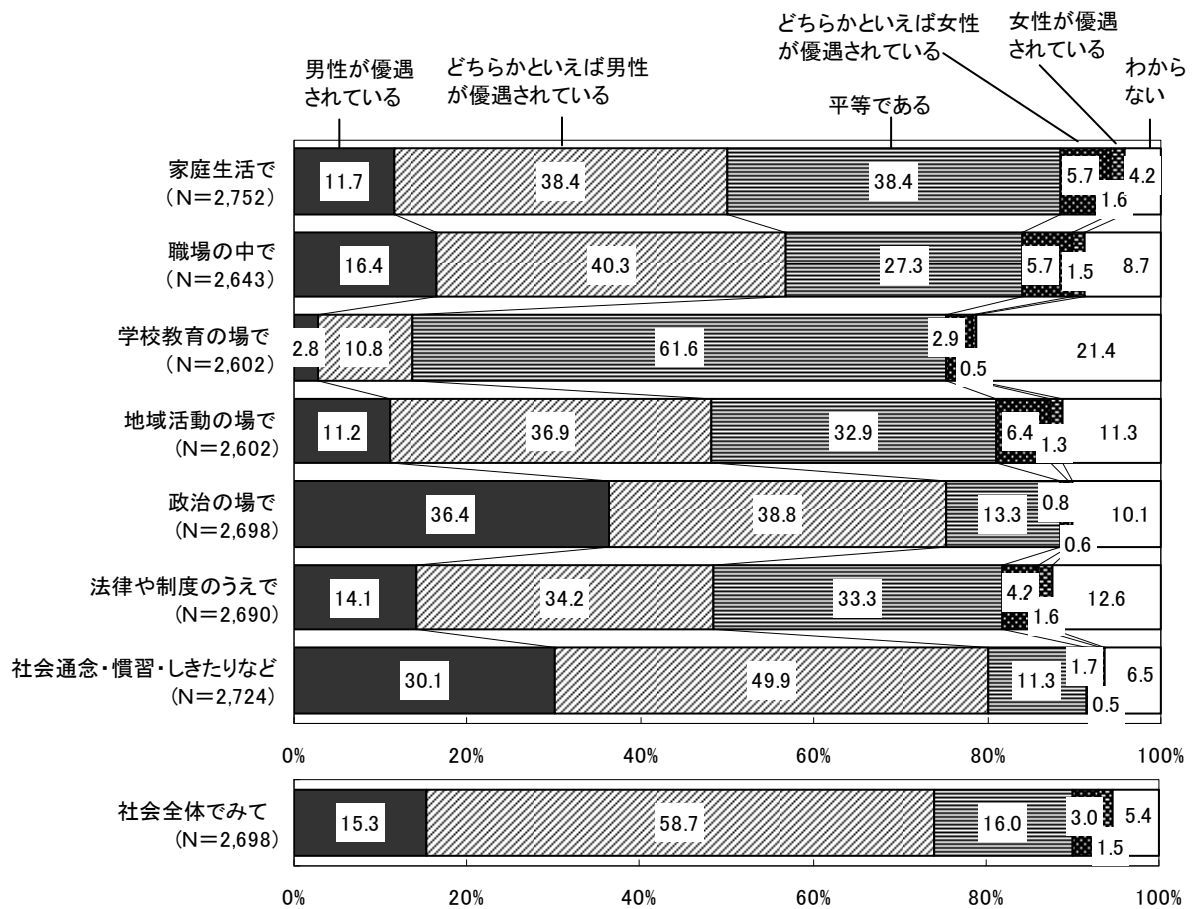
1 各分野での男女の地位の平等感

●社会全体でみると『平等である』は16.0%、『男性が優遇』されているが74.0%

「男性が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」をあわせた『男性が優遇』は「社会全体でみて」では、74.0%である。

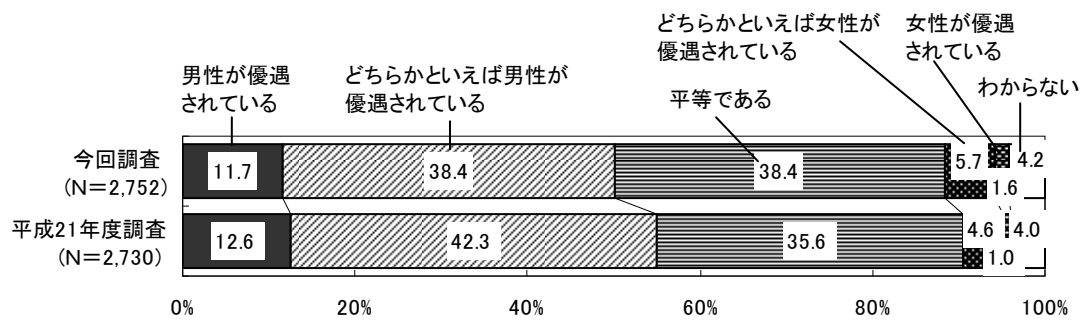
分野別にみると、『男性が優遇』が大きな割合を占めるのは「社会通念・慣習・しきたりなど」80.0%、次いで「政治の場で」75.2%である。

「平等である」は、「学校教育の場で」が最も多く61.6%となっている。



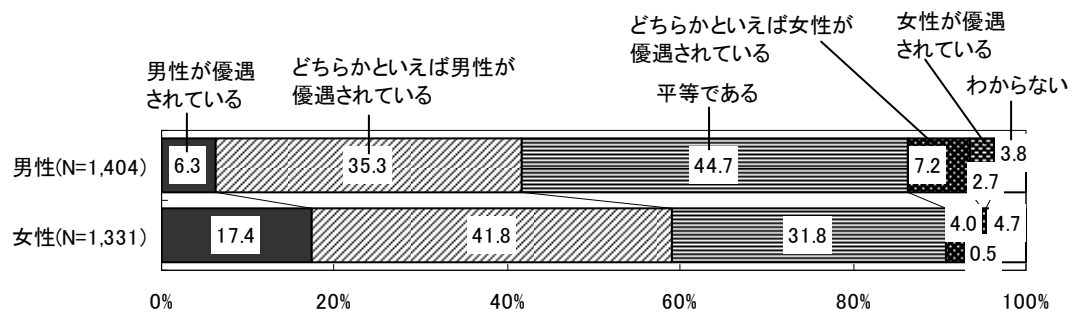
(1) 家庭生活で

平成 21 年度調査と比較して『男性が優遇』は 4.8 ポイント低下し、「平等である」が 2.8 ポイント上昇している。



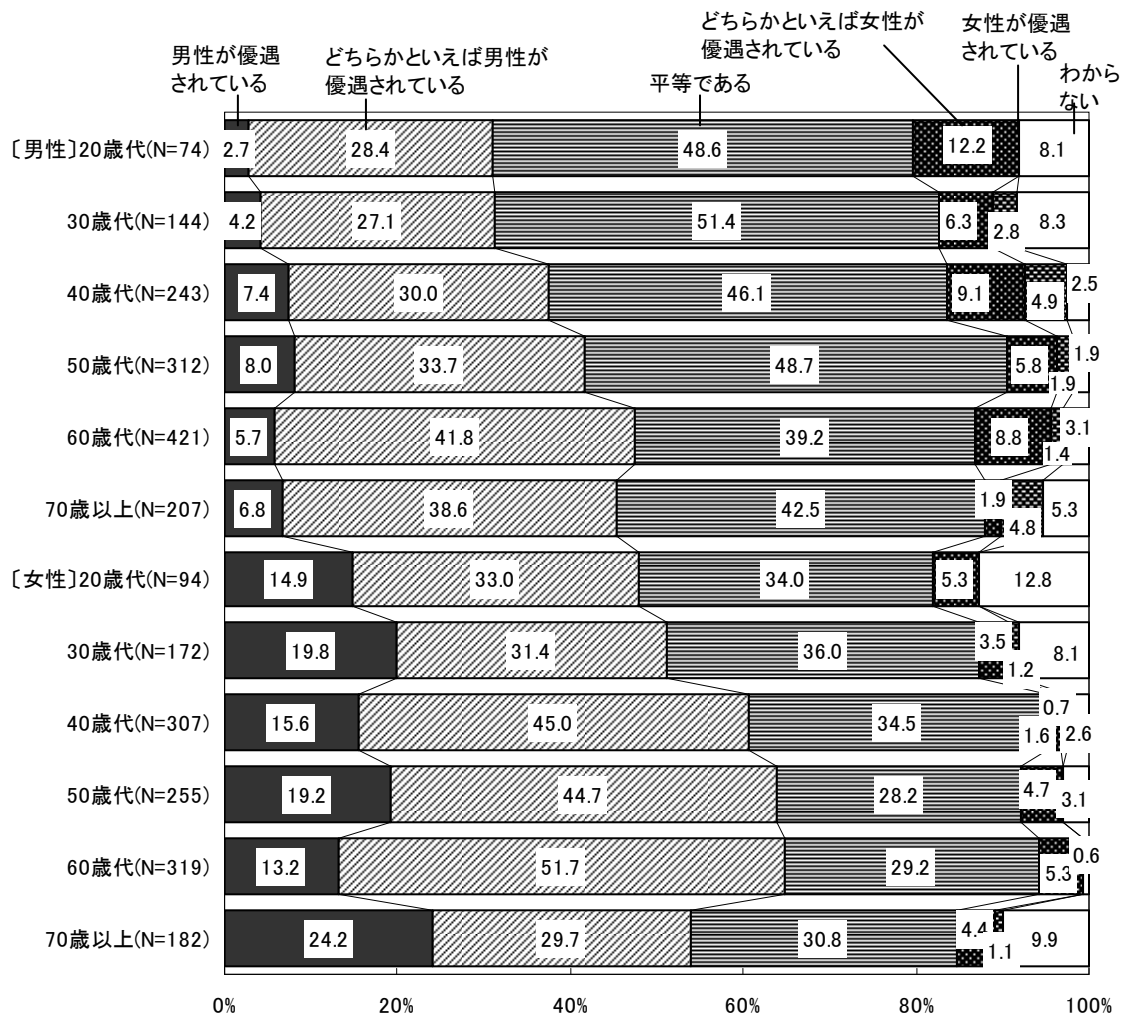
【性別】

『男性が優遇』は女性が 59.2%で、男性 (41.6%) を 17.6 ポイント上回っている。また、「平等である」は男性が 44.7%であるのに対し、女性は 31.8%である。



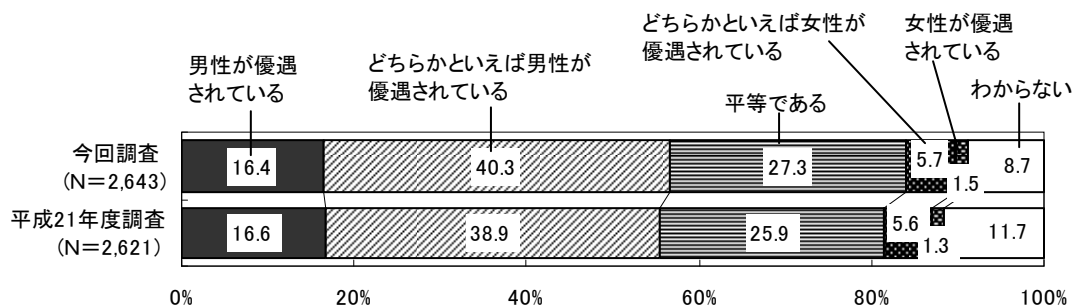
【性・年代別】

『男性が優遇』は、女性の60歳代で最も多く64.9%である。



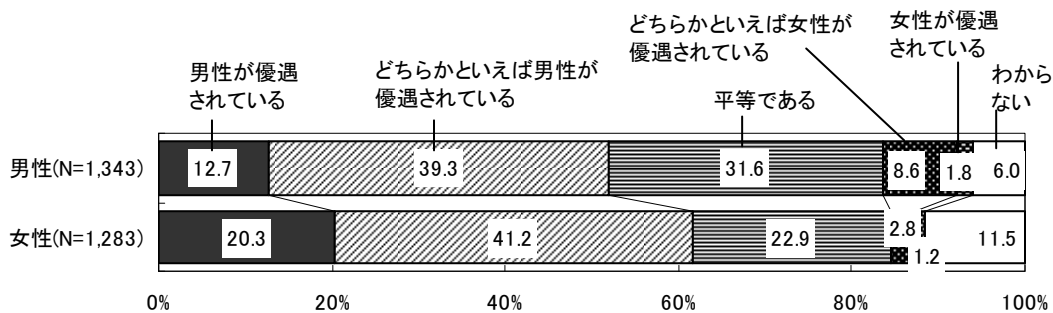
(2) 職場の中で

平成 21 年度調査と比較して『男性が優遇』は 1.2 ポイント上昇し、「平等である」も 1.4 ポイント上昇している。



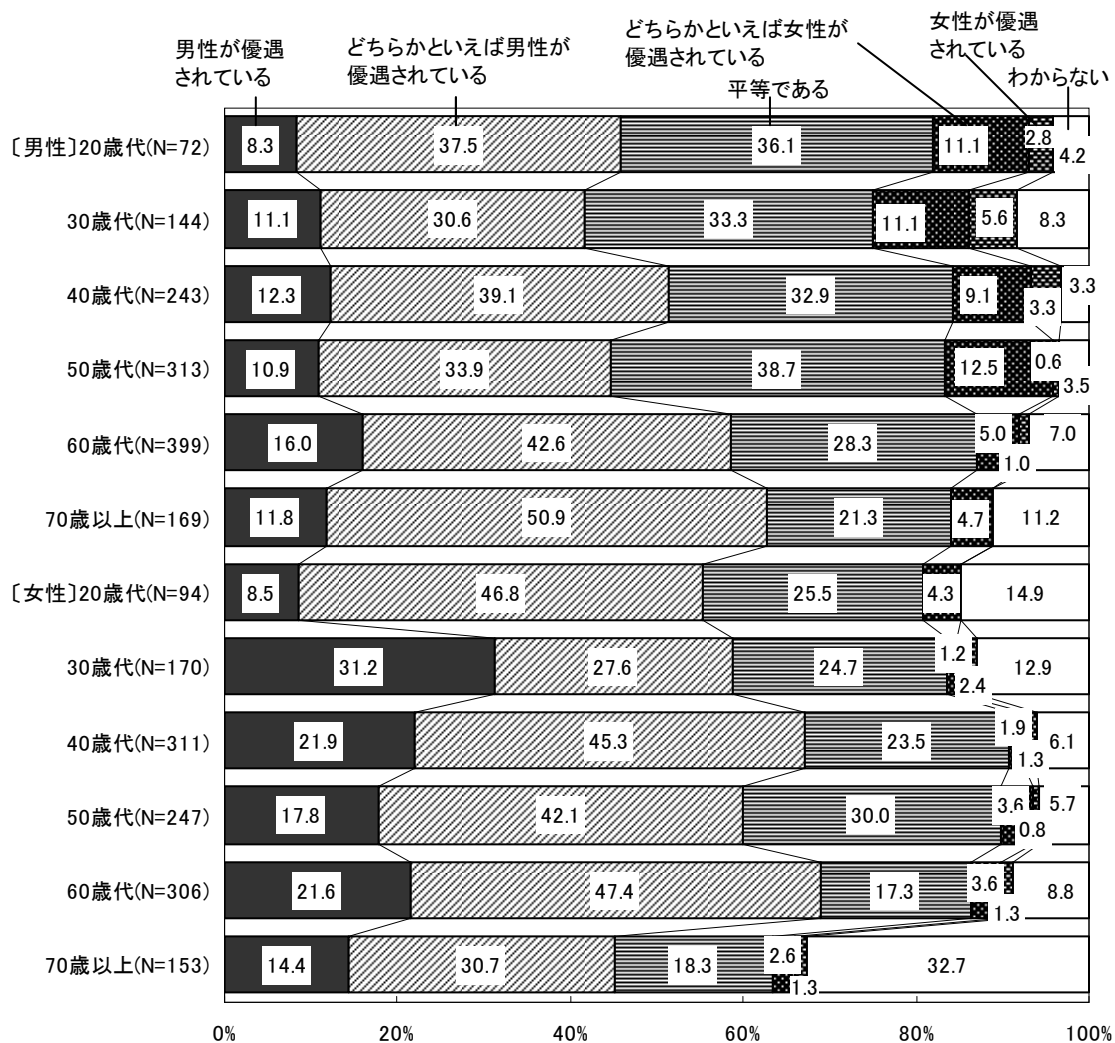
【性別】

『男性が優遇』は女性が 61.5%で、男性 (52.0%) を 9.5 ポイント上回っている。また、「平等である」は男性が 31.6%であるのに対し、女性は 22.9%である。



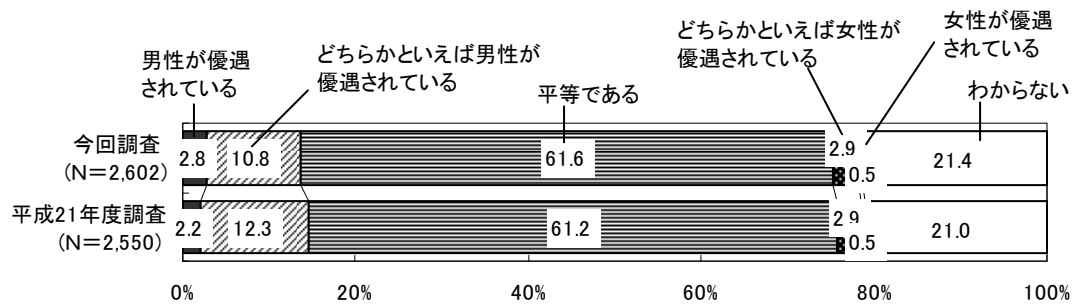
【性・年代別】

『男性が優遇』は、60歳代の女性(69.0%)で最も多く、次いで40歳代の女性(67.2%)が多い。



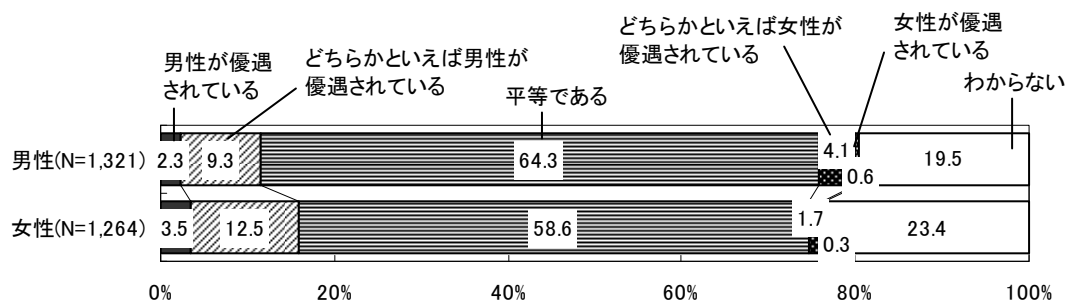
(3) 学校教育の場で

「平等である」が61.6%で最も多く、平成21年度調査と比較して0.4ポイント上昇している。



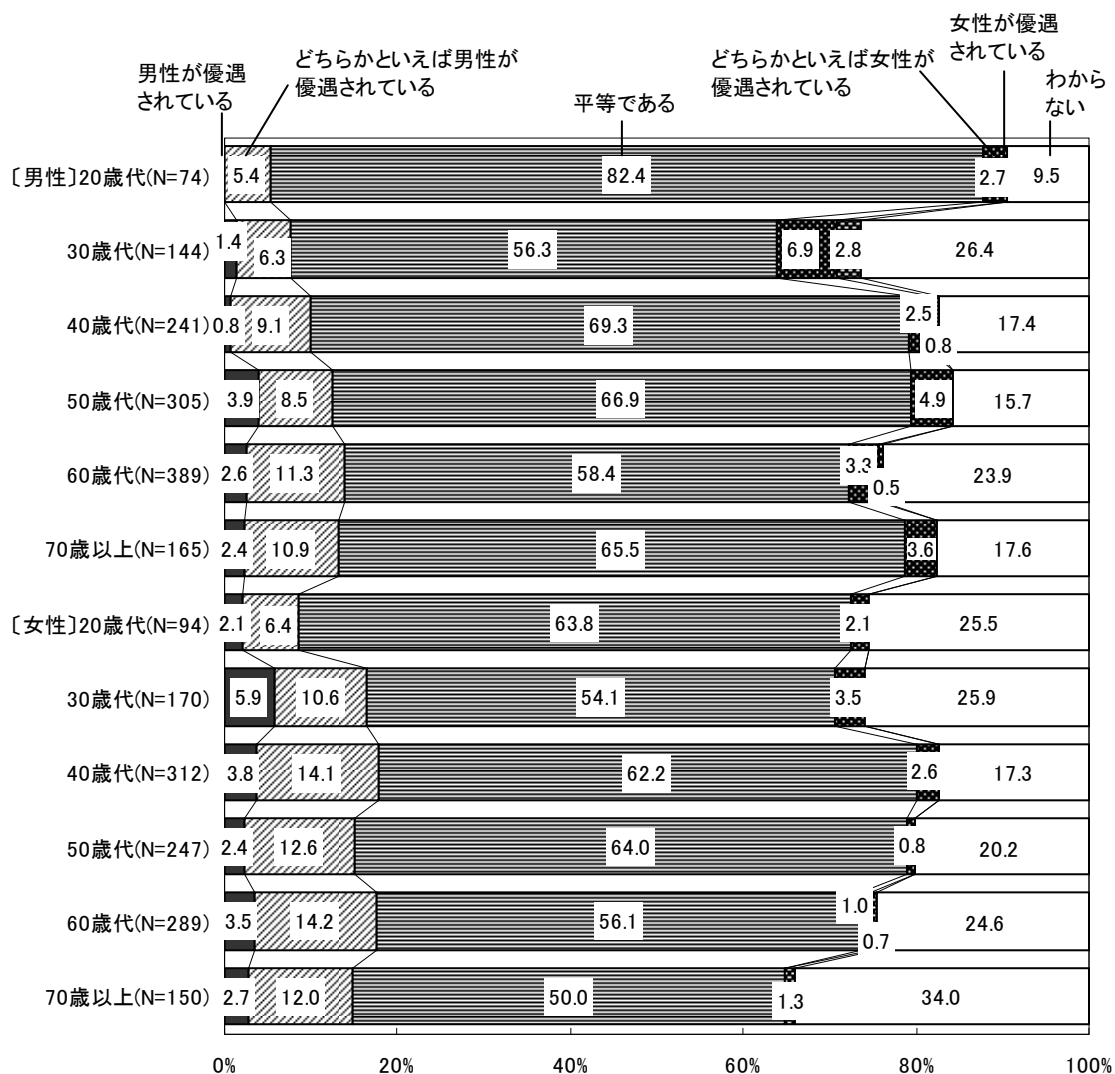
【性別】

男女ともに「平等である」が最も多く、『男性が優遇』は女性が16.0%で、男性(11.6%)を4.4ポイント上回っている。



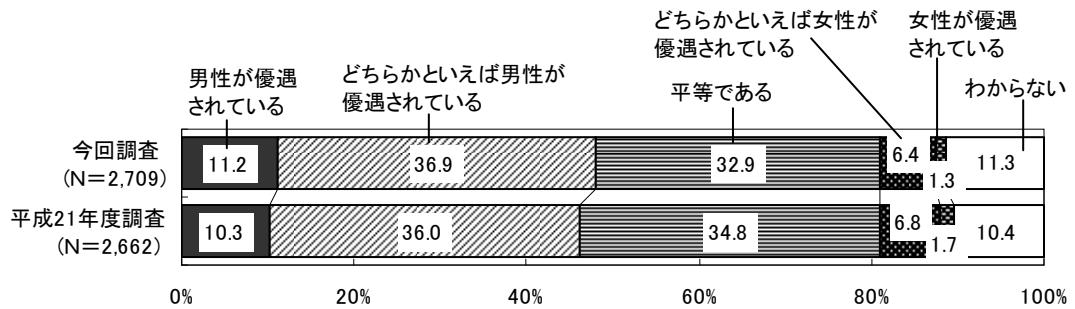
【性・年代別】

「平等である」は20歳代の男性（82.4%）で最も多く、70歳以上の女性（50.0%）で最も少なくなっている。



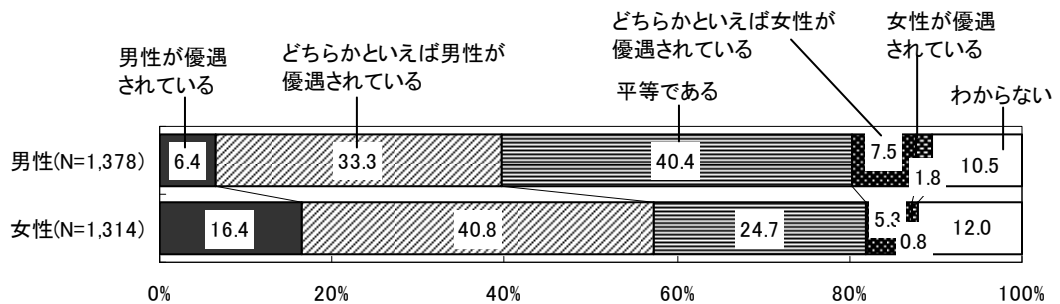
(4) 地域活動の場で

平成 21 年度調査と比較して『男性が優遇』は 1.8 ポイント上昇し、「平等である」が 1.9 ポイント低下している。



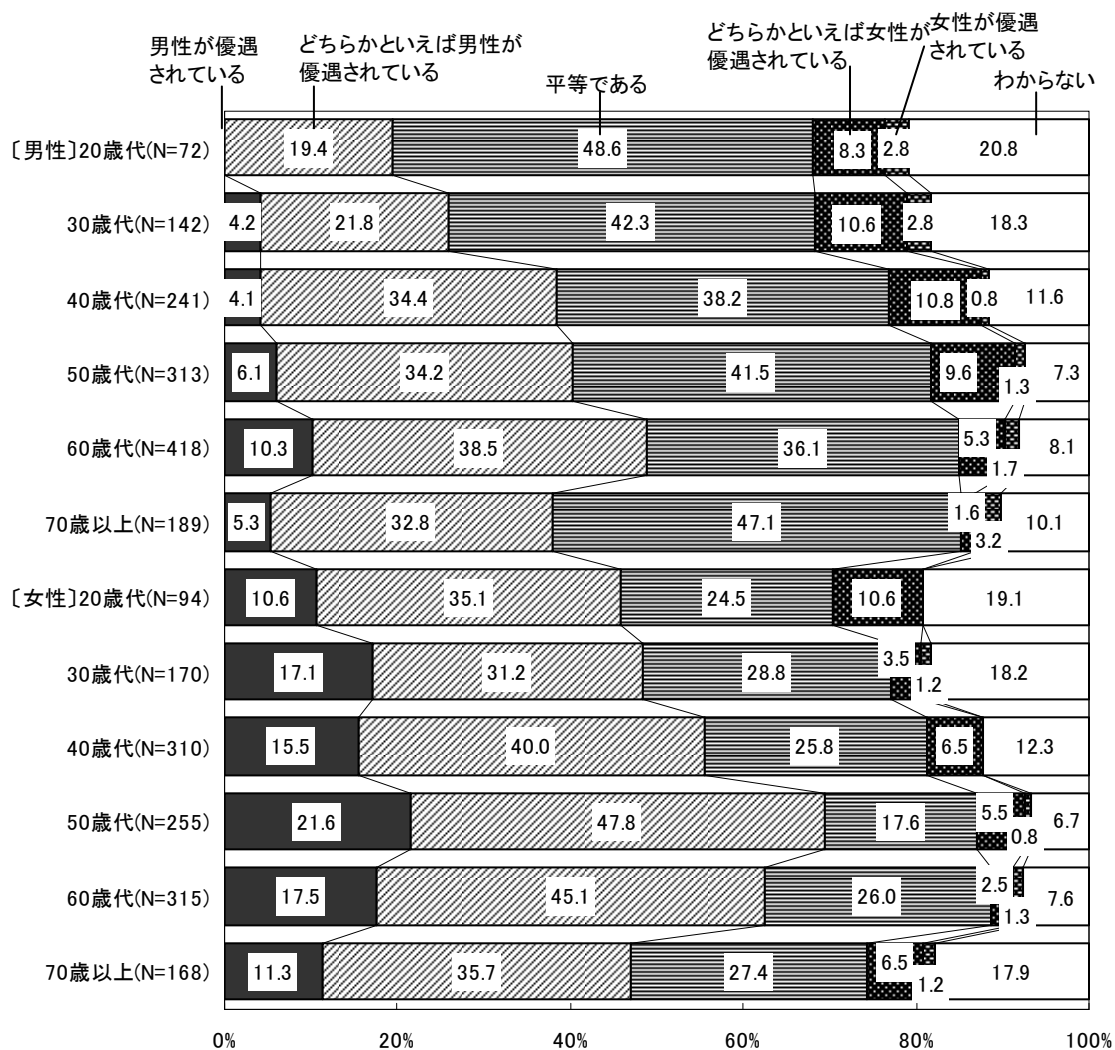
【性別】

『男性が優遇』は女性が 57.2%で、男性 (39.7%) を 17.5 ポイント上回っている。また、「平等である」は男性が 40.4%であるのに対し、女性は 24.7%である。



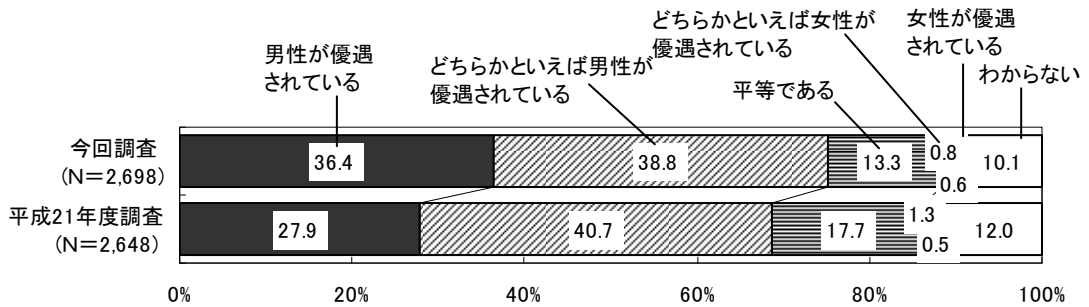
【性・年代別】

『男性が優遇』は50歳代の女性（69.4%）が最も多く、「平等である」は20歳代の男性（48.6%）が最も多い。



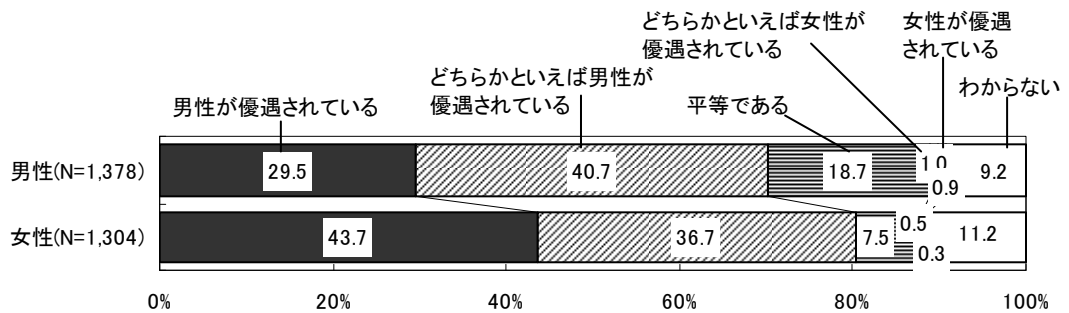
(5) 政治の場で

平成 21 年度調査と比較して『男性が優遇』は 6.6 ポイント上昇し、「平等である」が 4.4 ポイント低下している。



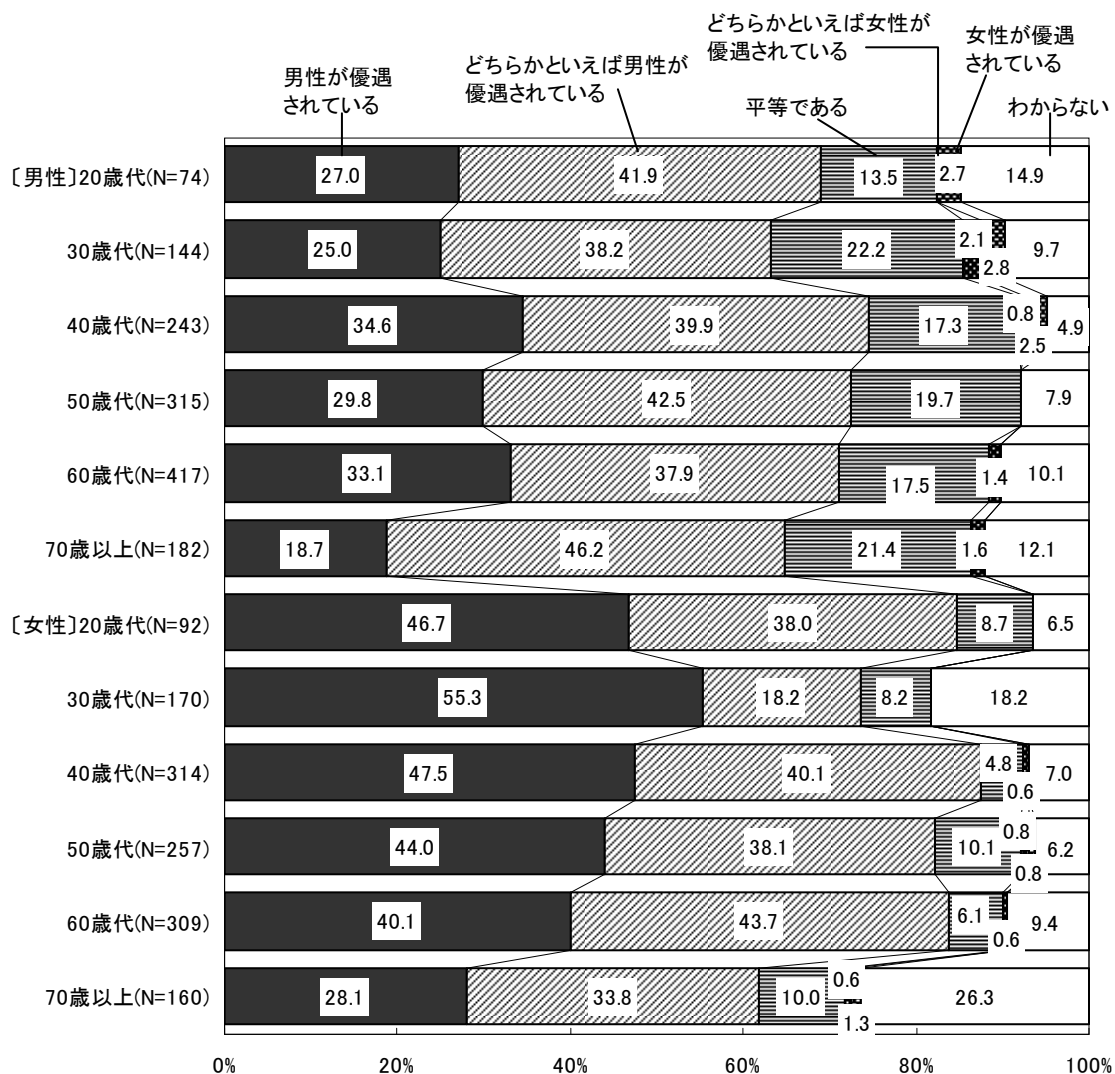
【性別】

『男性が優遇』は女性が 80.4%で、男性（70.2%）を 10.2 ポイント上回っている。また、「平等である」は男性が 18.7%であるのに対し、女性は 7.5%である。



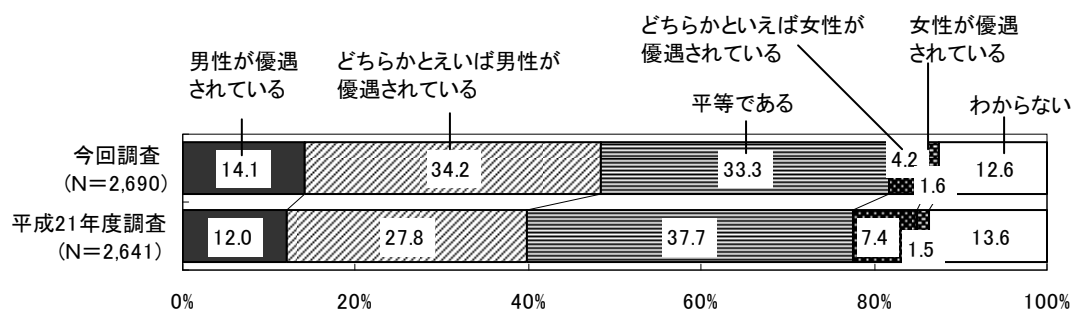
【性・年代別】

『男性が優遇』は20歳代、40歳～60歳代の女性で多く、「平等である」は30歳代、70歳以上の男性で多くなっている。



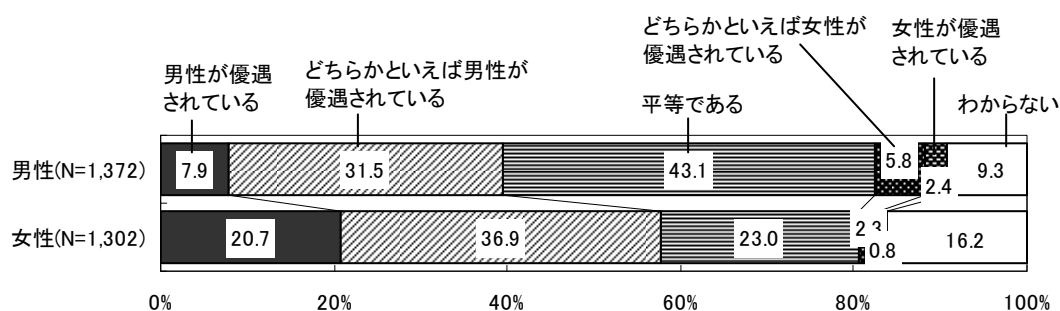
(6) 法律や制度のうえで

平成 21 年度調査と比較して『男性が優遇』は 8.5 ポイント上昇しており、「平等である」が 4.4 ポイント低下している。



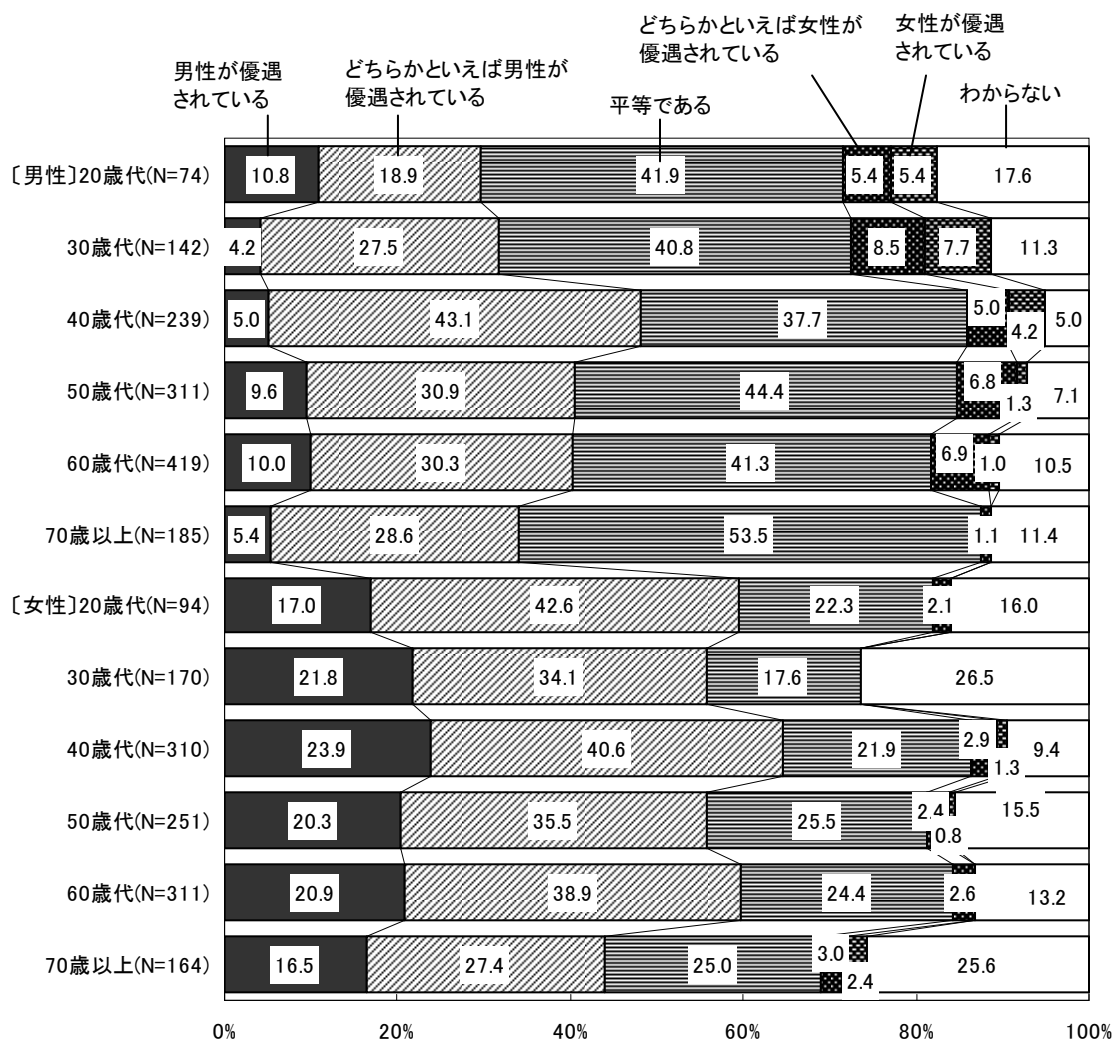
【性別】

『男性が優遇』は女性が 57.6%で、男性 (39.4%) よりも 18.2 ポイント上回っている。また、「平等である」は男性が 43.1%であるのに対し、女性は 23.0%である。



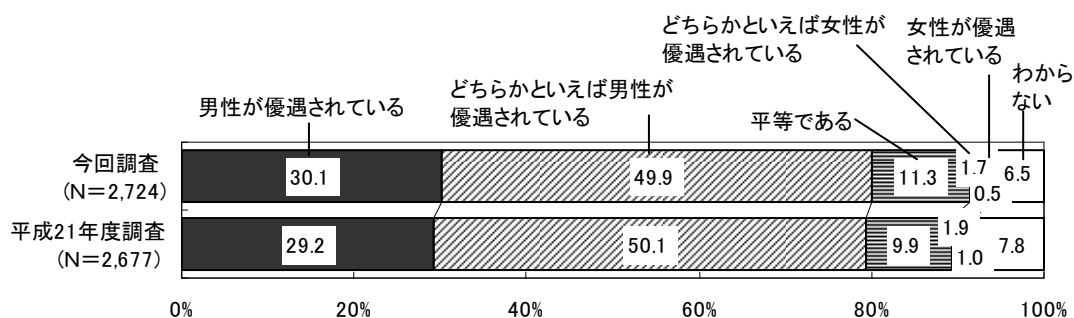
【性・年代別】

『男性が優遇』は20歳代、40歳代、60歳代の女性で多く、「平等である」は70歳以上の男性で多くなっている。



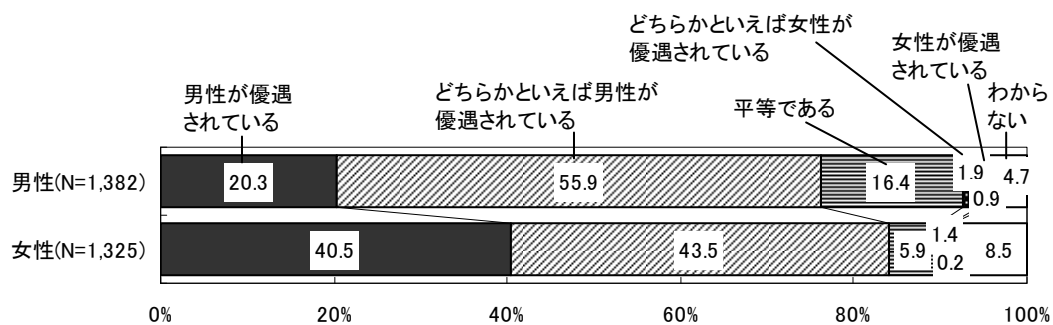
(7) 社会通念・慣習・しきたりのなかで

平成 21 年度調査と比較して『男性が優遇』は 0.7 ポイント上昇し、「平等である」が 1.4 ポイント上昇している。



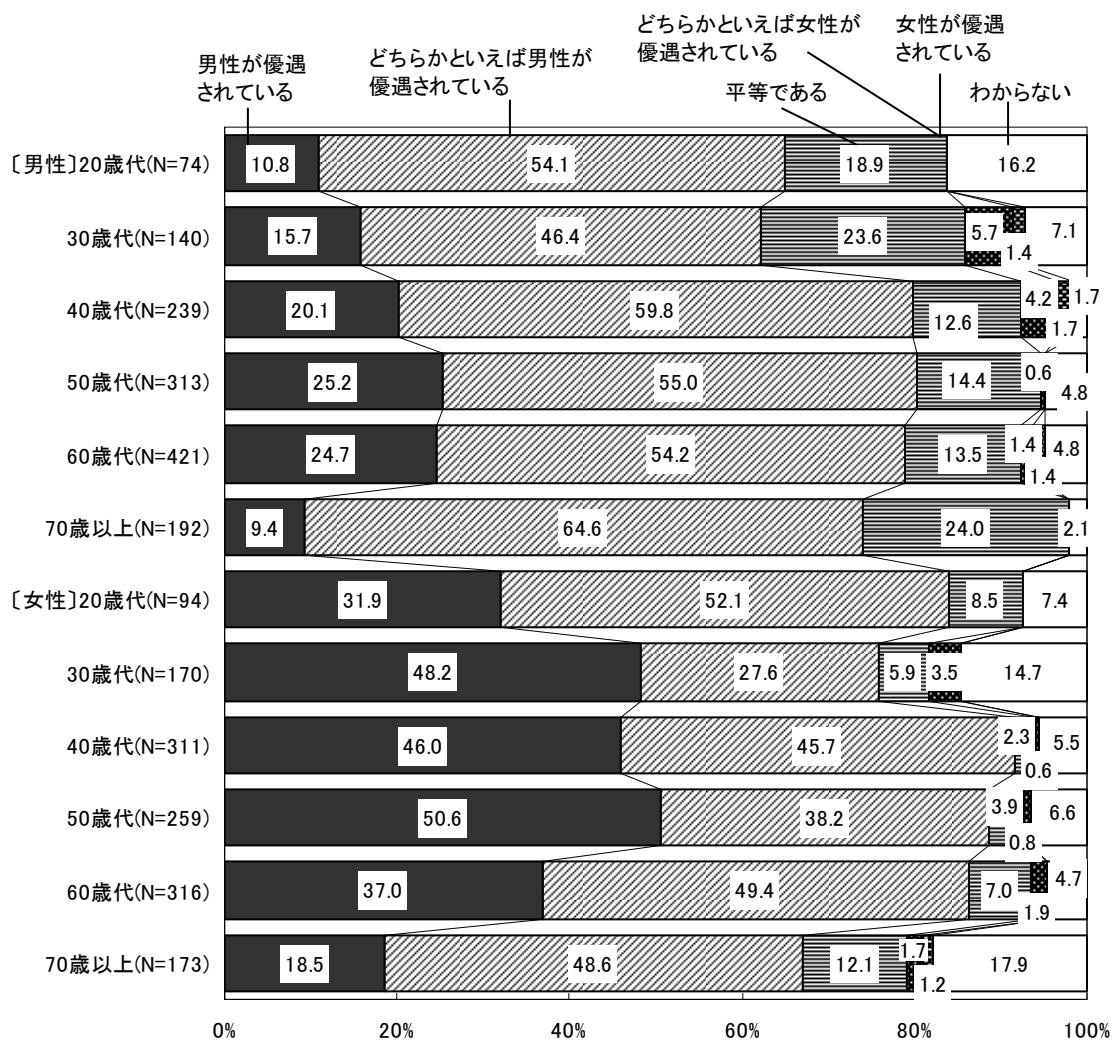
【性別】

『男性が優遇』は女性が 84.0%で、男性 (76.2%) を 7.8 ポイント上回っている。また、「平等である」は男性が 16.4%であるのに対し、女性は 5.9%である。



【性・年代別】

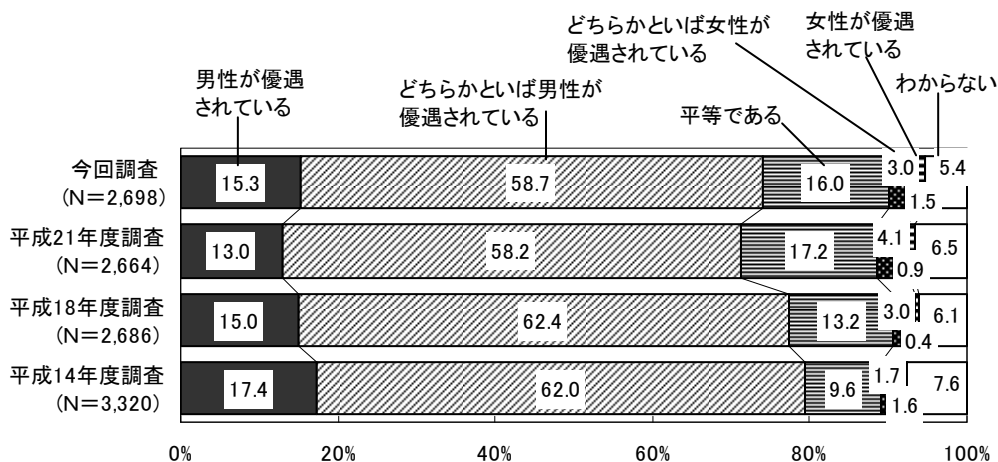
『男性が優遇』は20歳代、40歳代、50歳代の女性で多く、「平等である」は30歳代、70歳以上の男性で多くなっている。



(8) 社会全体でみて

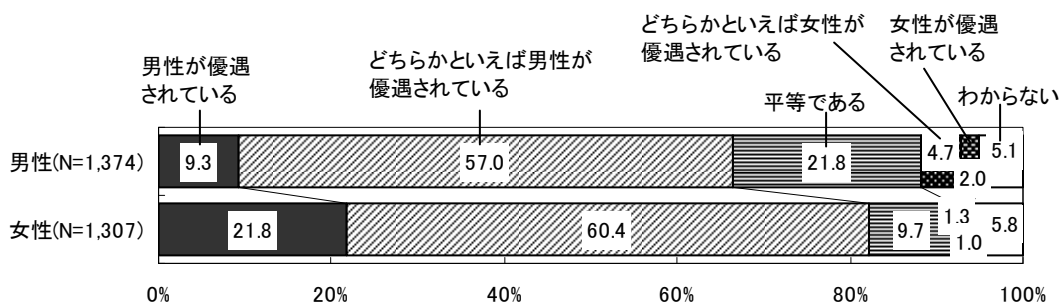
平成 21 年度調査と比較して『男性が優遇』は 2.8 ポイント上昇し、「平等である」が 1.2 ポイント低下している。

しかし、平成 14 年度、18 年度調査と比較すると『男性が優遇』は低下し、「平等である」は上昇している。



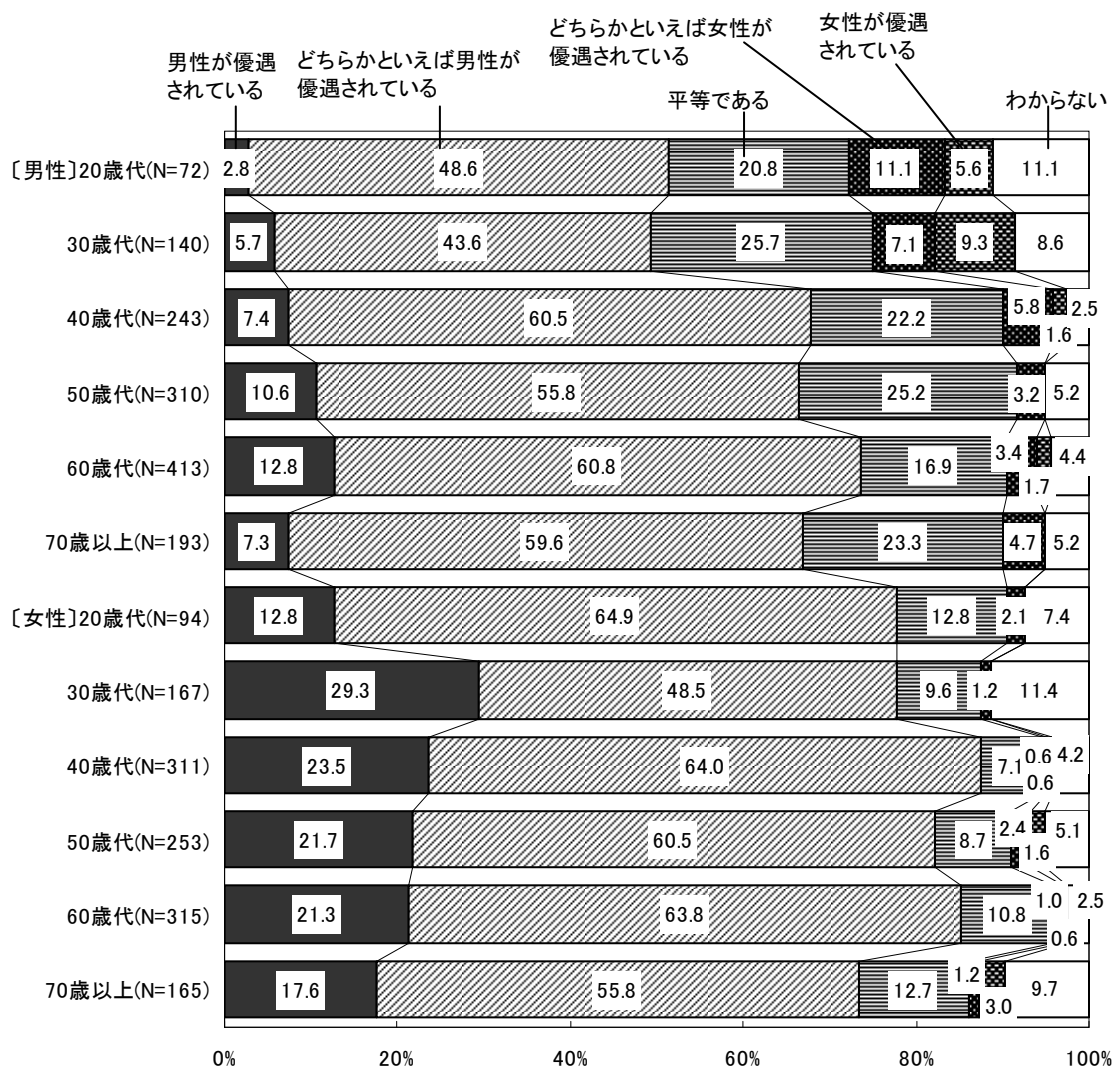
【性別】

『男性が優遇』は女性が 82.2% で、男性 (66.3%) を 15.9 ポイント上回っている。また、「平等である」は男性が 21.8% であるのに対し、女性は 9.7% である。



【性・年代別】

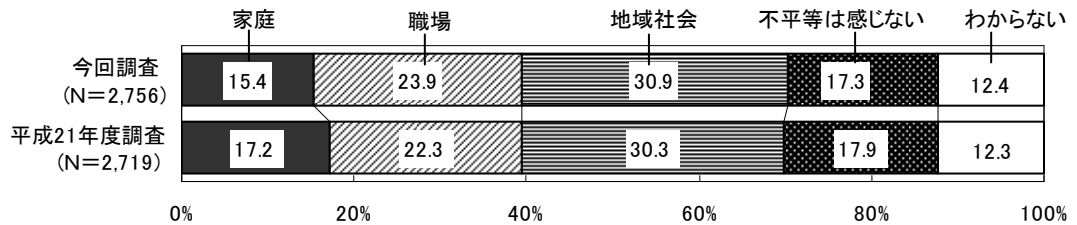
『男性が優遇』は40歳代、60歳代の女性で多く、「平等である」は30歳代、50歳代の男性で多くなっている。



2 日常生活の中で男女の不平等を一番感じるところ

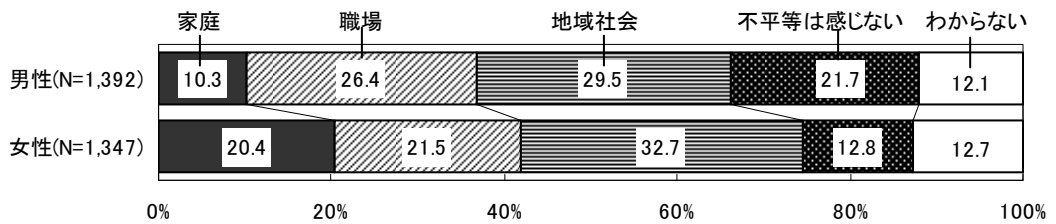
●「地域社会」が最も多く、次いで「職場」

日常生活の中で男女の不平等を一番感じる場所は、「地域社会」が最も多く 30.9%となっており、平成 21 年度調査と比較して 0.6 ポイント上昇している。また、「職場」は、23.9%であり、1.6 ポイント上昇している。



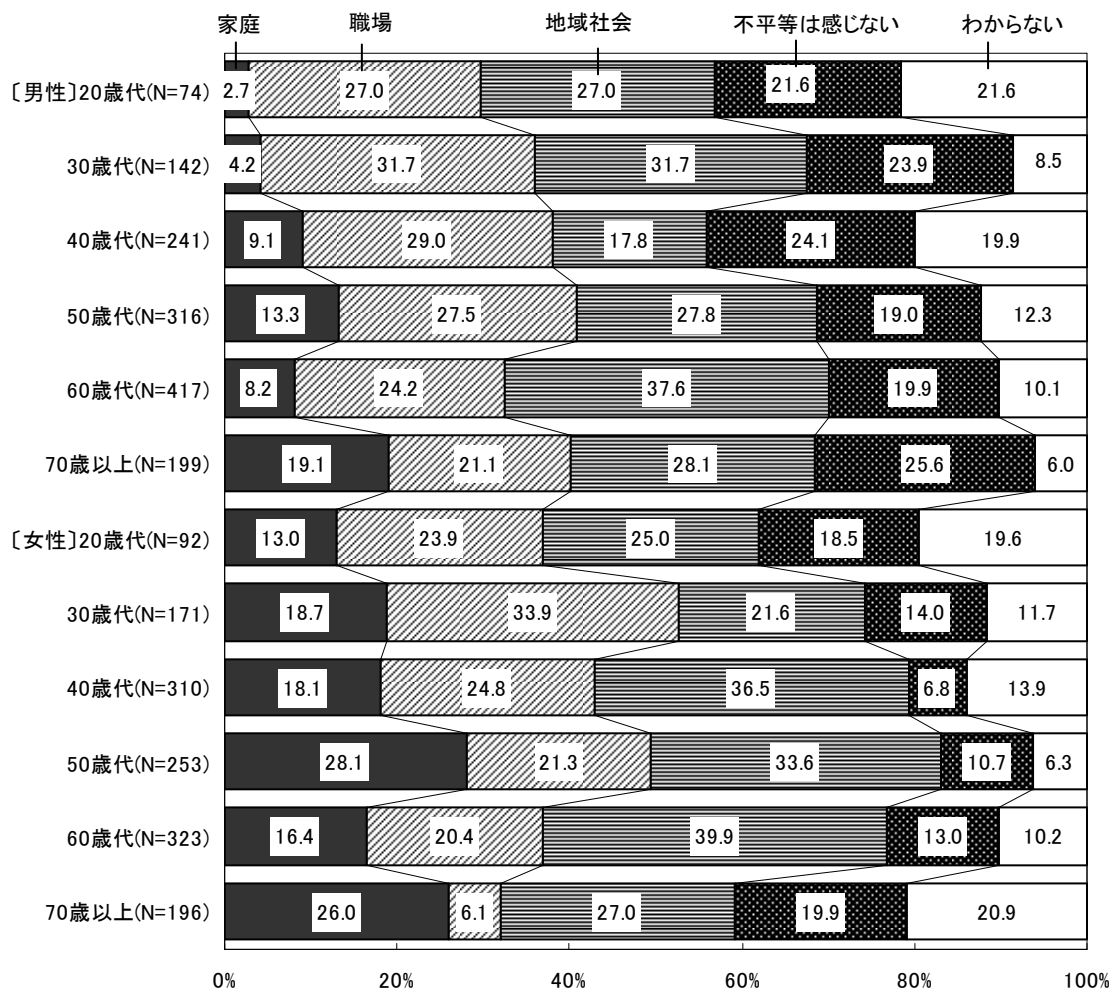
【性別】

男女とも「地域社会」が最も多く、男性 29.5%、女性 32.7%となっている。「家庭」は男性 10.3%に対し女性は 20.4%である。また、「不平等を感じない」は男性 21.7%に対し女性は 12.8%である。



【性・年代別】

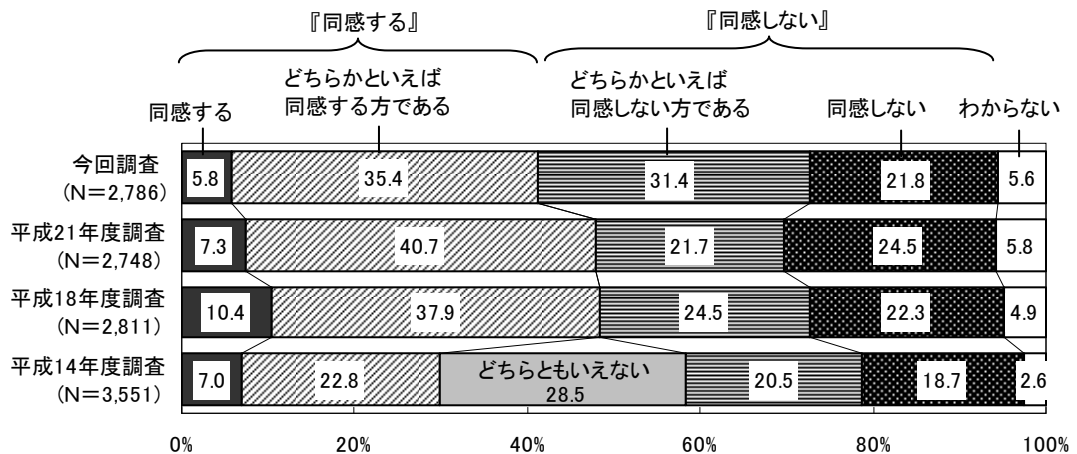
60歳代の男女で「地域社会」に不平等を感じる割合が多く、30歳代の男女で「職場」に不平等を感じる割合が多い。



3 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方

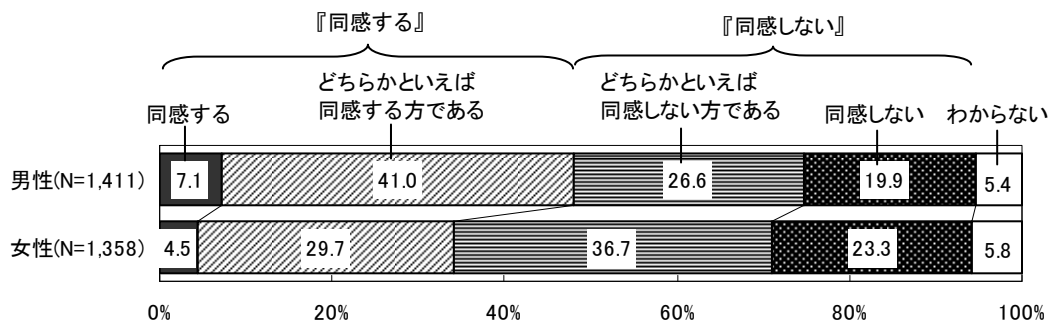
● 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方に『同感しない』は 53.2%

「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方に『同感する』（「同感する」と「どちらかといえば同感する方である」の合計）は 41.2%で、平成 21 年度調査と比較して、6.8 ポイント低下している。『同感しない』（「同感しない」と「どちらかといえば同感しない方である」の合計）は 53.2%で、7.0 ポイント上昇している。



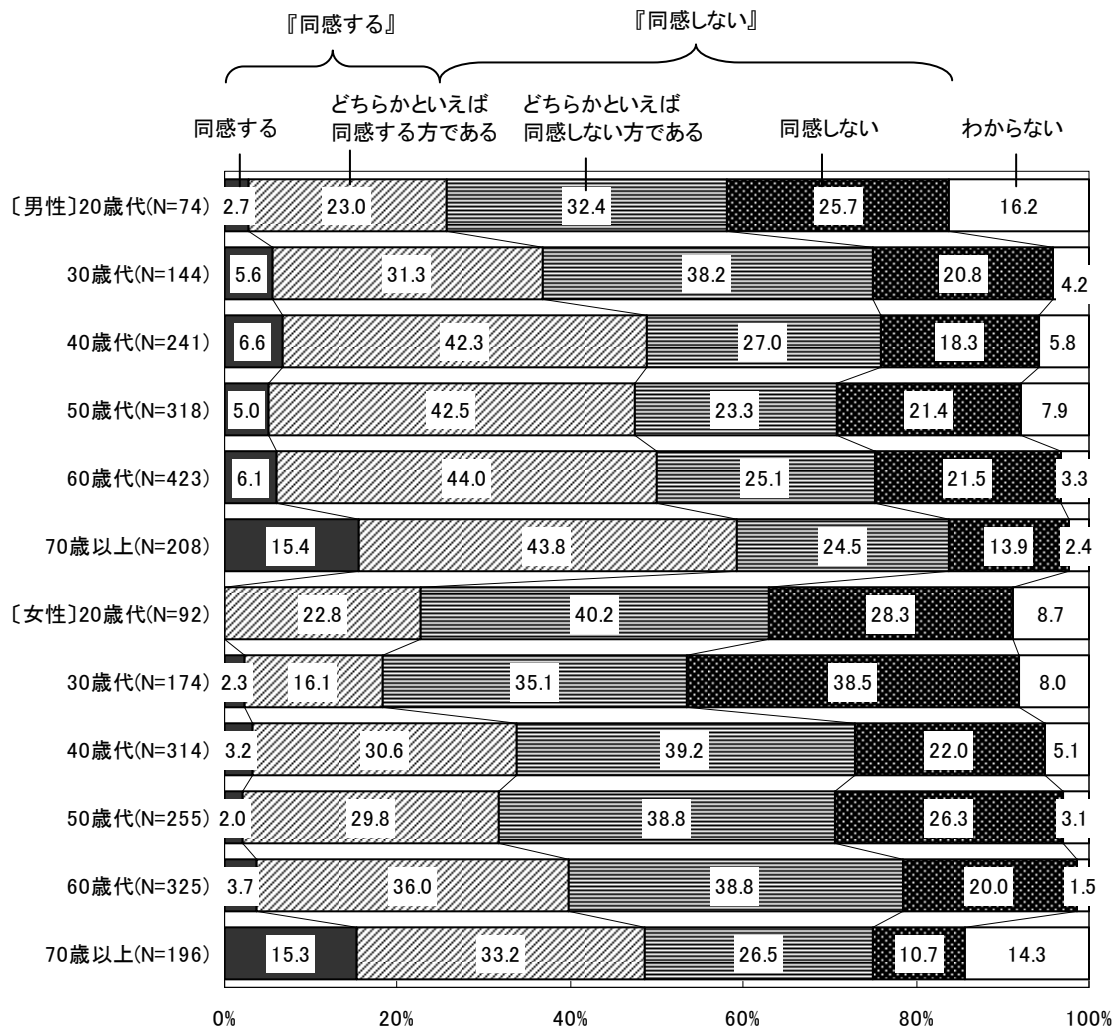
【性別】

『同感する』は男性が 48.1%で、女性（34.2%）を 13.9 ポイント上回っており、一方『同感しない』は女性が 60.0%で、男性（46.5%）を 13.5 ポイント上回っている。



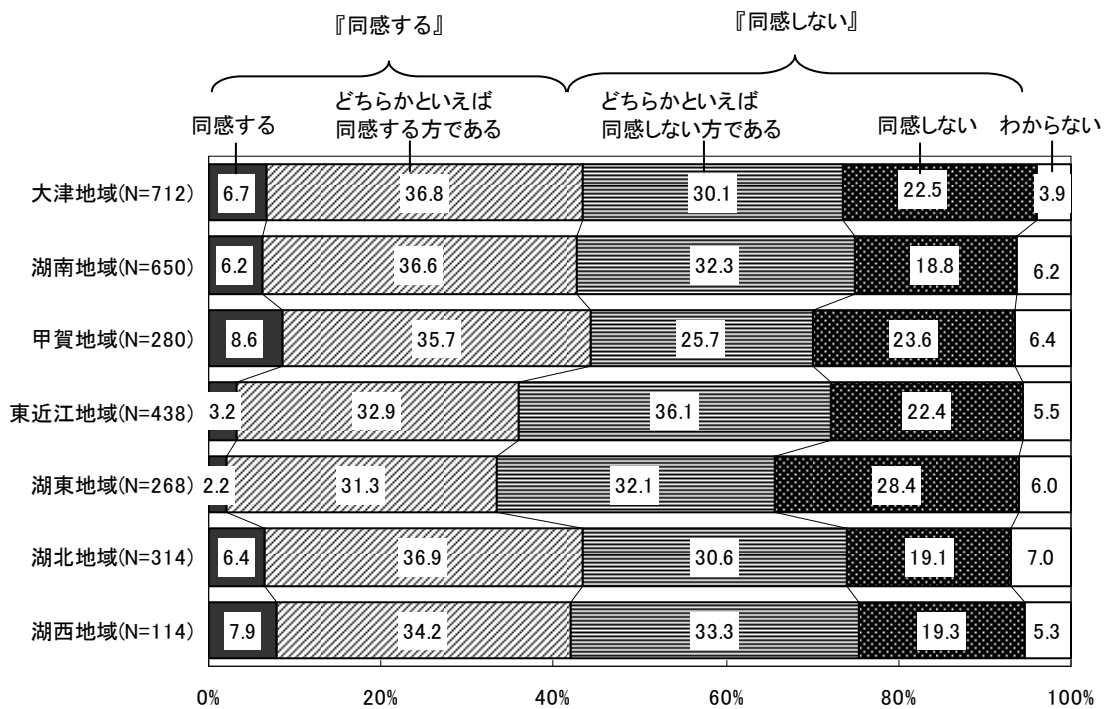
【性・年代別】

『同感する』は、男女とも年齢とともに高くなる傾向にあるが、20歳代の女性では、30歳代の女性に比べて、4.4ポイント高くなっている。



【地域別】

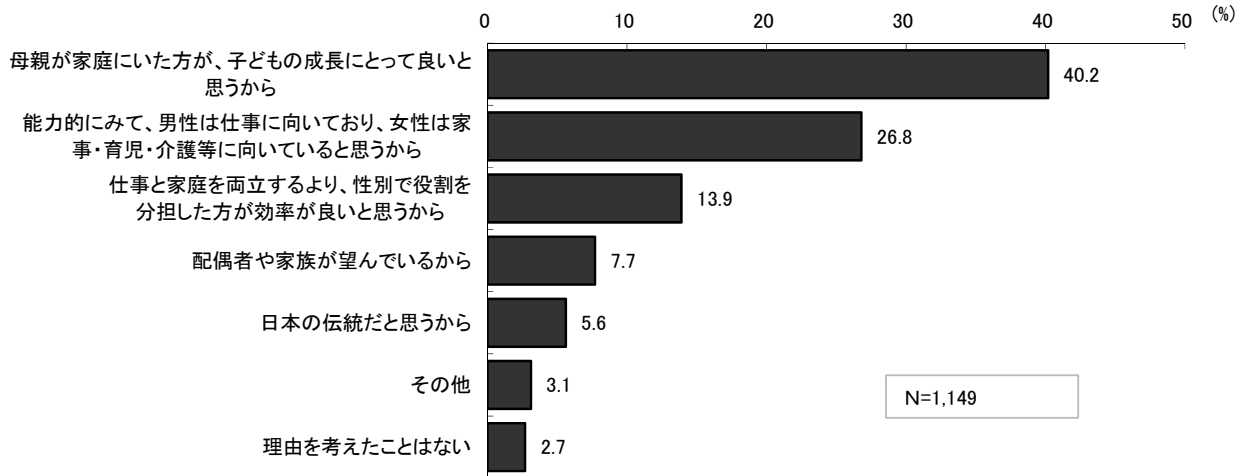
『同感しない』は湖東地域（60.5%）、東近江地域（58.5%）で多くなっている。



4 「同感する」「どちらかといえば同感する方である」と考える理由

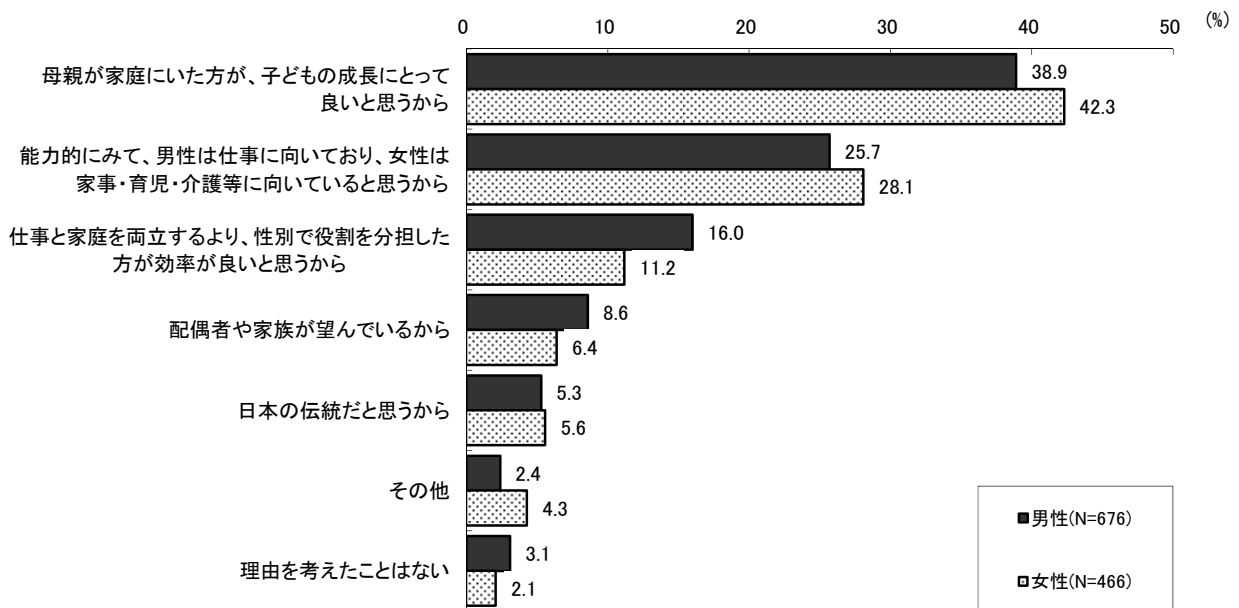
●「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が40.2%

「男性が仕事をし、女性が家庭を守るべき」という考え方に『同感する』理由は、「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」が最も多く、40.2%となっている。



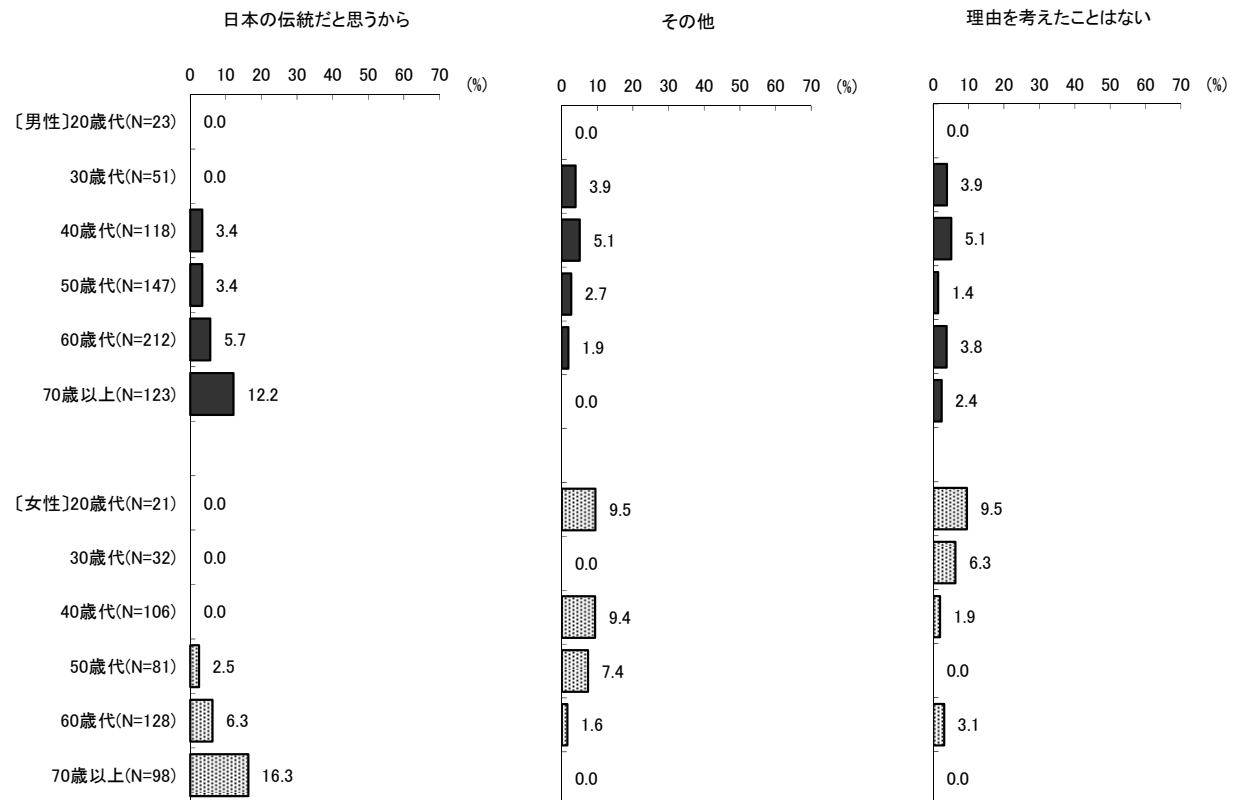
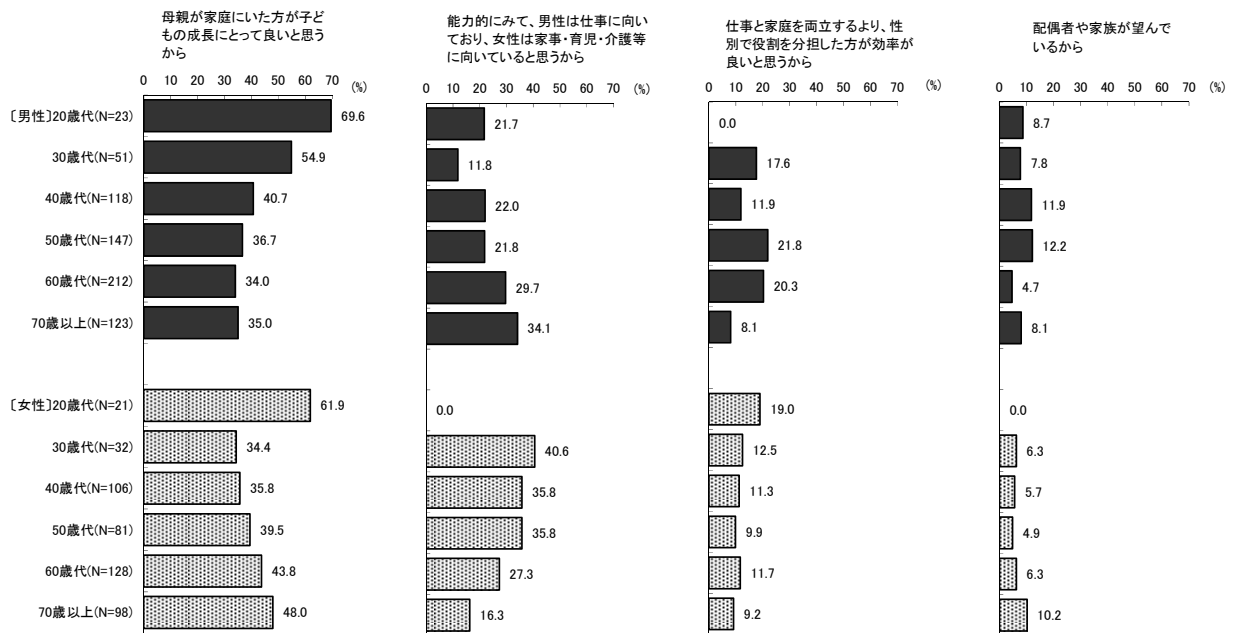
【性別】

「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」は男性 38.9%に対し、女性が 42.3%であり女性の方が 3.4 ポイント上回っている。また、「能力的にみて、男性は仕事に向いており、女性は家事・育児・介護等に向いていると思うから」も男性 25.7%に対し、女性が 28.1%であり女性の方が 2.4 ポイント上回っている。



【性・年代別】

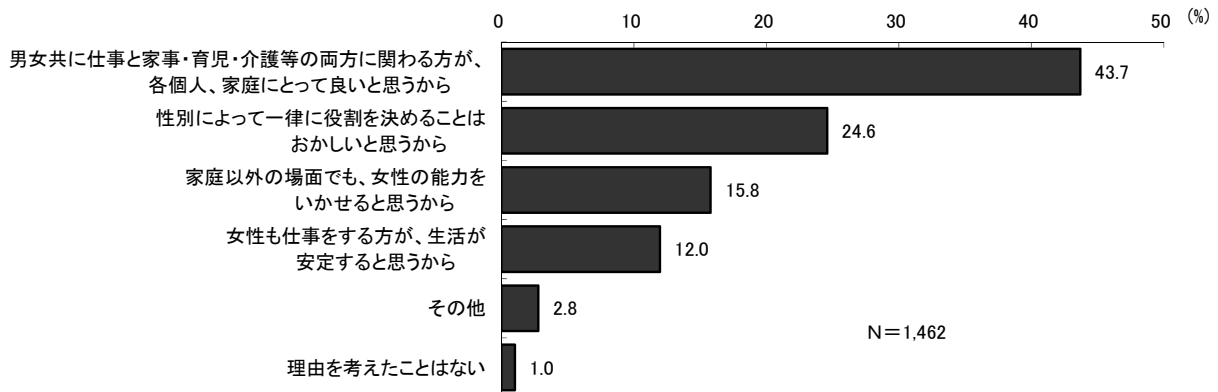
「母親が家庭にいた方が、子どもの成長にとって良いと思うから」は 20 歳代の男女、30 歳代の男性で多くなっている。



5 「どちらかといえば同感しない方である」「同感しない」と考える理由

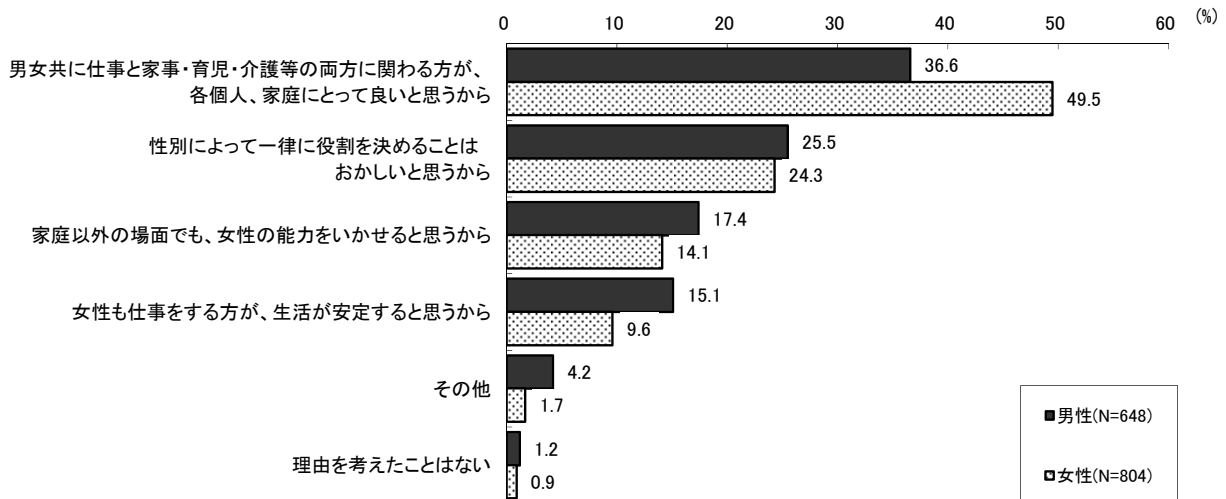
●「男女共に仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が43.7%

「男女共に仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」が43.7%で最も多く、次いで「性別によって一律に役割を決めることはおかしいと思うから」が24.6%である。



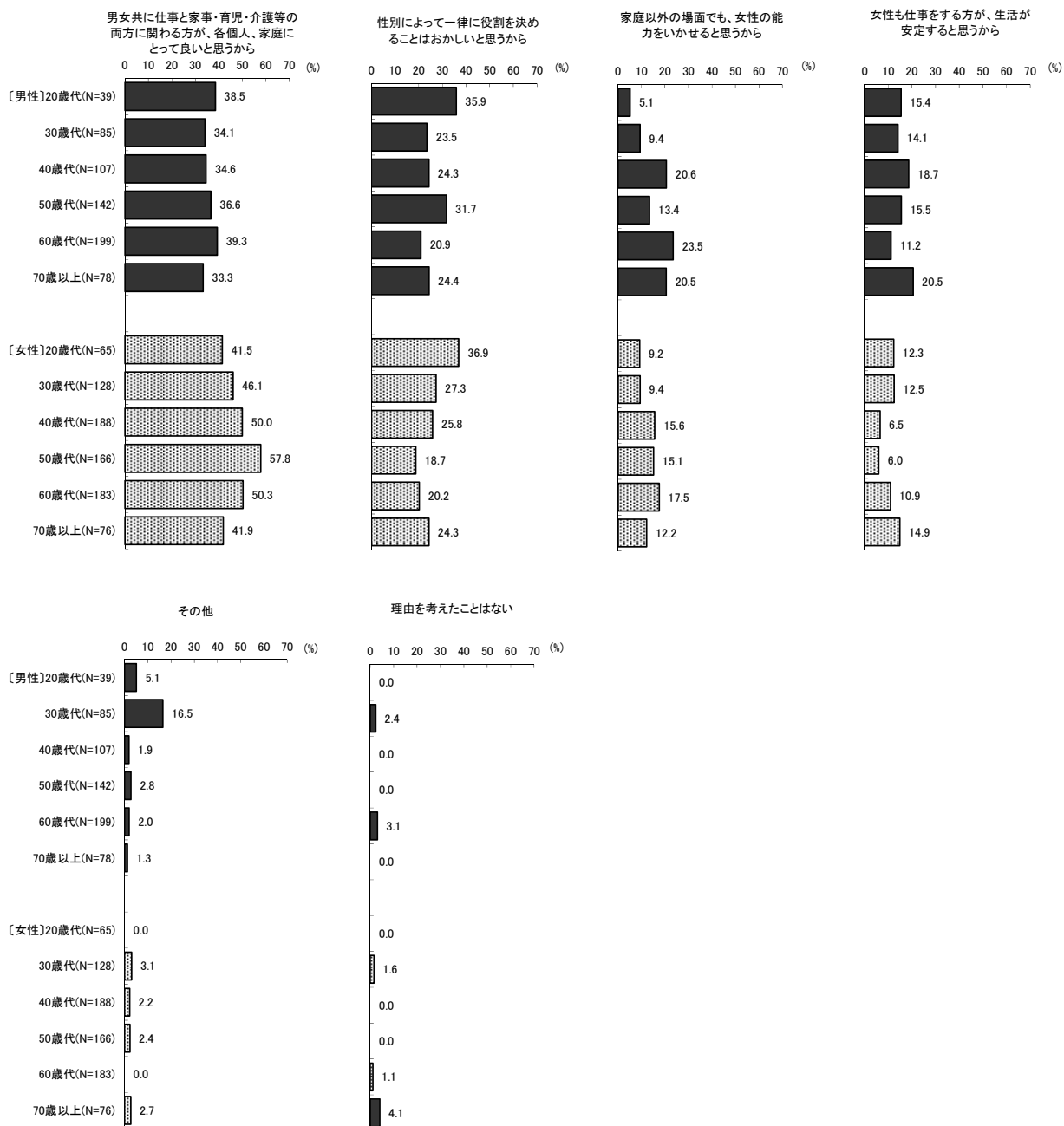
【性別】

「男女共に仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」は男性36.6%に対し、女性が49.5%であり女性の方が12.9ポイント上回っている。



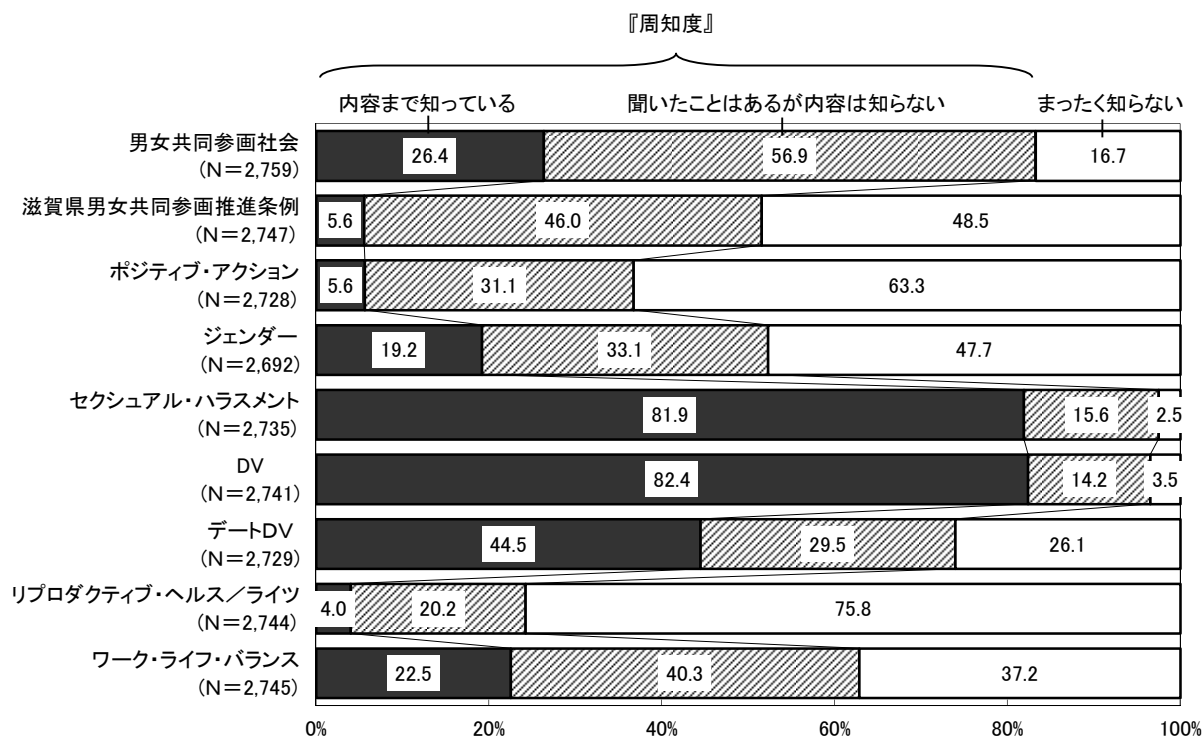
【性・年代別】

「男女共に仕事と家事・育児・介護等の両方に関わる方が、各個人、家庭にとって良いと思うから」は40歳代～60歳代の女性に多い。



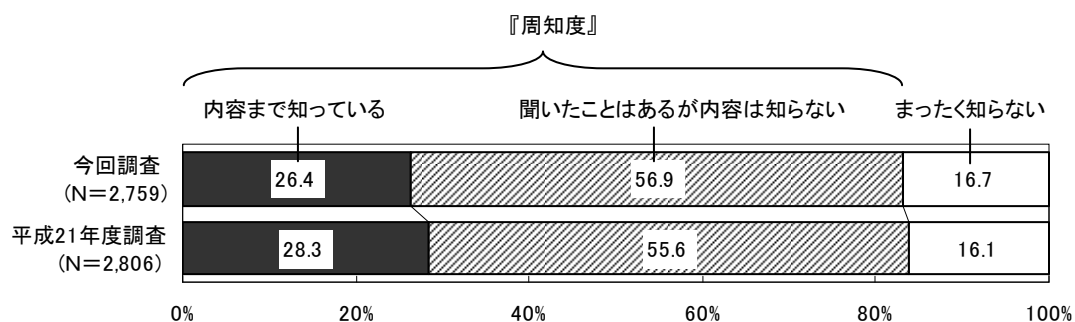
6 制度や用語の周知度

- 『周知度』（「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計）が最も高いのは「セクシュアル・ハラスメント」97.5%であり、次いで「DV（ドメスティック・バイオレンス）」96.6%となっている。一方、周知度が低いのは「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」24.2%、「ポジティブ・アクション」36.7%となっている。



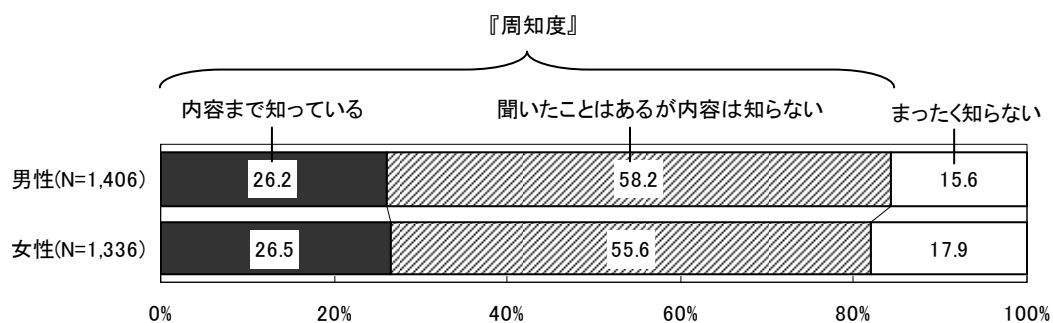
(1) 男女共同参画社会

「男女共同参画社会」の『周知度』は83.3%で、平成21年度調査と比較して、0.6ポイント低下している。



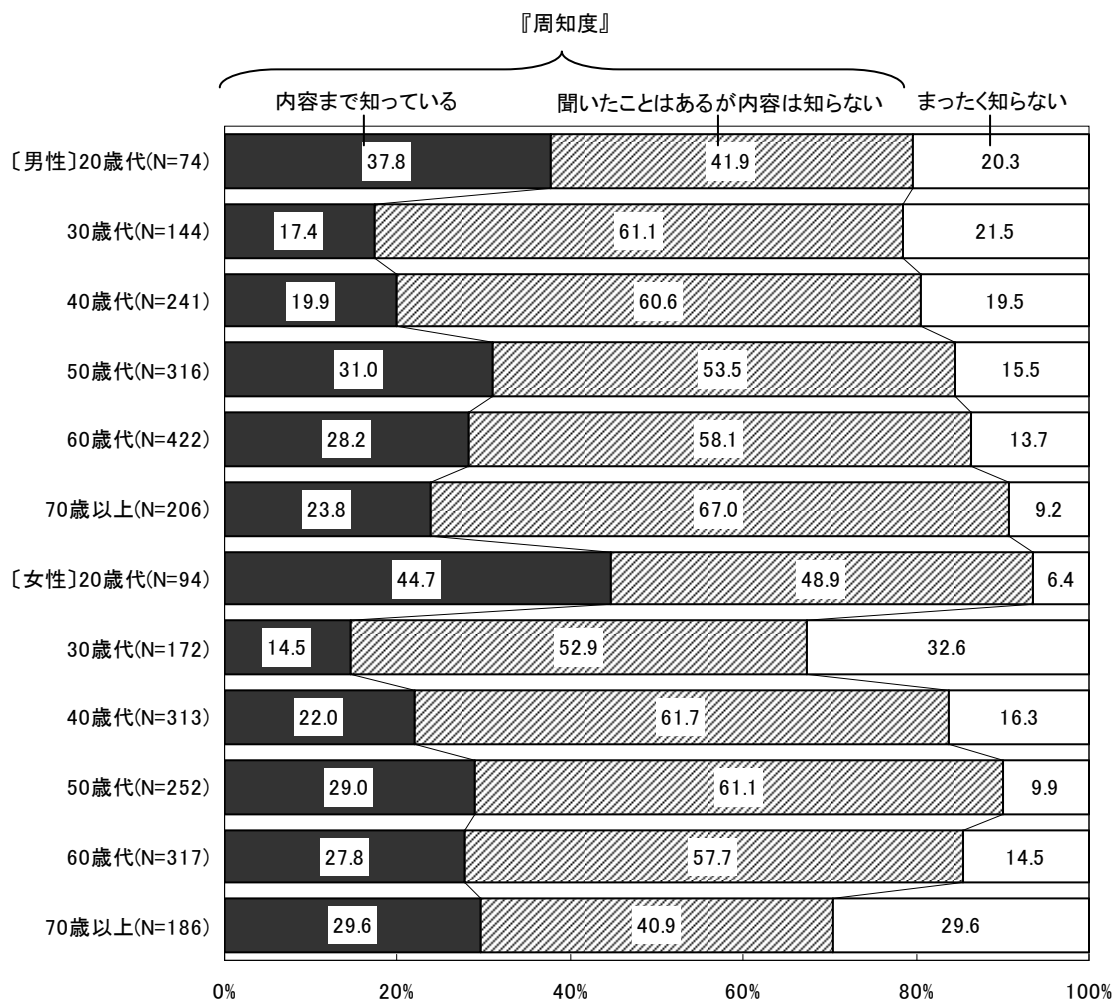
【性別】

『周知度』は男性84.4%、女性82.1%で男性の方がやや高くなっている。



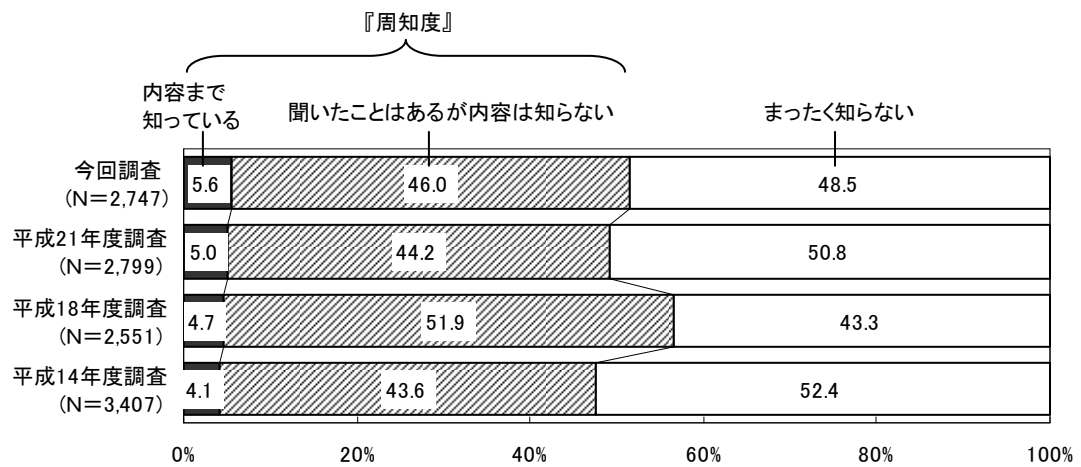
【性・年代別】

「内容まで知っている」は、20歳代の男女で多くなっているが、30歳代の男女では少なくなっている。



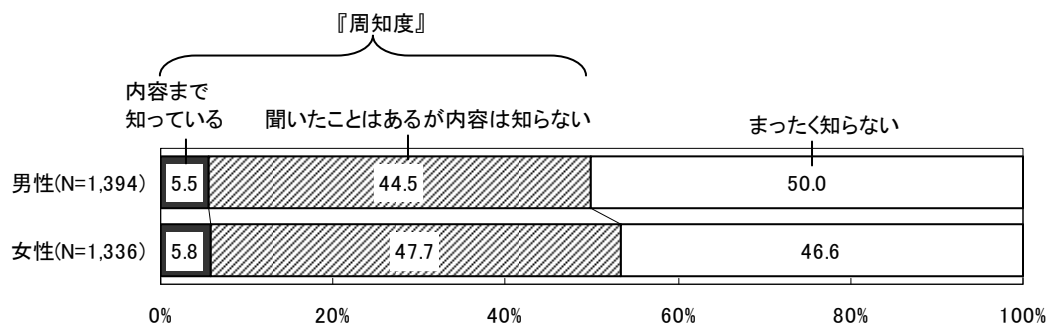
(2) 滋賀県男女共同参画推進条例

「滋賀県男女共同参画推進条例」の『周知度』は51.6%で、平成21年度調査と比較して、2.4ポイント上昇している。



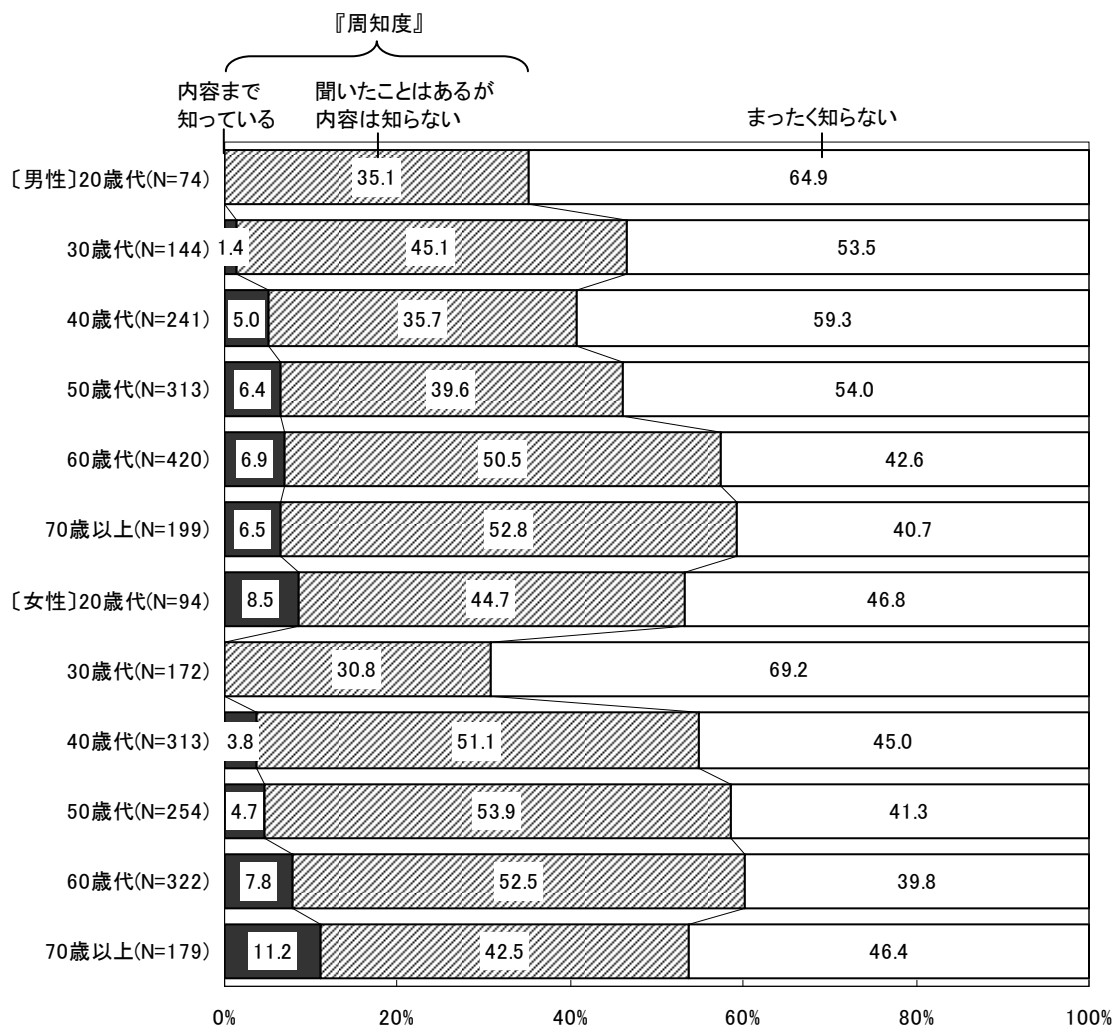
【性別】

『周知度』は男性50.0%、女性53.5%と女性の方がやや高くなっている。



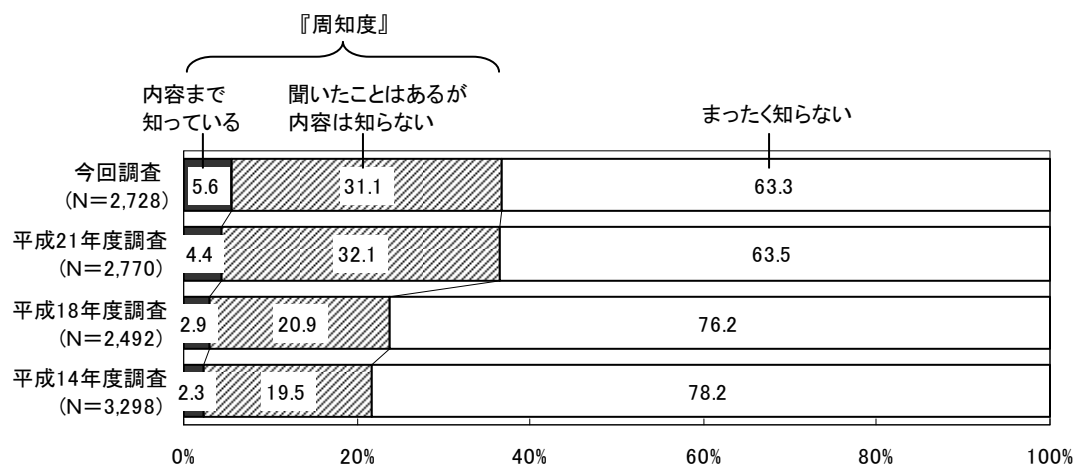
【性・年代別】

『周知度』は、男女とも年齢とともに高くなる傾向にあるが、30歳代の女性では、低くなっている。



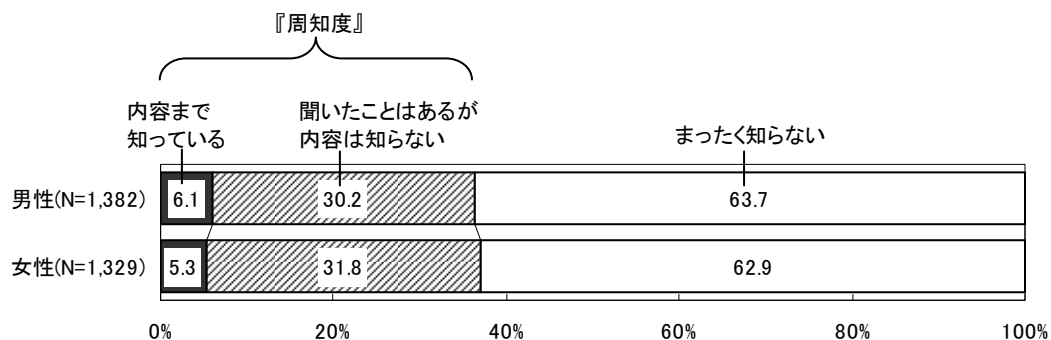
(3) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

「ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」の『周知度』は36.7%で、平成21年度調査と比較して、0.2ポイント上昇している。



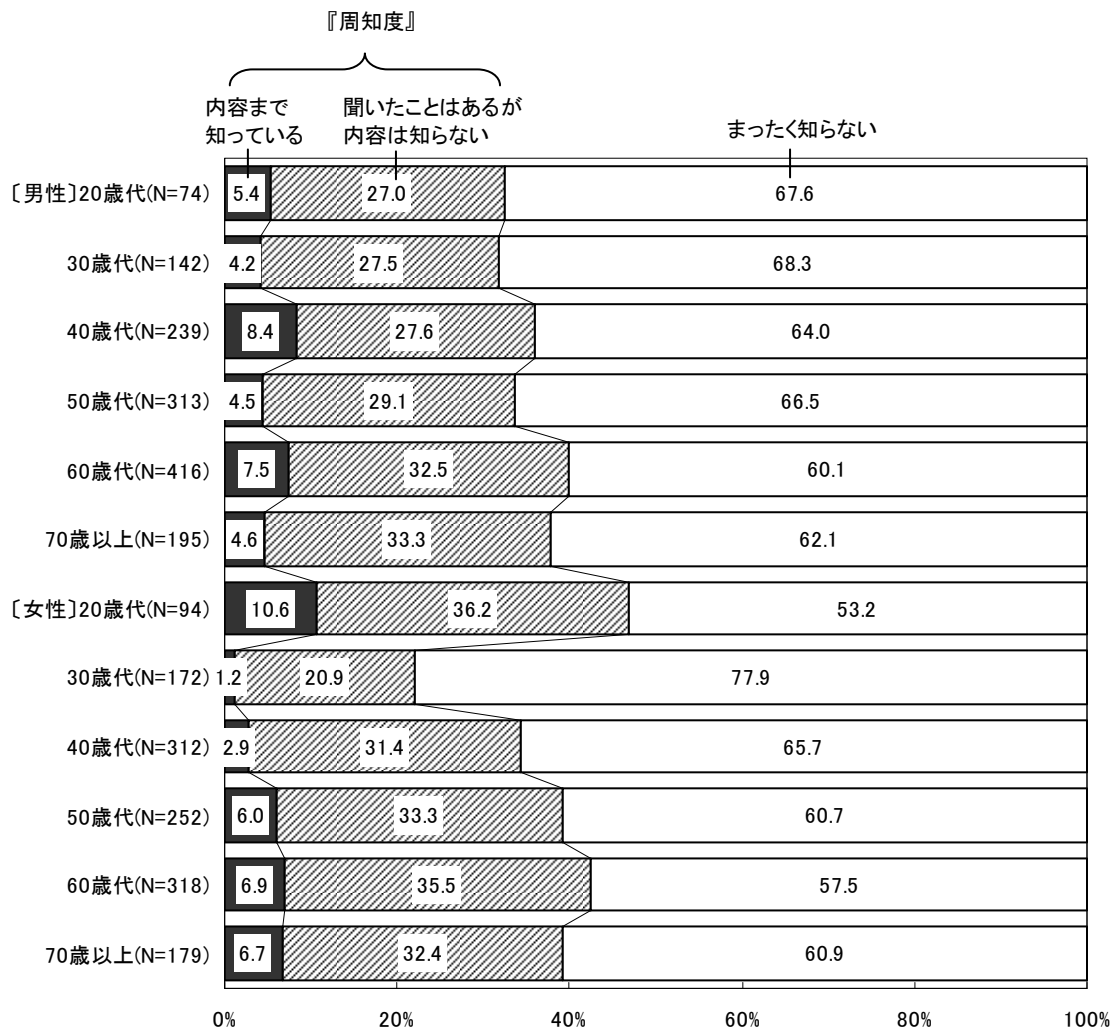
【性別】

『周知度』は、男性36.3%、女性37.1%で男女間に大きな差は見られない。



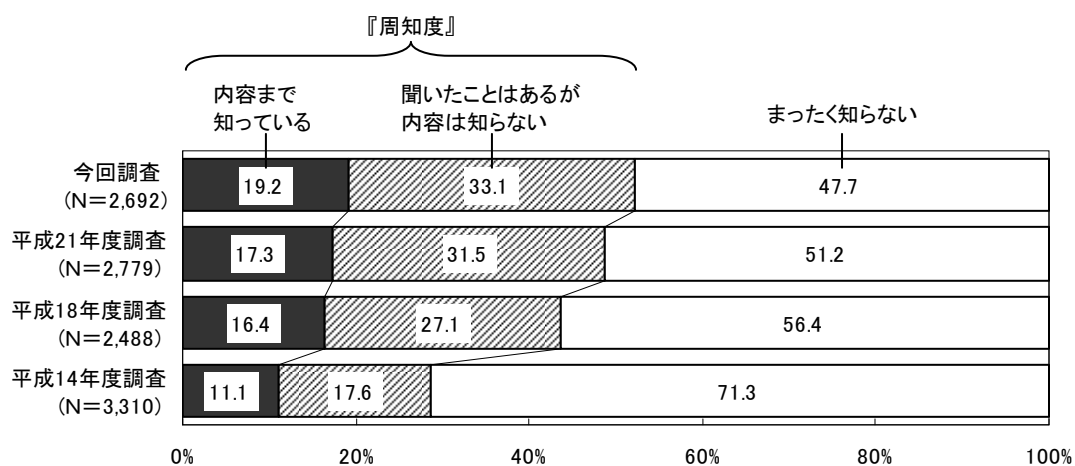
【性・年代別】

『周知度』は、20歳代の女性が46.8%と最も高く、一方30歳代の女性が22.1%と最も低くなっている。



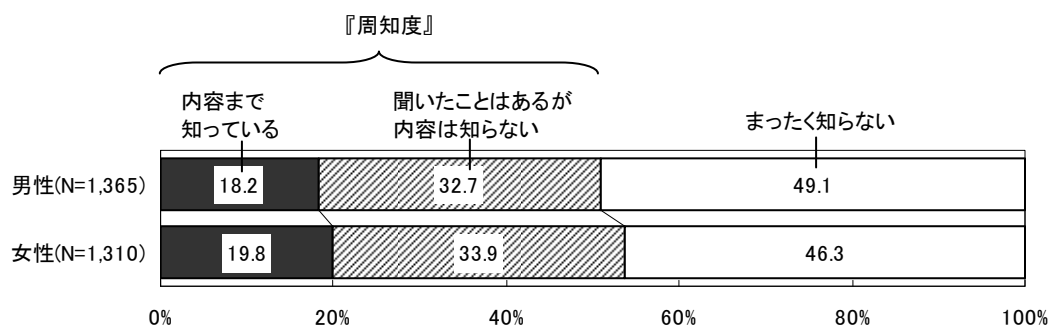
(4)ジェンダー(社会的性別)

「ジェンダー(社会的性別)」の『周知度』は52.3%で、平成21年度調査と比較して、3.5ポイント上昇している。



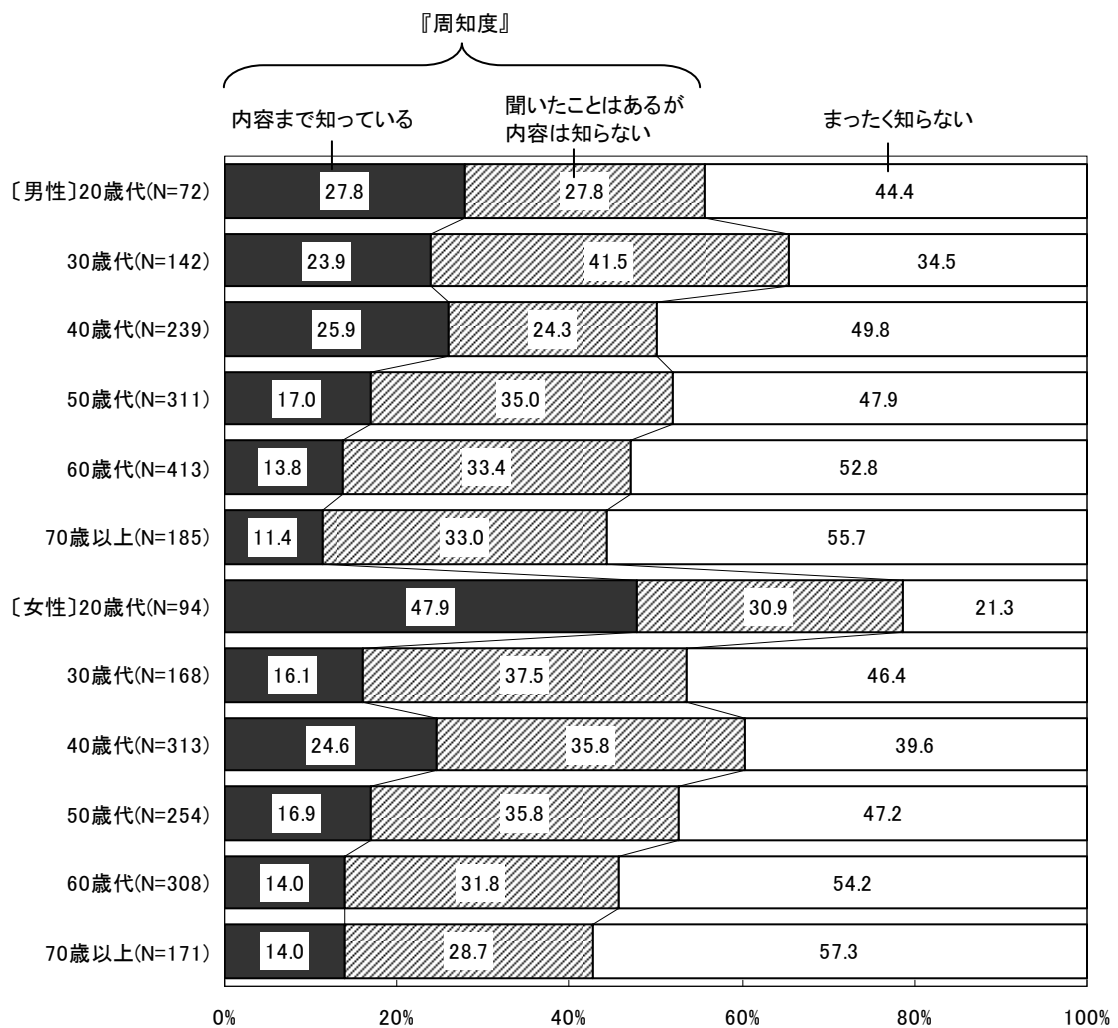
【性別】

『周知度』は、男性50.9%、女性53.7%で女性の方がやや高い。



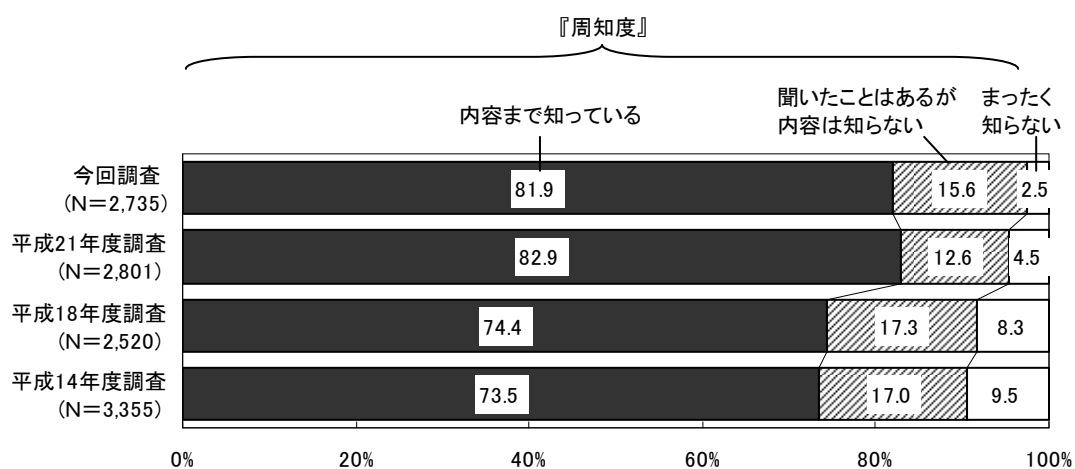
【性・年代別】

「内容まで知っている」は20歳代の女性が最も多く、47.9%となっている。



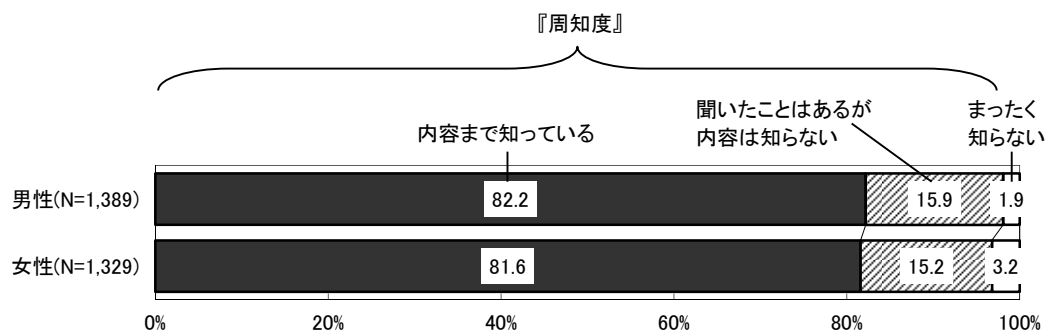
(5) セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）

「セクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の『周知度』は 97.5%で、平成21年度調査と比較して、2.0ポイント上昇している。



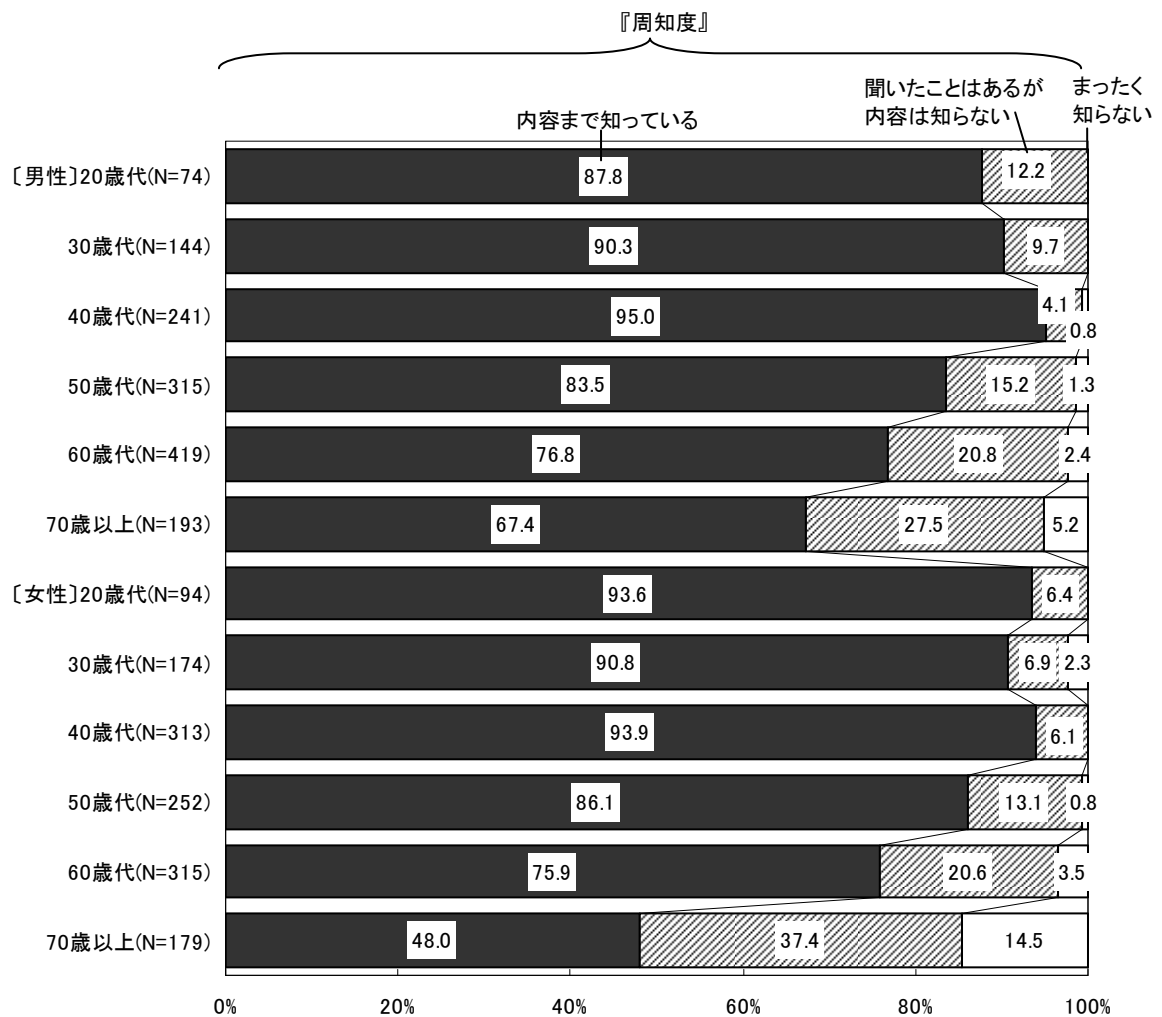
【性別】

『周知度』は男性 98.1%、女性 96.8%で男性の方がやや高い。



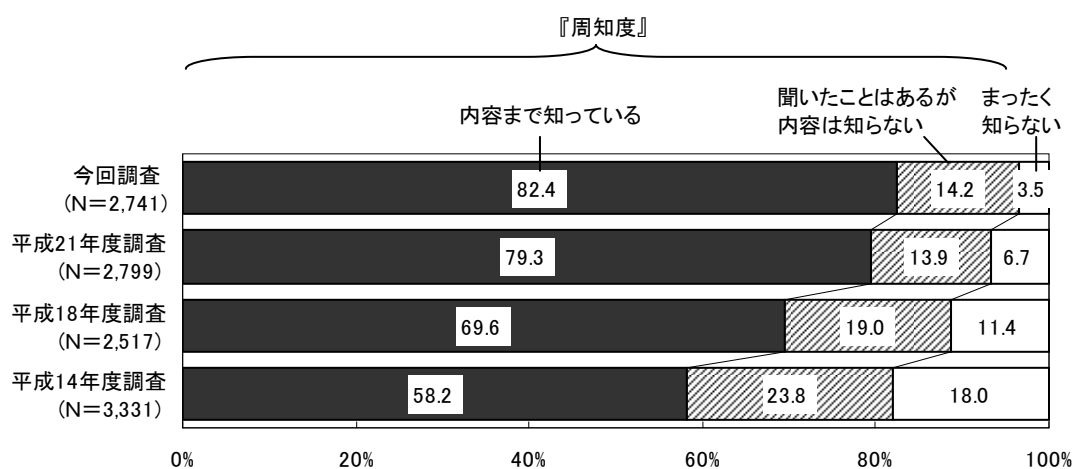
【性・年代別】

『周知度』は、20歳代、30歳代の男性、20歳代、40歳代の女性で100%となっている。



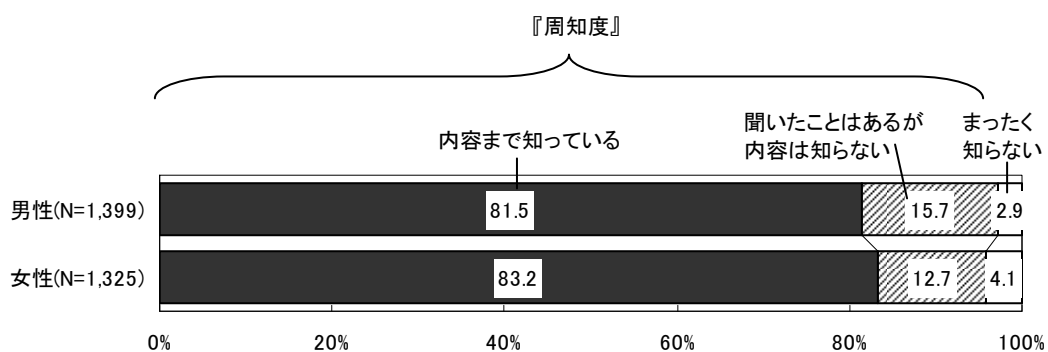
(6) DV (ドメスティック・バイオレンス、配偶者・パートナーからの暴力)

「DV (ドメスティック・バイオレンス、配偶者・パートナーからの暴力)」の『周知度』は 96.6%で、平成 21 年度調査と比較して、3.4 ポイント上昇している。



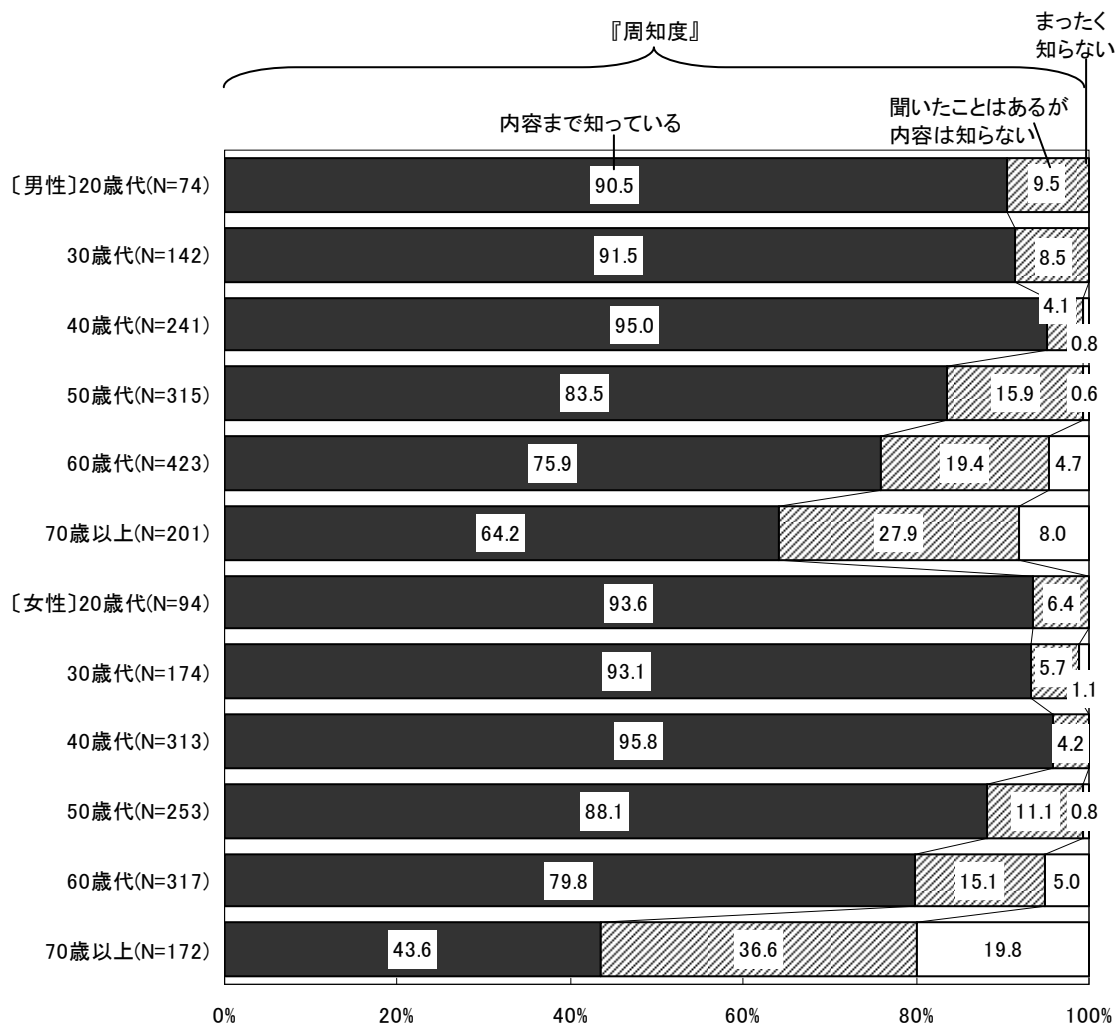
【性別】

『周知度』は、男性 97.2%、女性 95.9%で男性の方がやや高い。



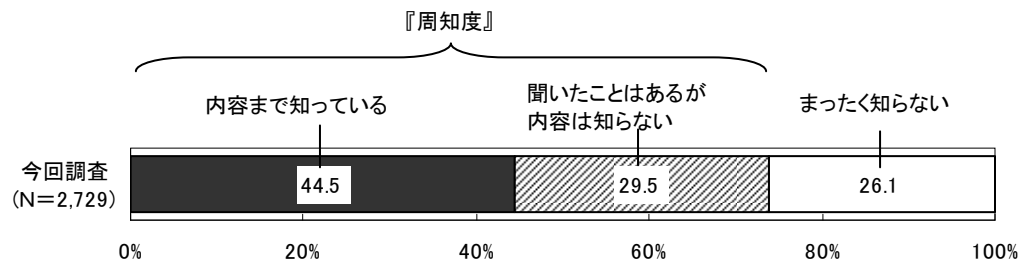
【性・年代別】

『周知度』は、20歳代、30歳代の男性、20歳代、40歳代の女性で100%となっている。



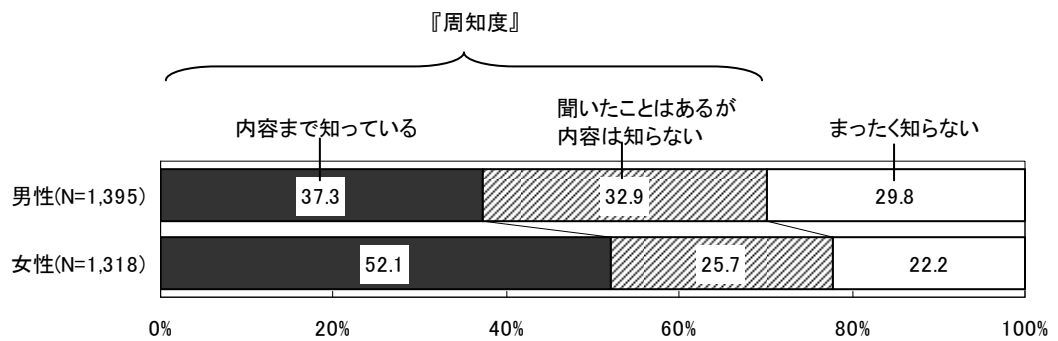
(7) デートDV（恋人間に起こるDV）

「デートDV（恋人間に起こるDV）」の『周知度』は、74.0%となっている。



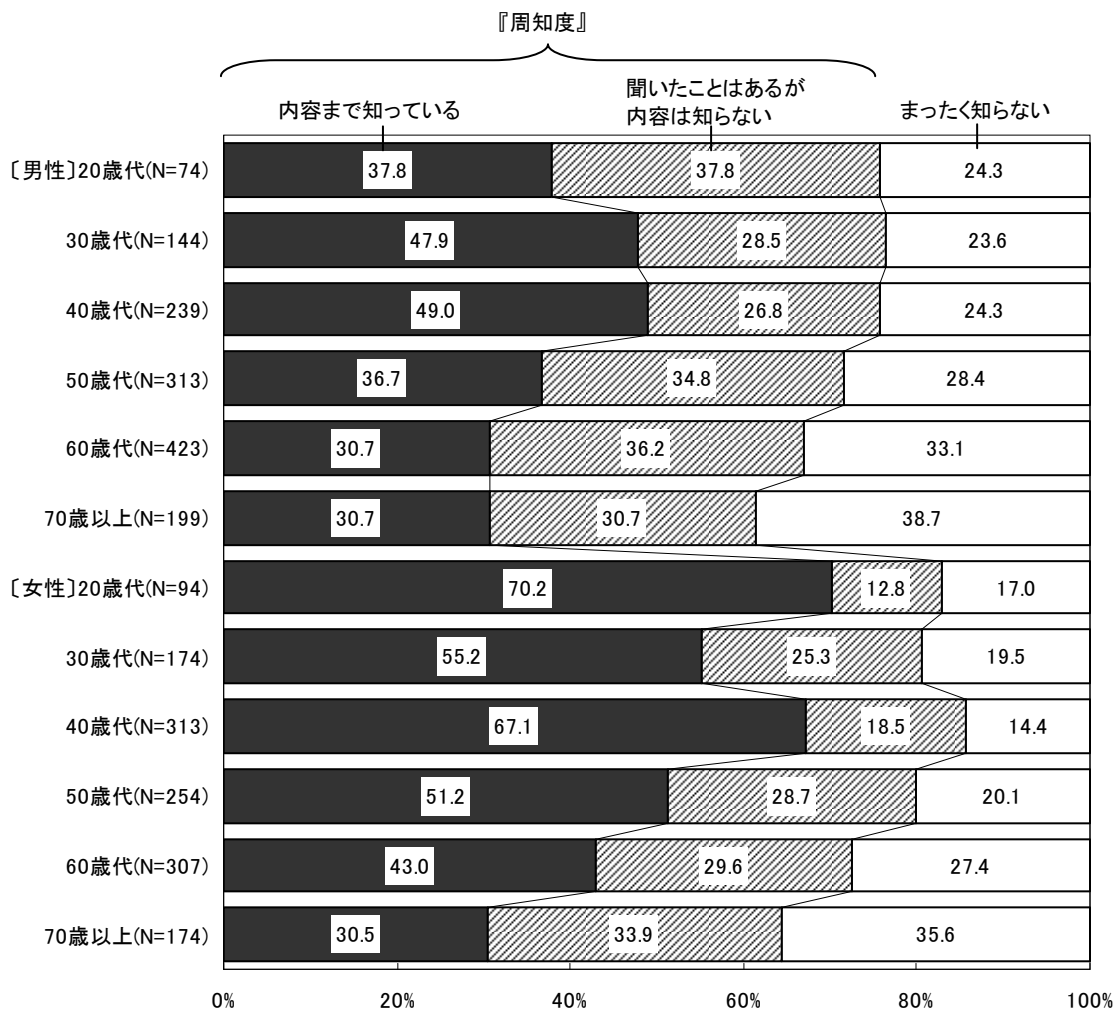
【性別】

『周知度』は、男性 70.2%、女性 77.8%で女性の方が高い。



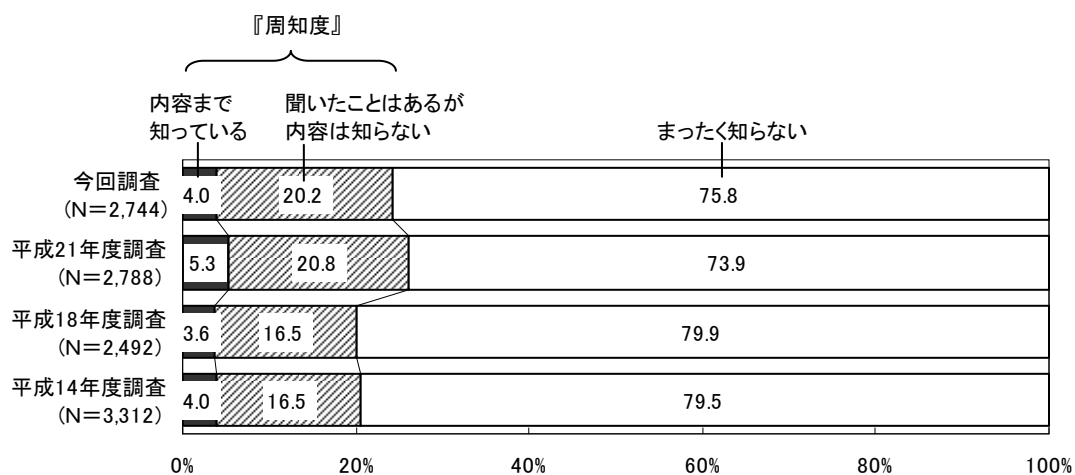
【性・年代別】

『周知度』は、20歳代～50歳代の女性で高くなっている。



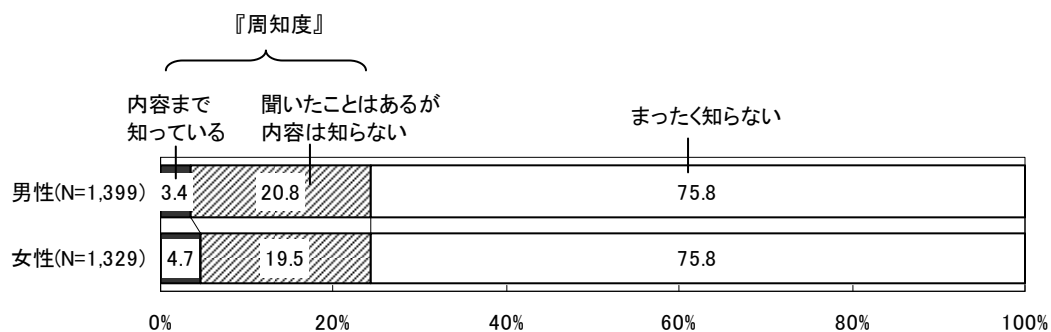
(8) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）」の『周知度』は、24.2%で、平成21年度調査と比較して、1.9ポイント低下している。



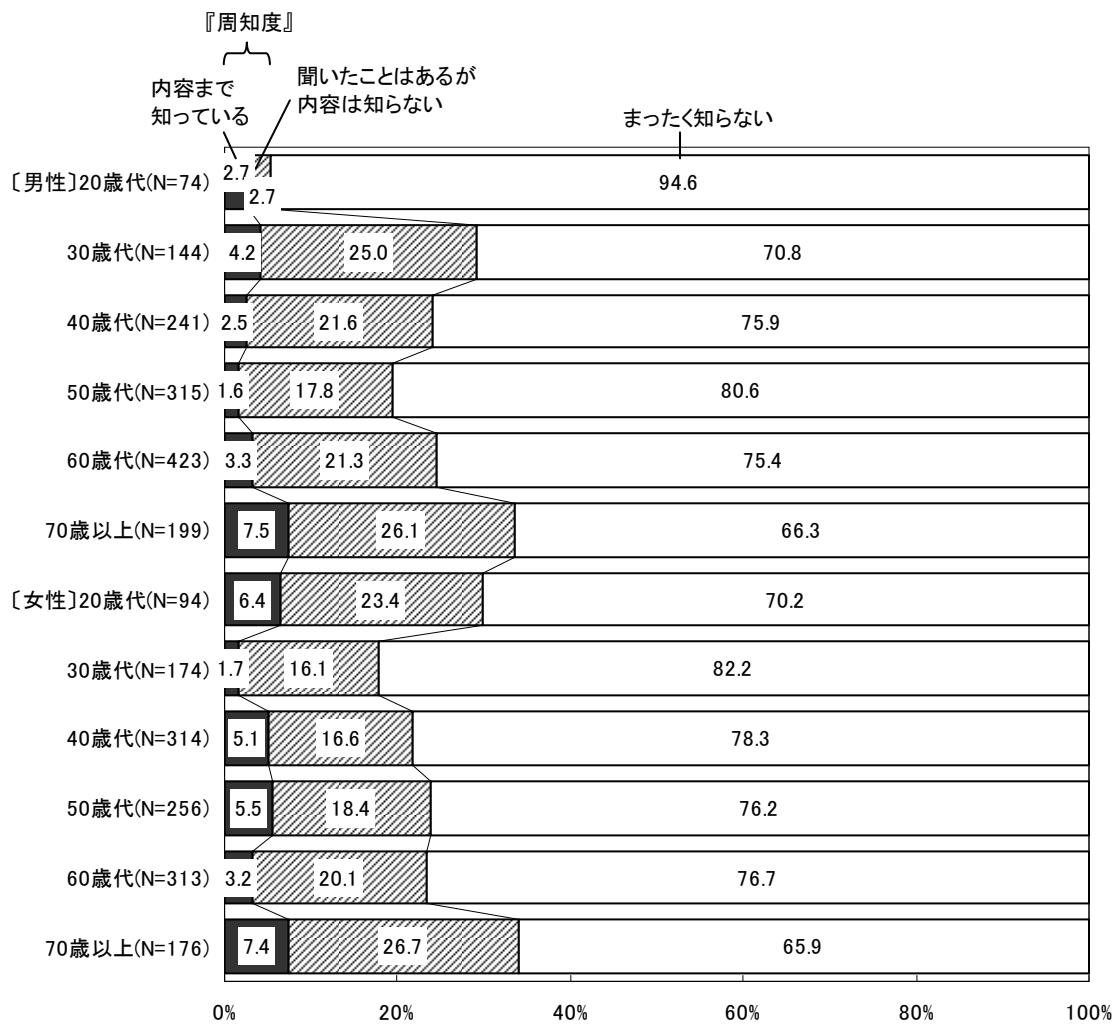
【性別】

『周知度』は、男女ともに24.2%となっている。



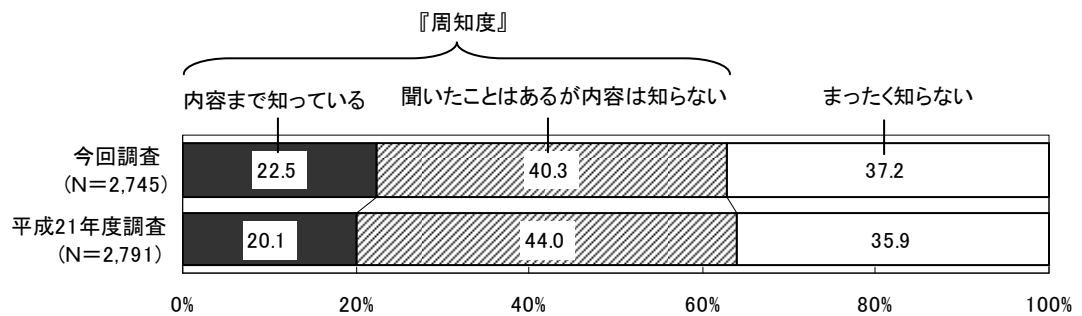
【性・年代別】

『周知度』は、70歳以上の男女で高くなっている。



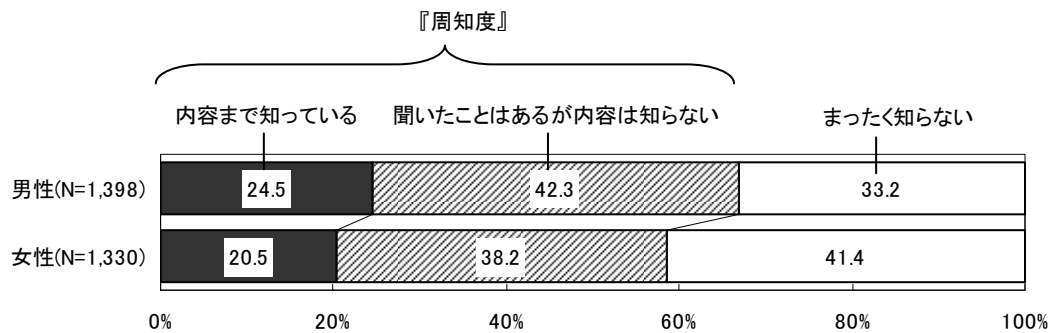
(9) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」の『周知度』は、62.8%で、平成21年度調査と比較して、1.3ポイント低下している。



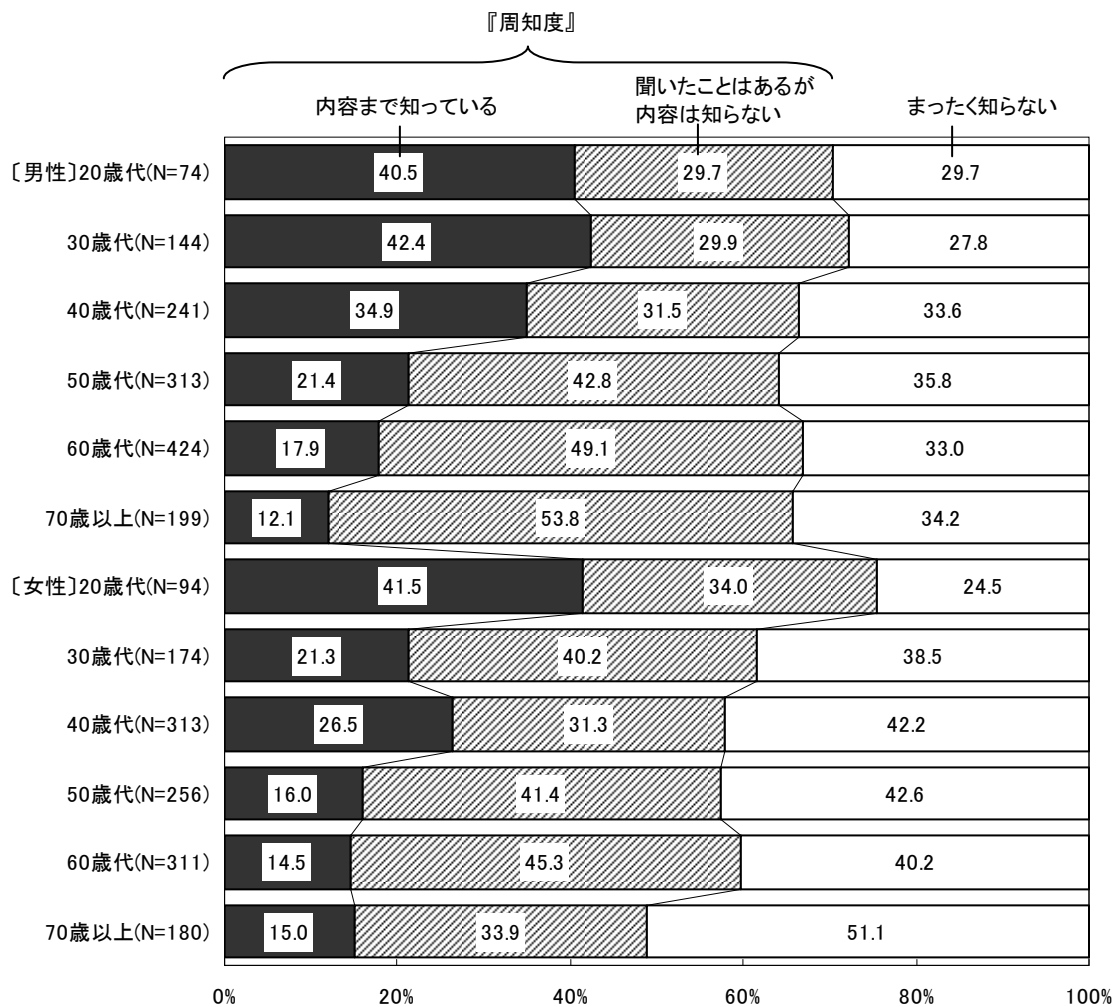
【性別】

『周知度』は、男性 66.8%、女性 58.7%で男性の方が高い。



【性・年代別】

「内容まで知っている」は、20歳代の男女、30歳代の男性で高くなっている。



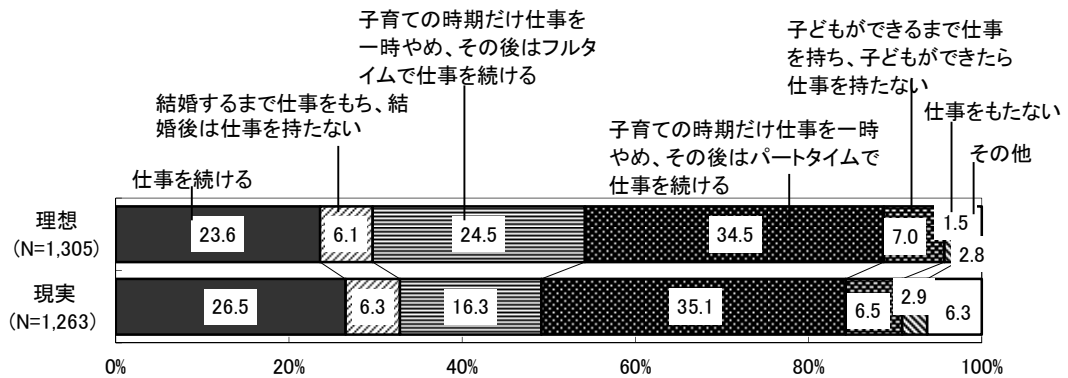
2 女性の働き方について

1 女性自身が考える理想の働き方と現実の働き方

●理想と現実ともに「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も多い

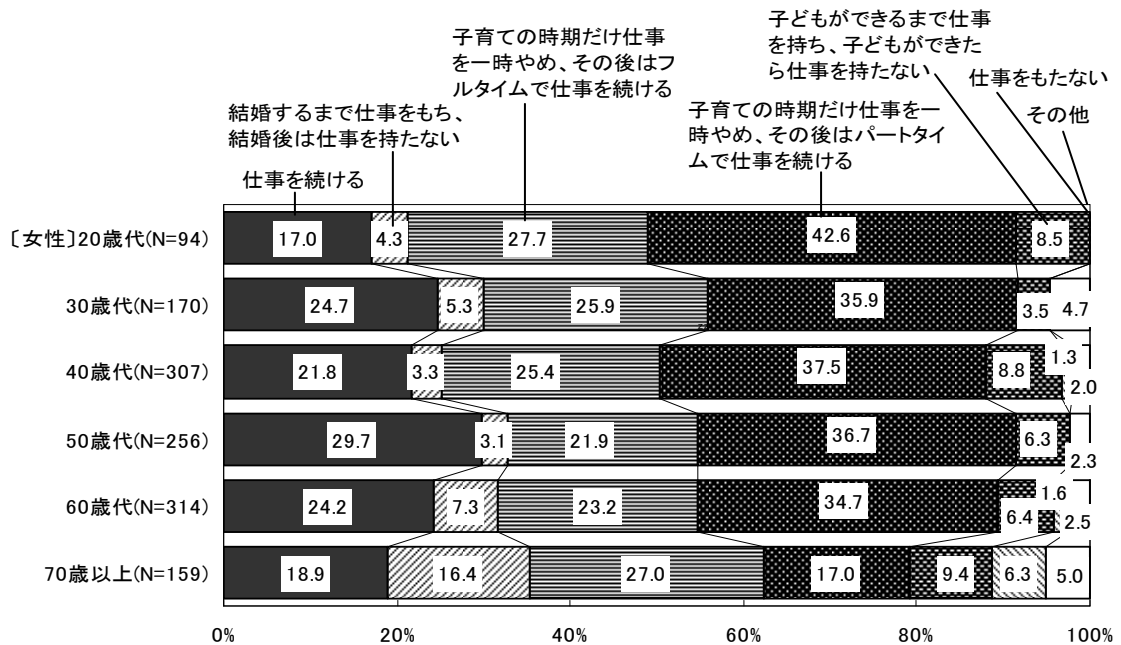
女性自身の考える『理想』の働き方は、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(34.5%)が最も多く、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(24.5%)、「仕事を続ける」(23.6%)が多くなっている。

一方、『現実』の働き方は、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(35.1%)が最も多く、次いで「仕事を続ける」(26.5%)、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(16.3%)が多くなっている。



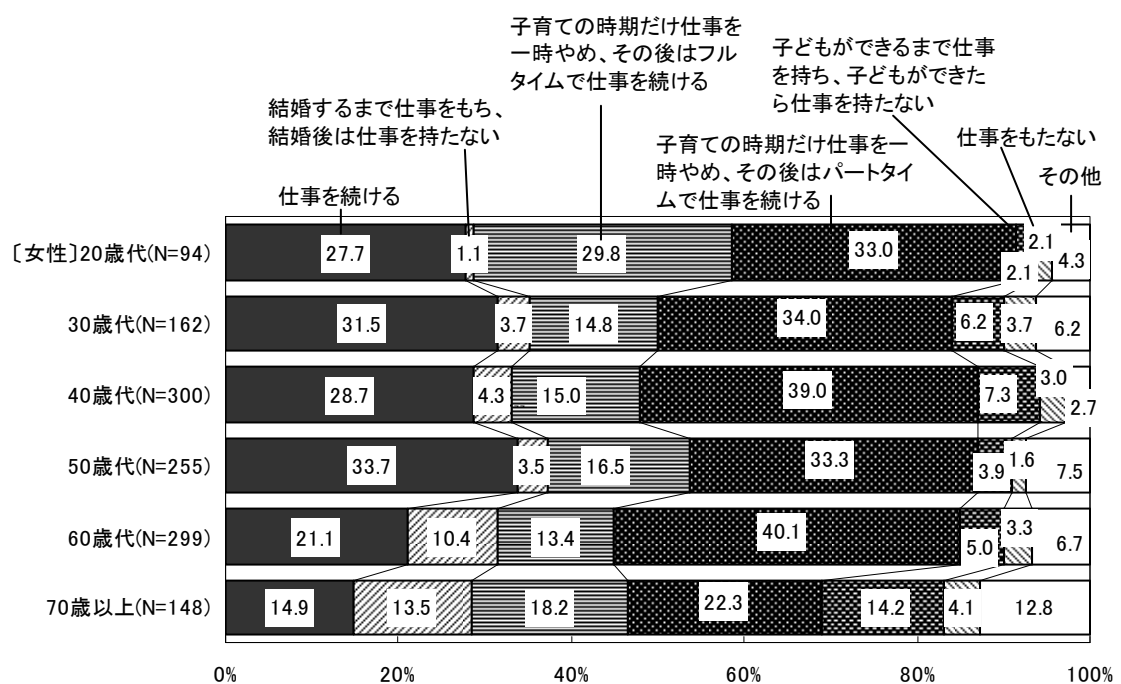
【『理想』の働き方の性・年代別】

「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」と「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」はともに20歳代の女性で最も多い。「仕事を続ける」は50歳代の女性で最も多い。



【『現実』の働き方の性・年代別】

「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」は60歳代の女性で最も多く、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」は20歳代の女性で最も多い。また、「仕事を続ける」は、50歳代の女性で最も多い。



【女性の働き方の『理想』と『現実』の相関関係】

女性の働き方の理想と現実を比較すると、「仕事を続ける」を理想とする回答者の51.0%が現実と一致しており、また、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」を理想としている回答者の48.7%が現実と一致している。

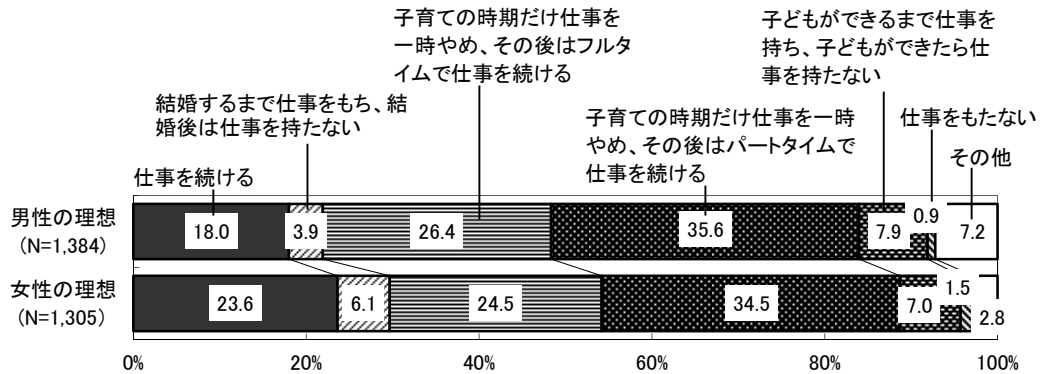
他方、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」、「子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら仕事をもちたくない」を理想としながらも、現実には「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」となる傾向が表れている。

理想 \ 現実	合計	仕事を続ける	結婚まで働き後仕事をやめる	子育ての時期はやめ、その後フルタイム	子育ての時期はやめ、その後パートタイム	子どもができたなら仕事をもちたくない	結婚後は仕事をもちたくない	その他
合計	1,253	335	75	206	442	82	37	76
	100.0%	26.7%	6.0%	16.4%	35.3%	6.5%	3.0%	6.1%
仕事を続ける	290	148	8	58	62	2	-	12
	100.0%	51.0%	2.8%	20.0%	21.4%	0.7%		4.1%
結婚まで働き後仕事をやめる	79	14	22	10	18	7	2	6
	100.0%	17.7%	27.8%	12.7%	22.8%	8.9%	2.5%	7.6%
子育ての時期はやめ、その後フルタイム	312	75	17	67	112	24	4	13
	100.0%	24.0%	5.4%	21.5%	35.9%	7.7%	1.3%	4.2%
子育ての時期はやめ、その後パートタイム	433	74	21	61	211	32	14	20
	100.0%	17.1%	4.8%	14.1%	48.7%	7.4%	3.2%	4.6%
子どもができたなら仕事をもちたくない	86	14	5	10	32	13	7	5
	100.0%	16.3%	5.8%	11.6%	37.2%	15.1%	8.1%	5.8%
結婚後は仕事をもちたくない	19	4	-	-	5	4	6	-
	100.0%	21.1%			26.3%	21.1%	31.6%	
その他	34	6	2	-	2	-	4	20
	100.0%	17.6%	5.9%		5.9%		11.8%	58.8%

2 男性が考える女性の理想の働き方

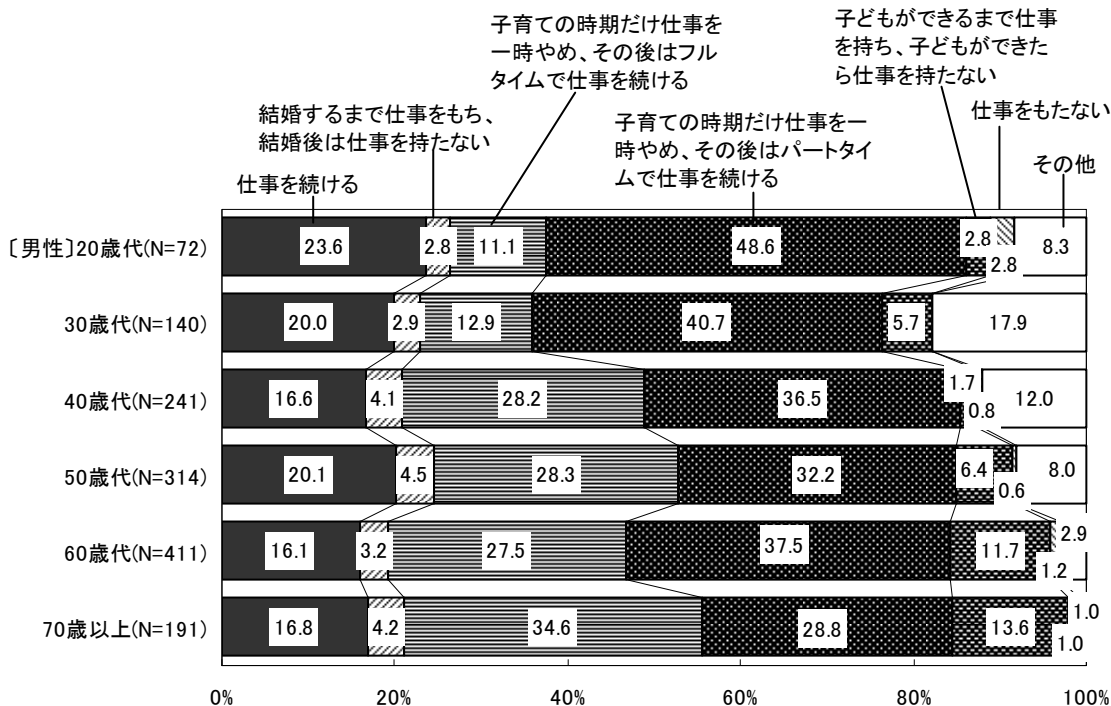
●男性の考える女性の『理想』の働き方は、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が最も多い

男性の考える女性の『理想』の働き方は、「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」(35.6%)が最も多く、次いで「子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」(26.4%)、「仕事を続ける」(18.0%)が多くなっている。女性と比較すると、「仕事を続ける」が5.6ポイント下回っている。



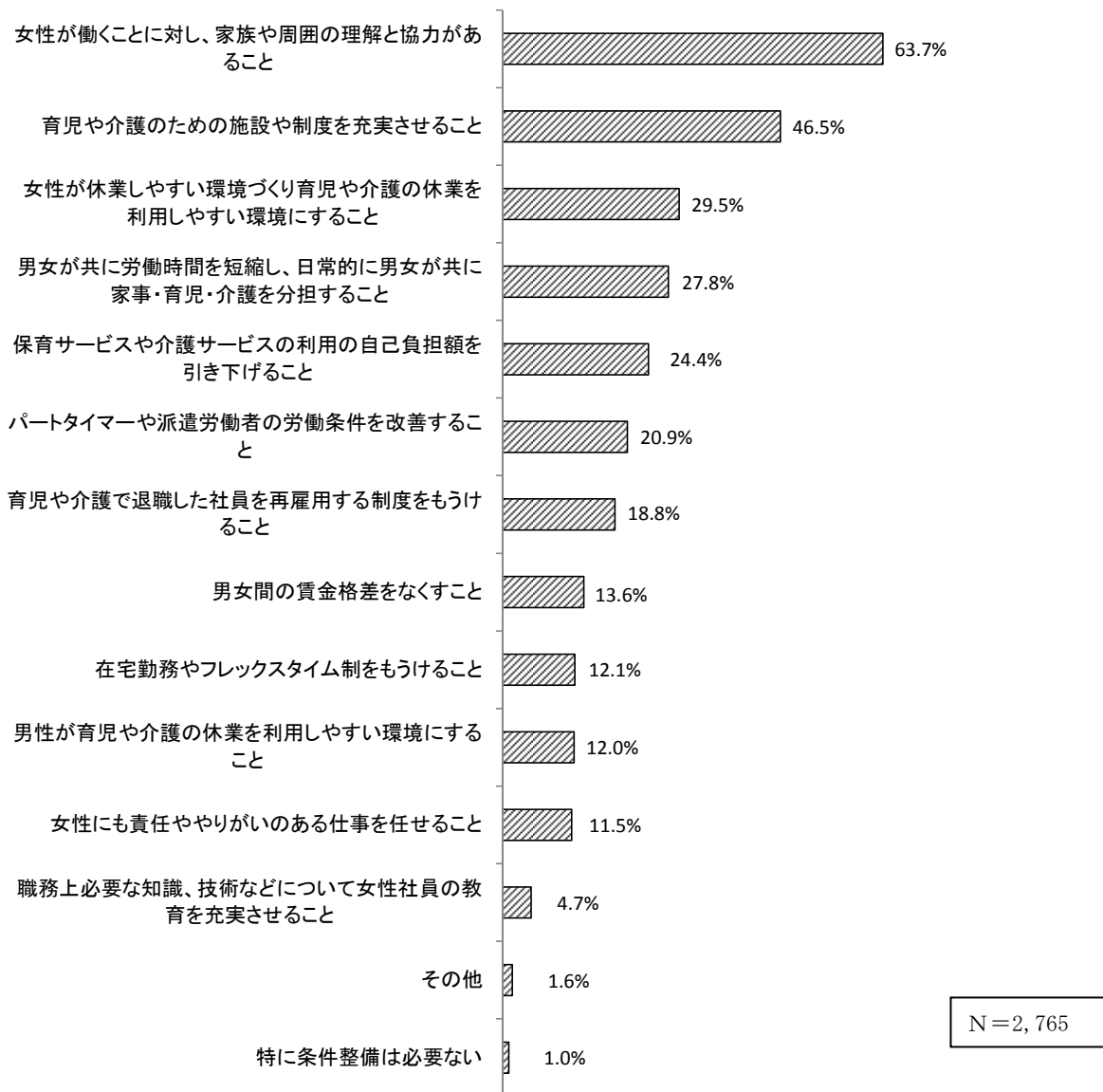
【性・年代別】

年齢が高くなるほど「子育て時期は仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける」が少なくなり、逆に「子育て時期は仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける」が多くなる傾向になっている。



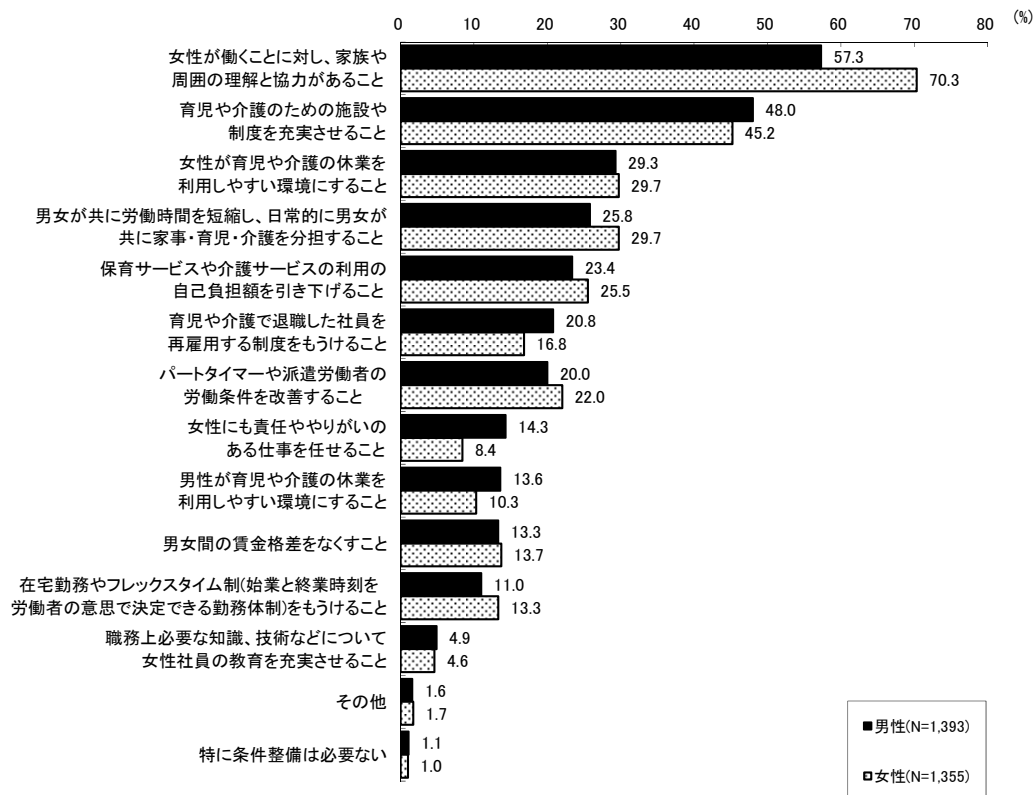
3 女性が仕事を続けていくために必要なこと（あてはまるものを3つまで選択）

●「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が最も多い



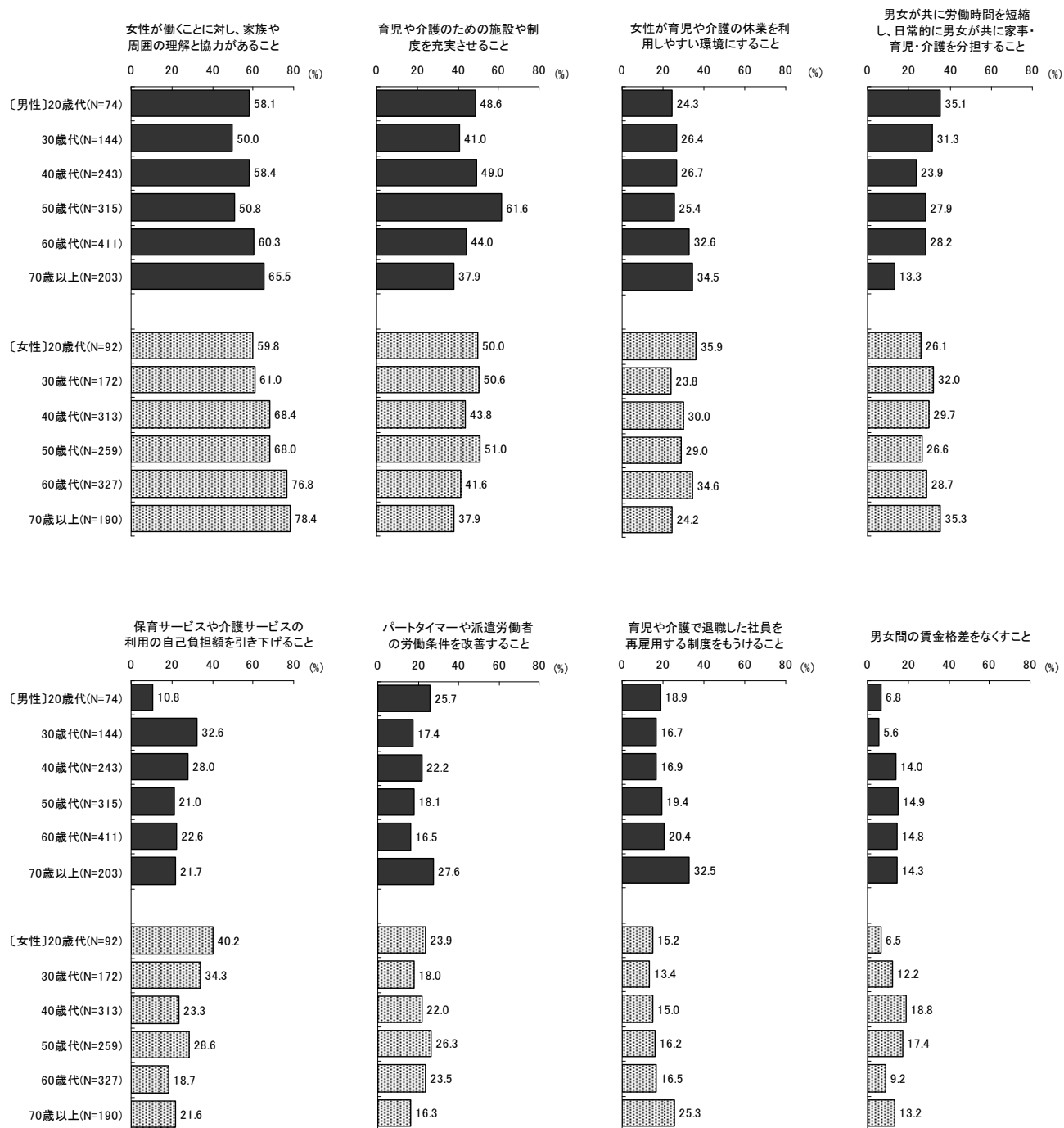
【性別】

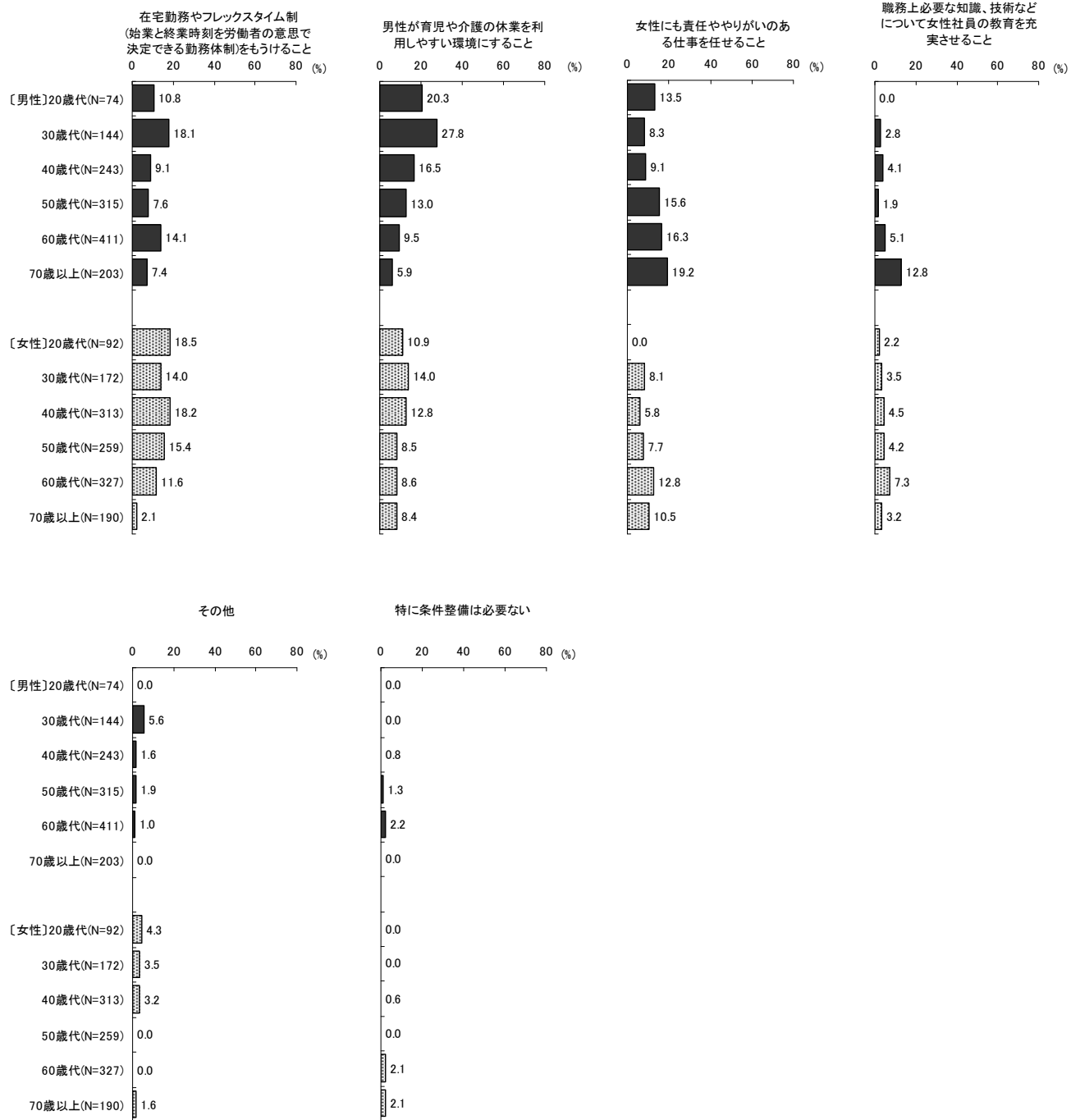
女性が仕事を続けていくために必要なことは、男女ともに「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が最も多く、女性では70.3%、男性では57.3%となっている。



【性・年代別】

「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」は、年齢が高くなるほど多くなる傾向になっている。

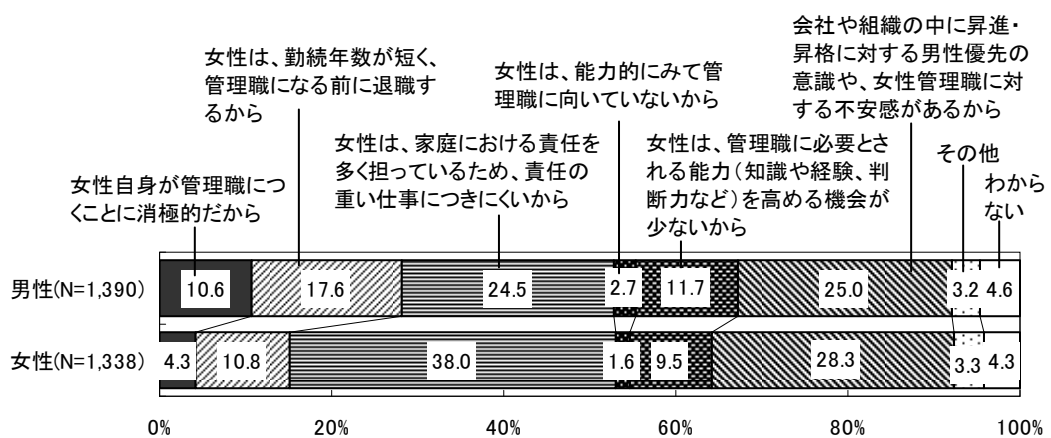




4 管理職につく女性が少ない最も大きな理由

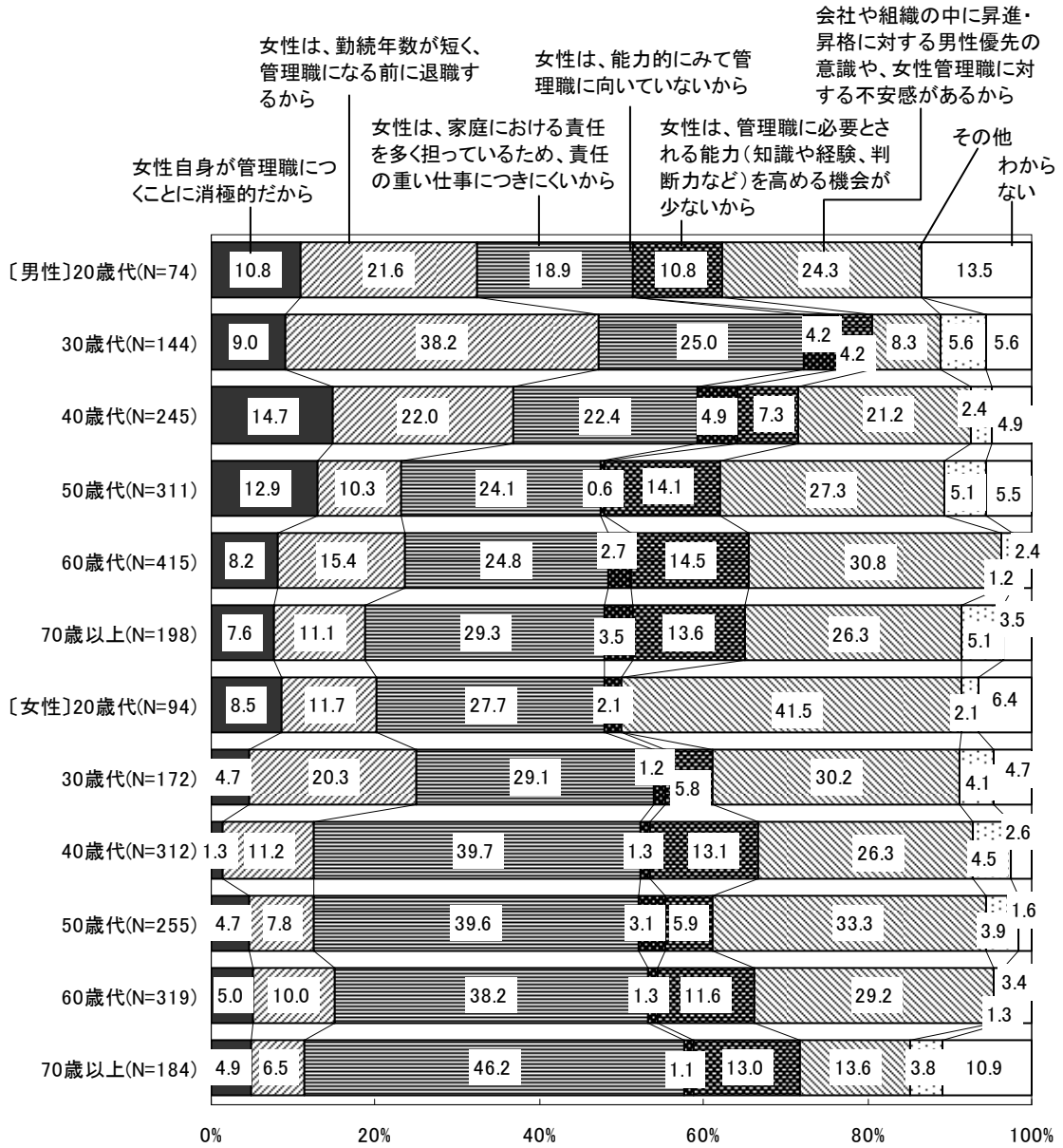
●女性では「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が最も多い

管理職につく女性が少ない最も大きな理由は、男性では「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や女性管理職に対する不安感があるから」(25.0%)と「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」(24.5%)が同程度に多くなっている。女性では、「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」(38.0%)が最も多く、「会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や女性管理職に対する不安感があるから」(28.3%)を10ポイント近く上回っている。



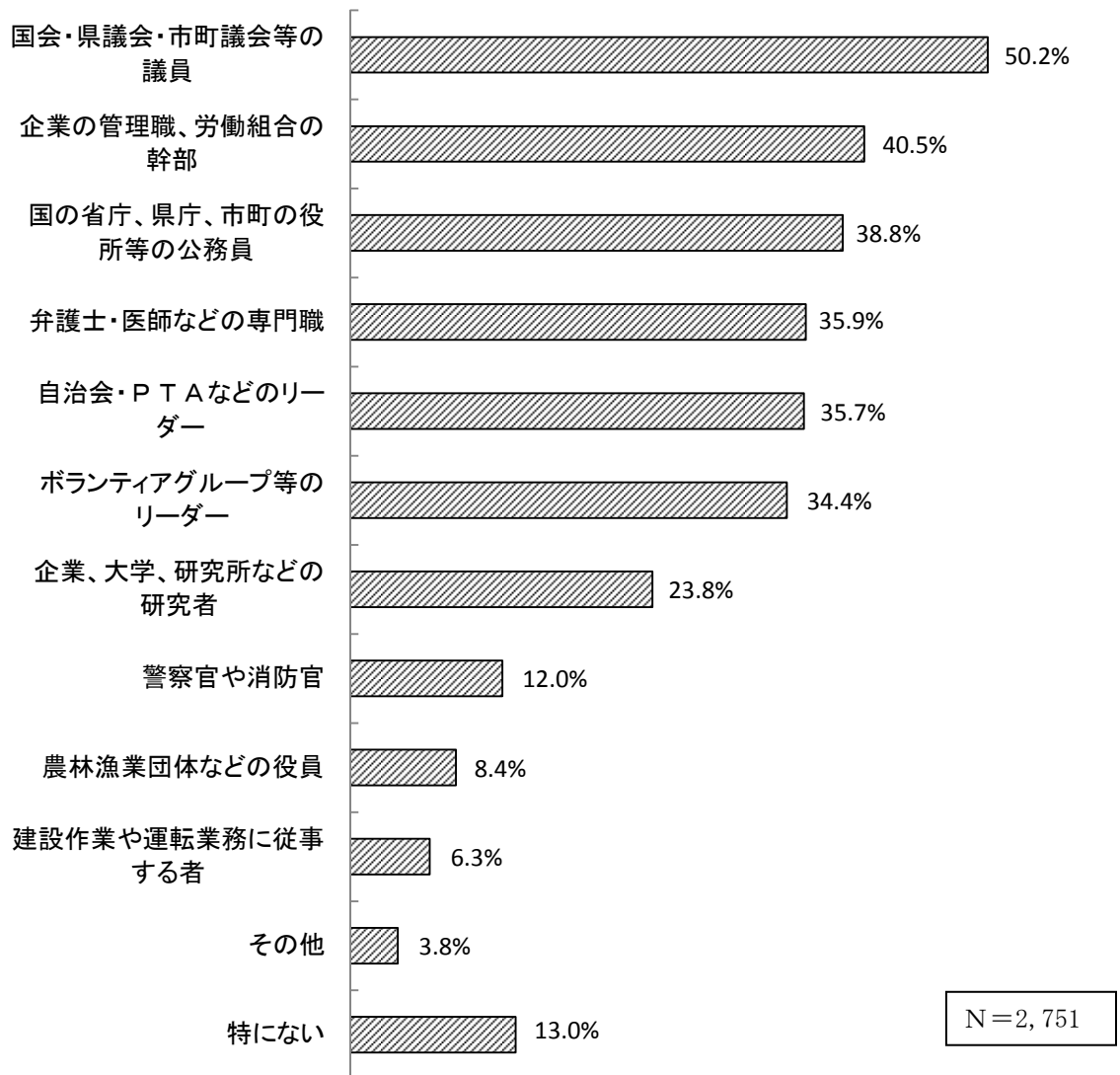
【性・年代別】

年齢が高くなるほど「女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから」が多くなる傾向になっている。



5 女性の活躍が進むのがよいと思う分野・立場（あてはまるものをすべて選択）

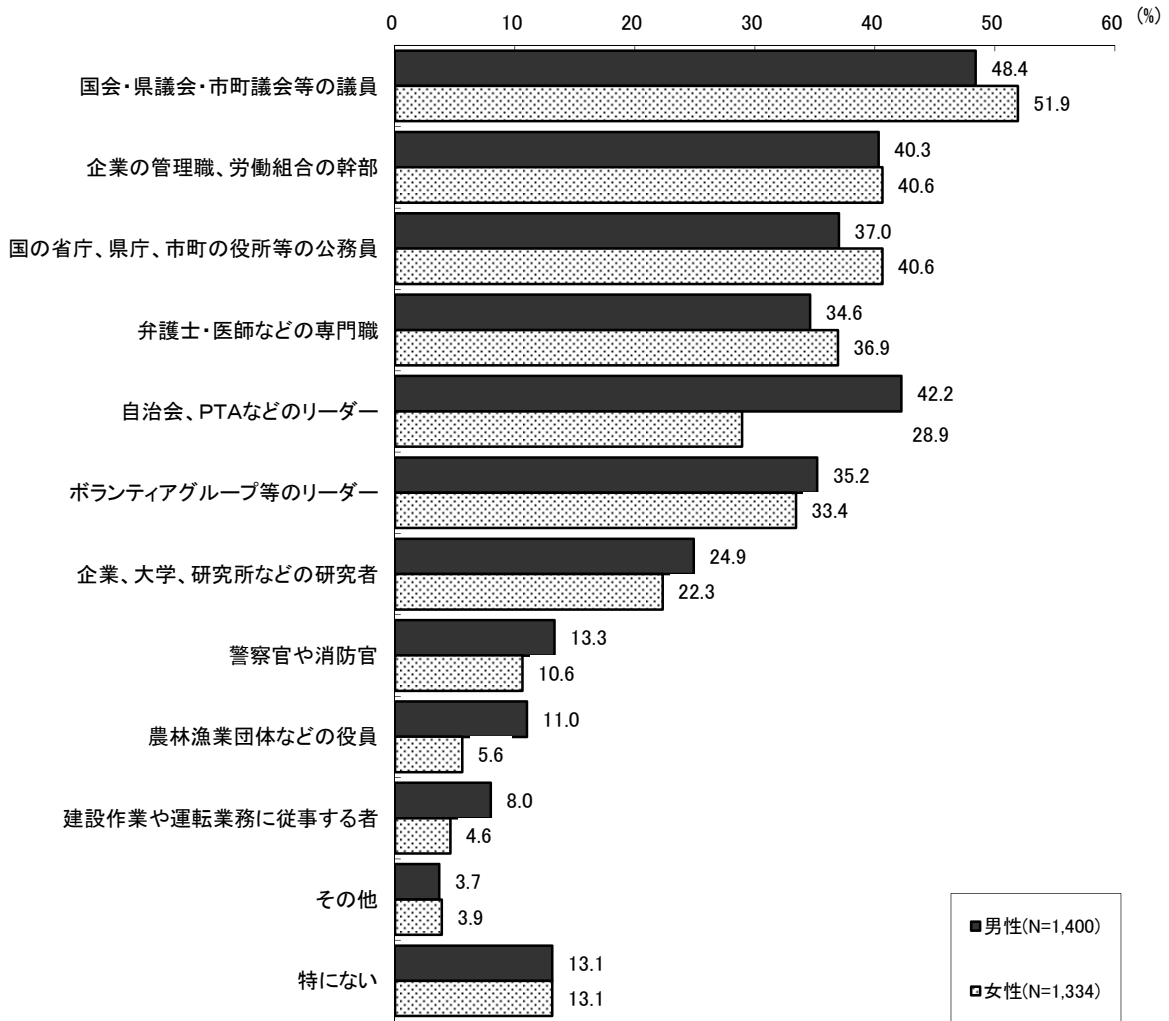
● 「国会・県議会・市町議会等の議員」が最も多い



【性別】

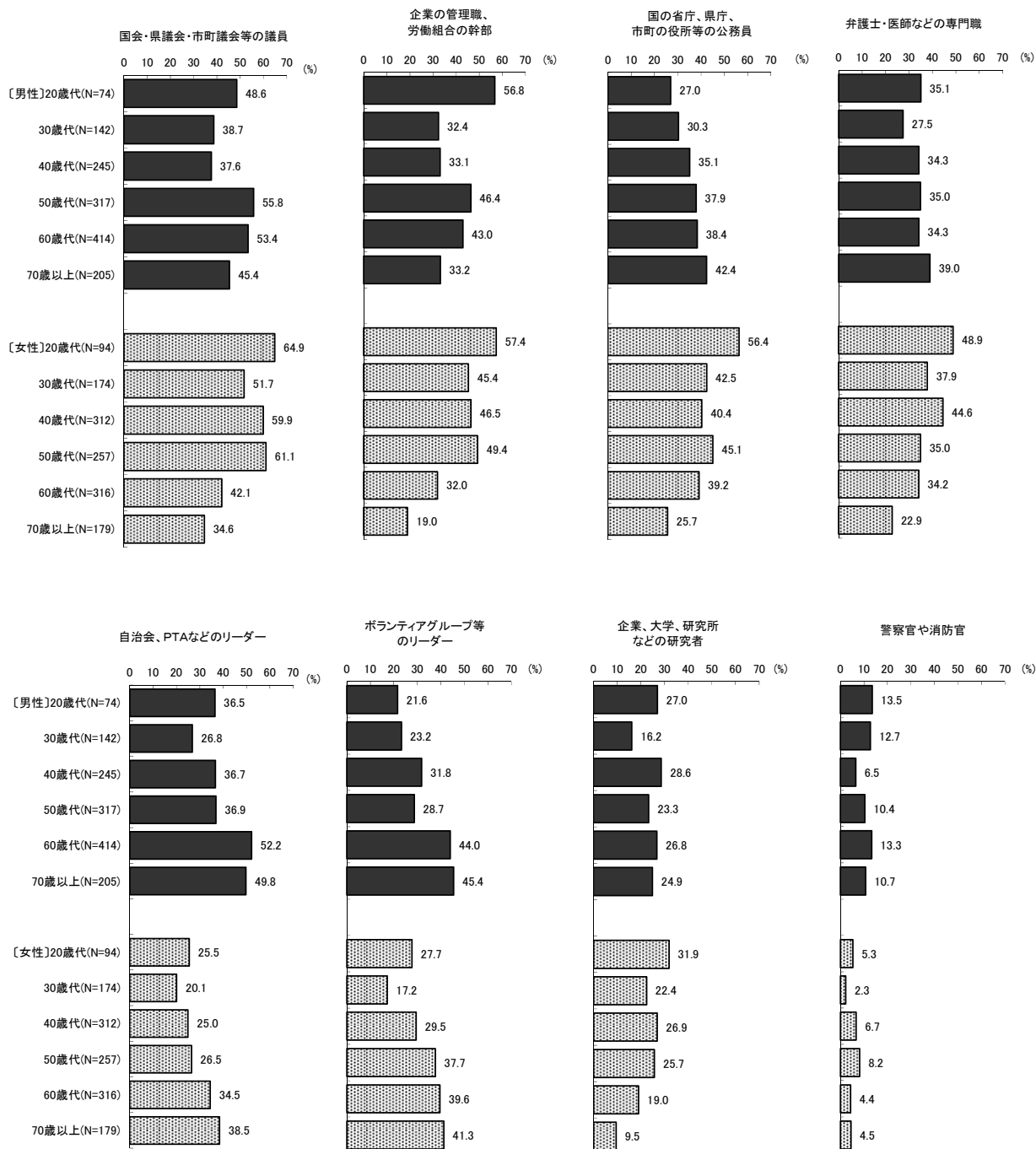
●男女ともに「国会・県議会・市町議会等の議員」が最も多い

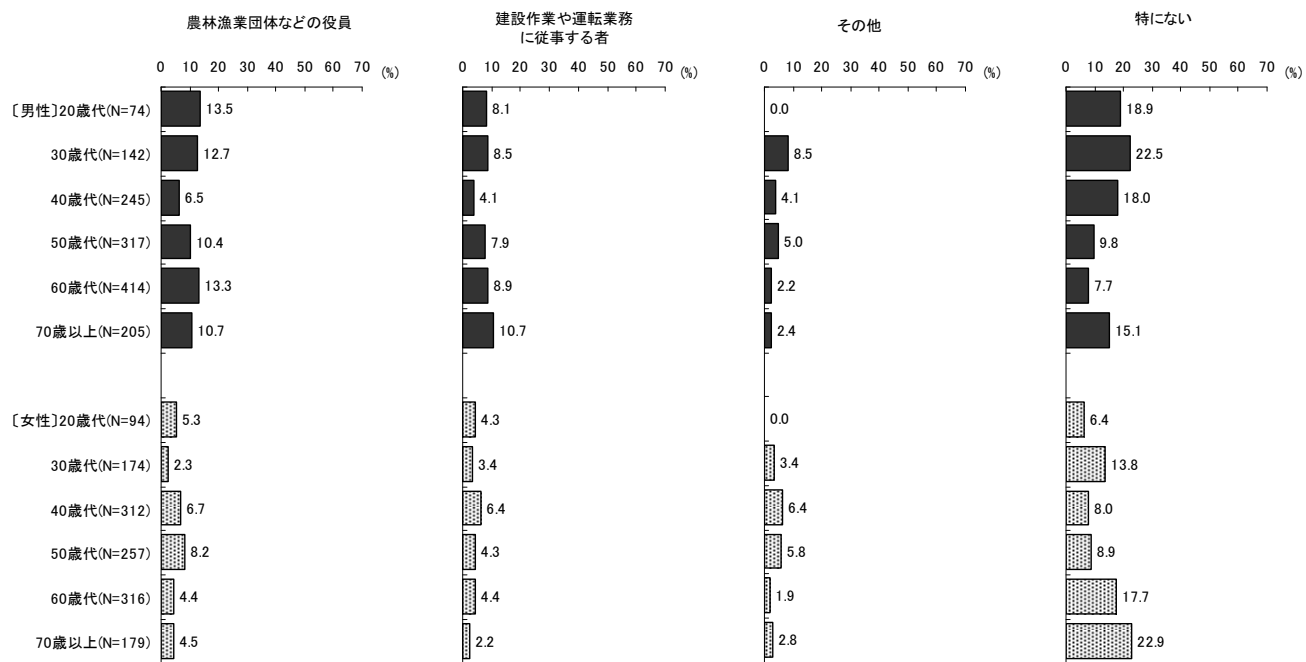
女性の活躍が進むのがよいと思う分野・立場は、男女ともに「国会・県議会・市町議会等の議員」が最も多い（男性 48.4%、女性 51.9%）。男性では、次いで「自治会、PTAなどのリーダー」（42.2%）、「企業の管理職、労働組合の幹部」（40.3%）が多くなっている。女性では「企業の管理職、労働組合の幹部」（40.6%）、「国の省庁、県庁、市町の役所等の公務員」（40.6%）が多くなっている。



【性・年代別】

「国会・県議会・市町議会等の議員」は、20歳代、40歳代、50歳代の女性で多くなっている。



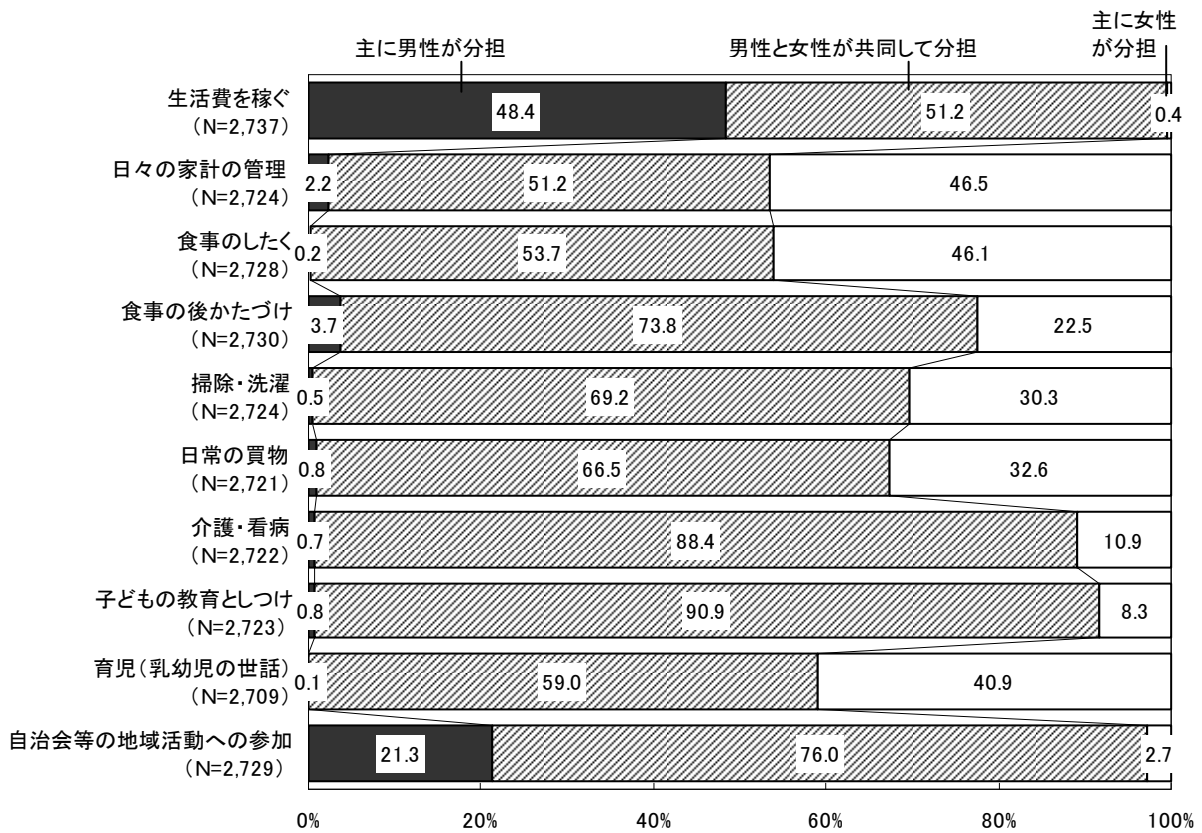


3 家庭生活や地域活動について

1 家庭内での男女の関わり方

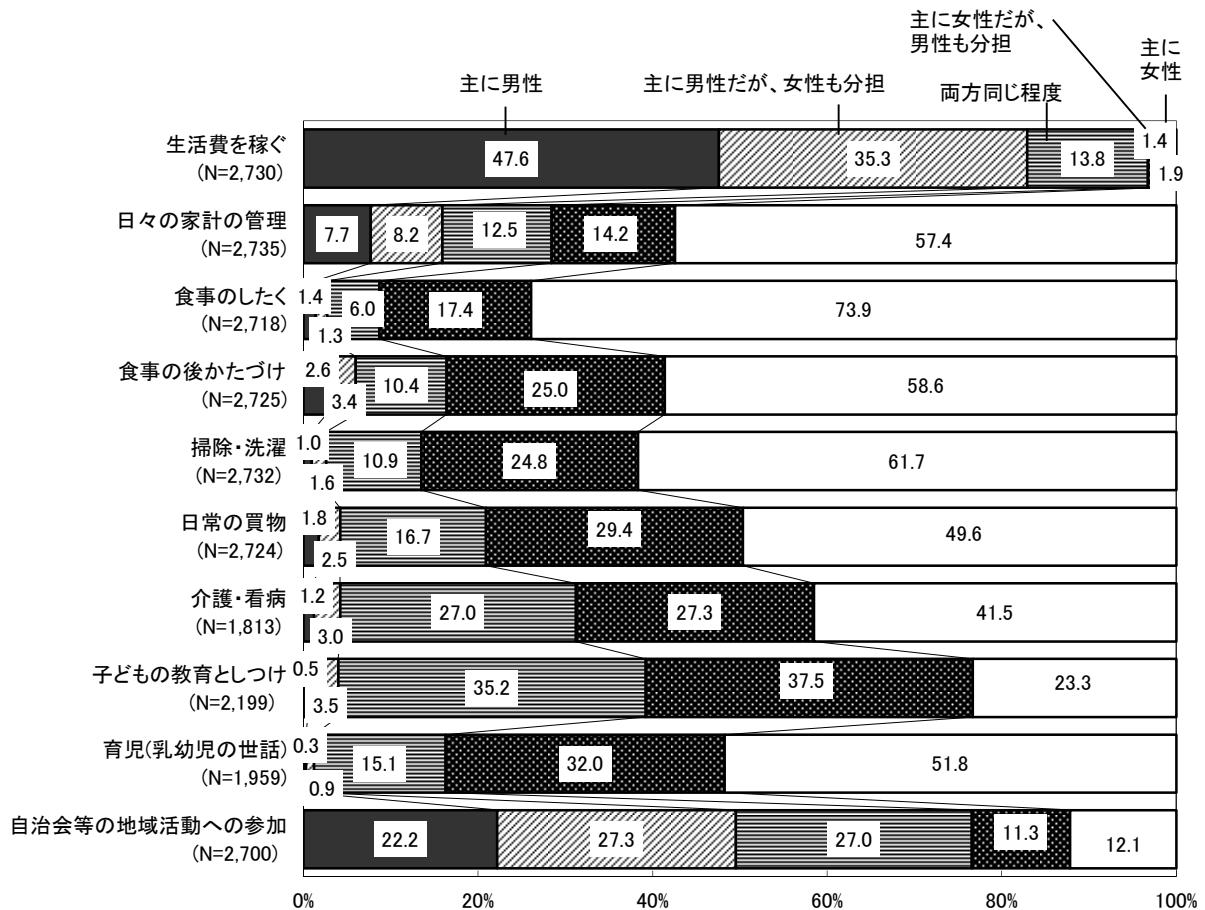
●理想は「生活費を稼ぐ」ことも含めて「男性と女性が共同して分担」が最も高い

家庭内のことについて、男性、女性はどのような関わり方がよいか（理想を選択）についてみると、「生活費を稼ぐ」は「主に男性が分担」の割合が他の項目に比べて多いものの、家庭内のすべての事項について「男性と女性が共同して分担」が最も多くなっている。



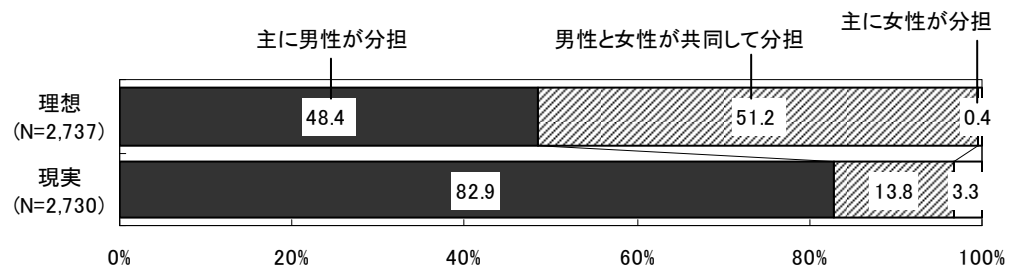
●現実には「生活費を稼ぐ」は『主に男性が担っている』が多く、家事や育児は『主に女性が担っている』が多い

家庭内のことについて、実際の家庭では、男性、女性のどちらが行っているか（現実を選択）についてみると、「生活費を稼ぐ」は、『主に男性が担っている』（「主に男性が分担」と「主に男性だが女性も分担」の合計）が82.9%と多く、「食事のしたく」や「掃除、洗濯」などの家事や育児については、『主に女性が担っている』（「主に女性が分担」と「主に女性が男性も分担」の合計）が多い。また、地域活動への参加は、男性が多くなっている。



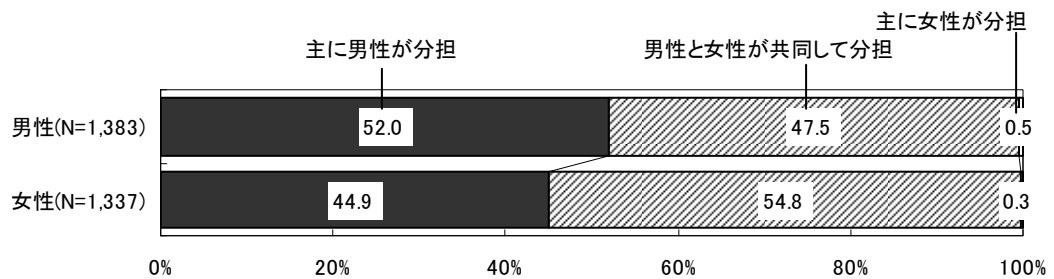
(1) 生活費を稼ぐ

理想では「主に男性が分担」は 48.4%であるが、現実では『主に男性が担っている』は、82.9%となっている。

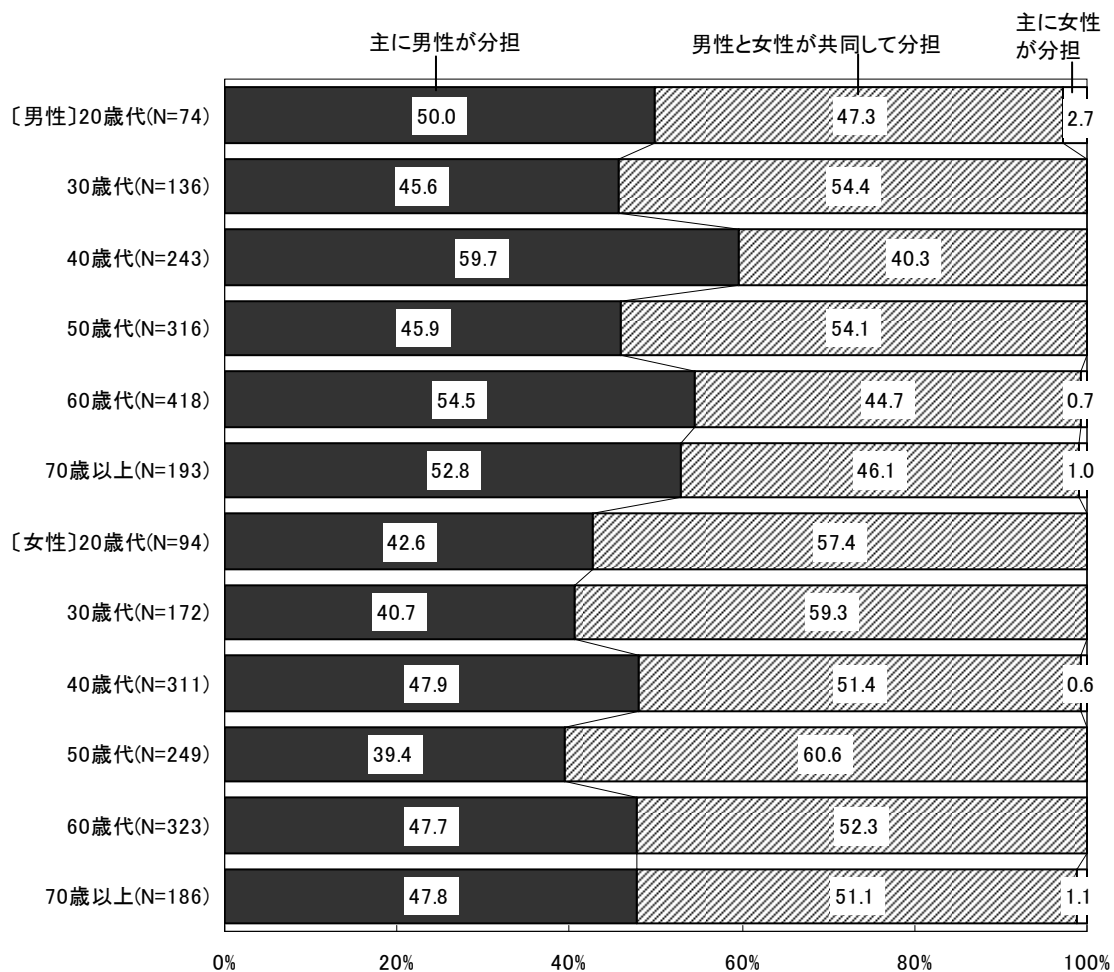


【理想の性別】

「主に男性が分担」が女性に比べ、男性が多く、「男性と女性が共同して分担」は女性の方が多。

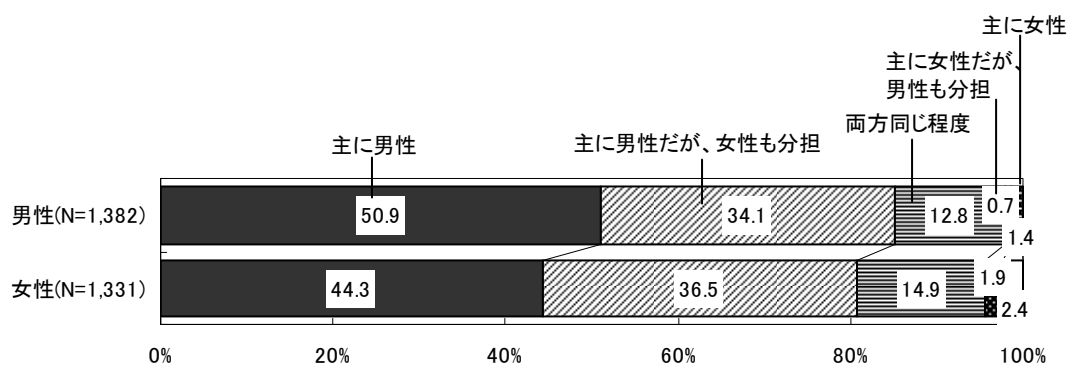


【理想の性・年代別】

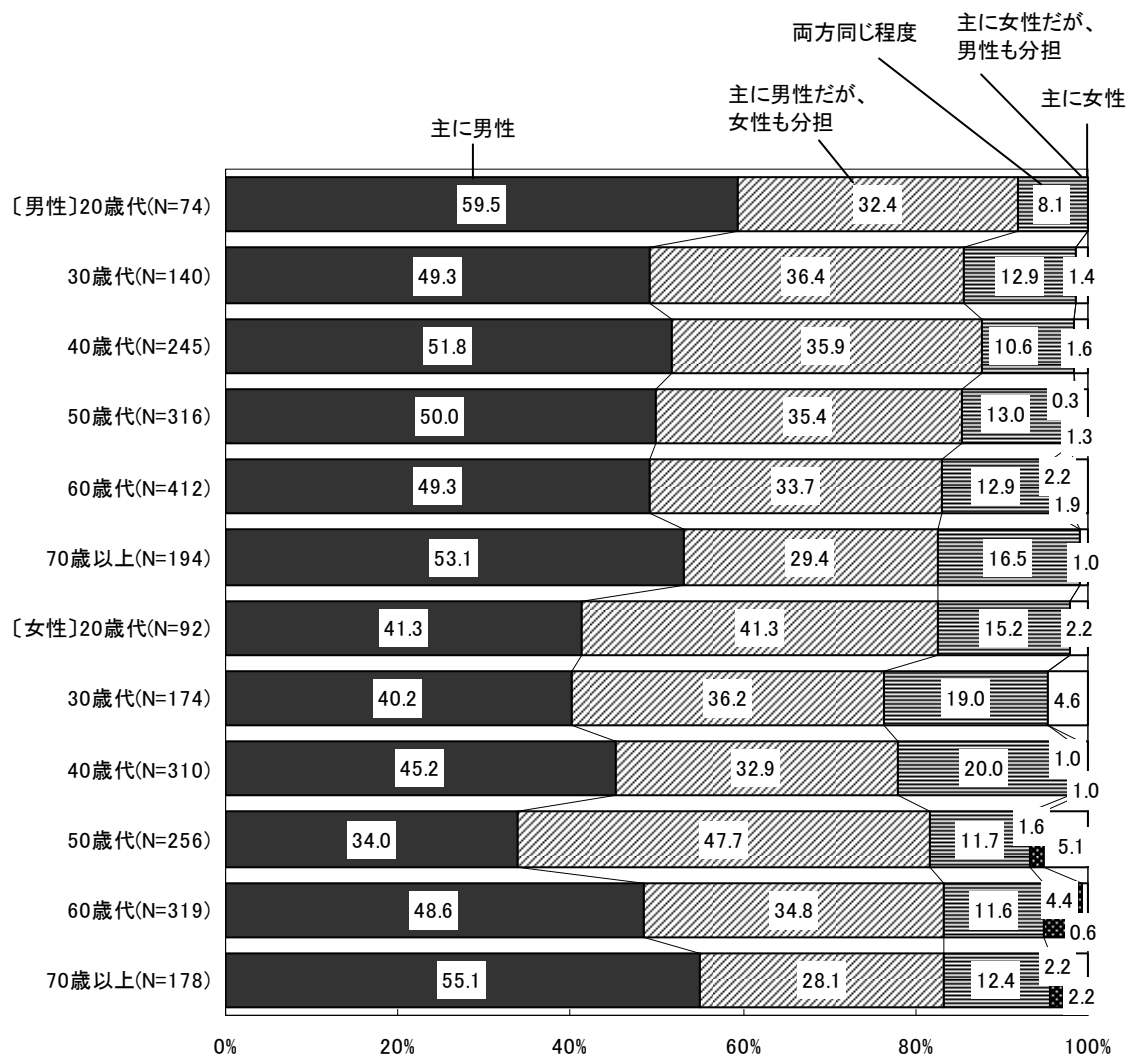


【現実の性別】

『主に男性が担っている』が女性に比べ、男性が多く、「両方同じ程度」は女性の方が
多い。

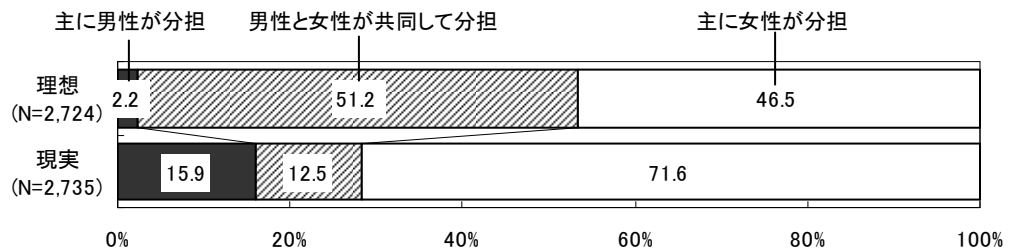


【現実の性・年代別】



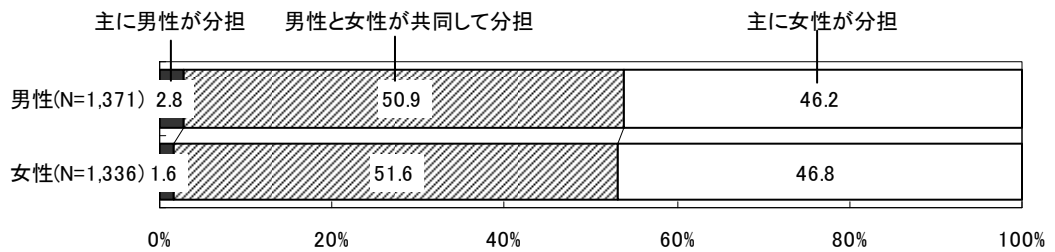
(2) 日々の家計の管理

理想では「男性と女性が共同して分担」が 51.2%と最も多くなっているが、現実では「両方同じ程度」は 12.5%で、『主に女性が担っている』が、71.6%と最も多くなっている。

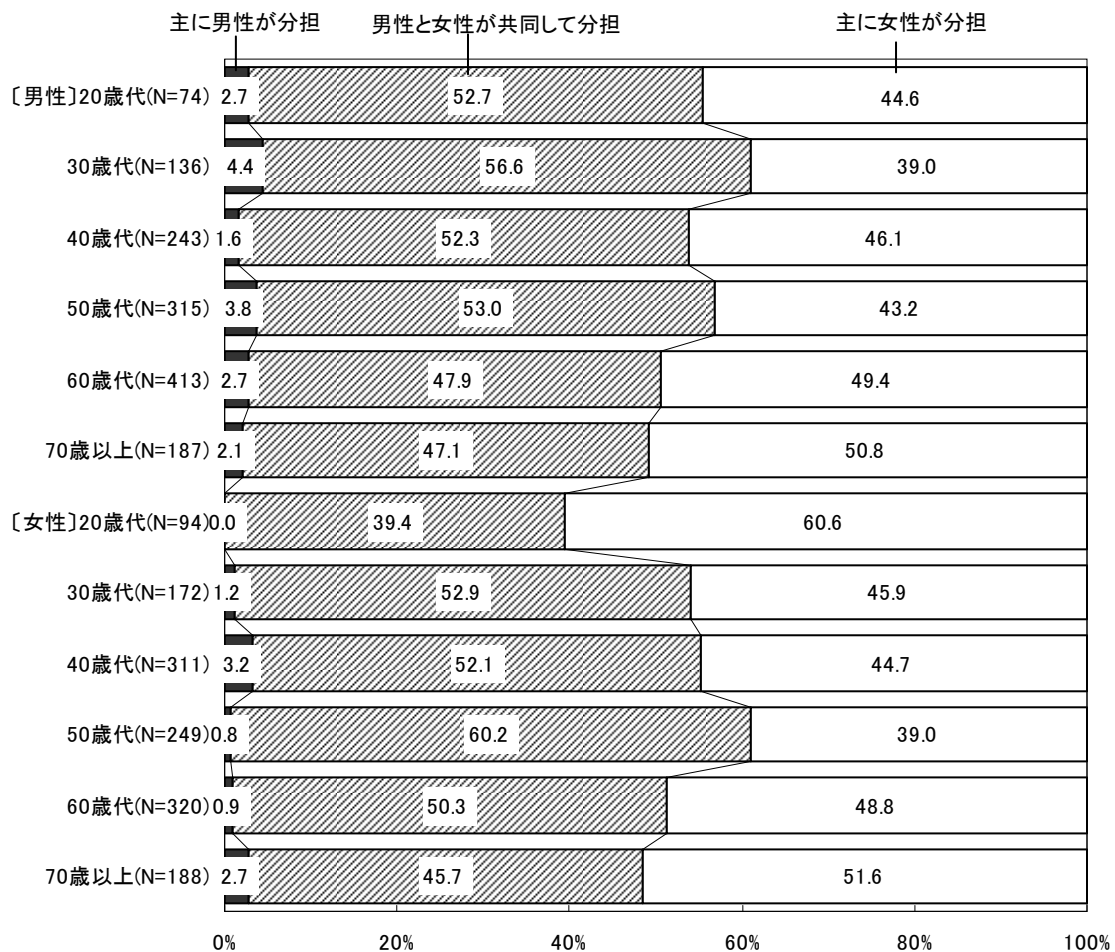


【理想の性別】

男性、女性ともに「男性と女性が共同して分担」が最も多くなっている。

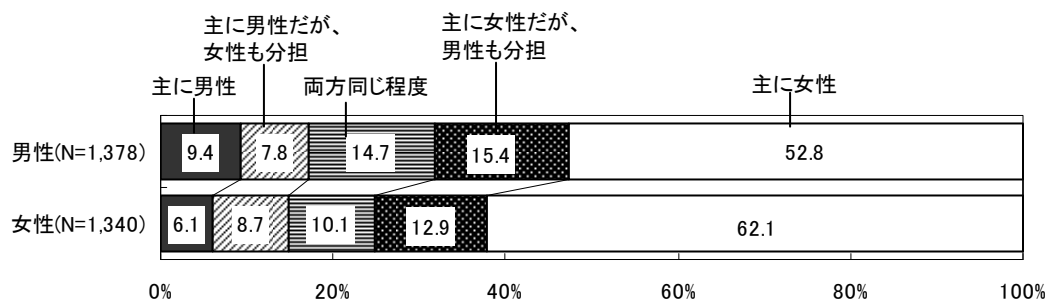


【理想の性・年代別】



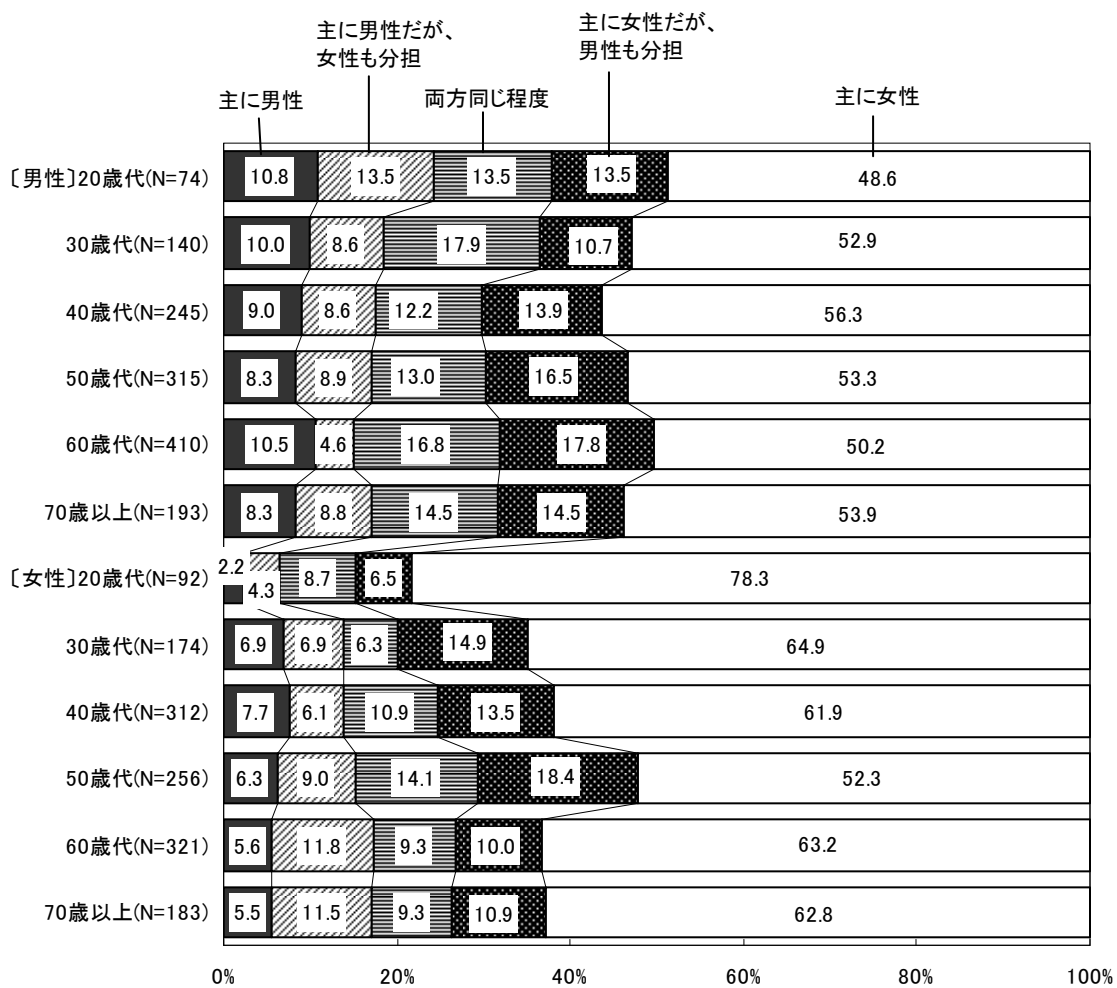
【現実の性別】

現実では「主に女性」は男性で 52.8%、女性で 62.1%と女性の方が多くなっている。
 「両方同じ程度」は男性 14.7%、女性 10.1%で男性の方が多くなっている。



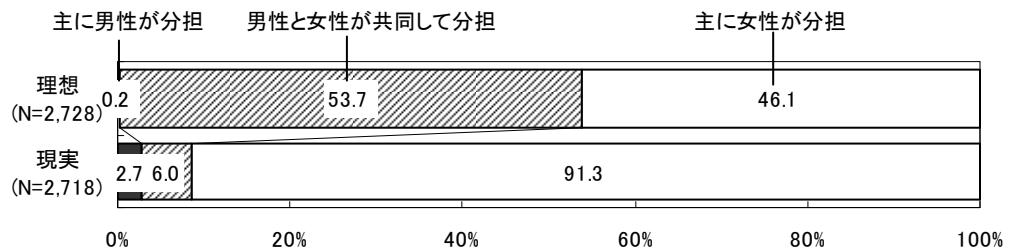
【現実の性・年代別】

20歳代の女性で「主に女性」が多くなっている。



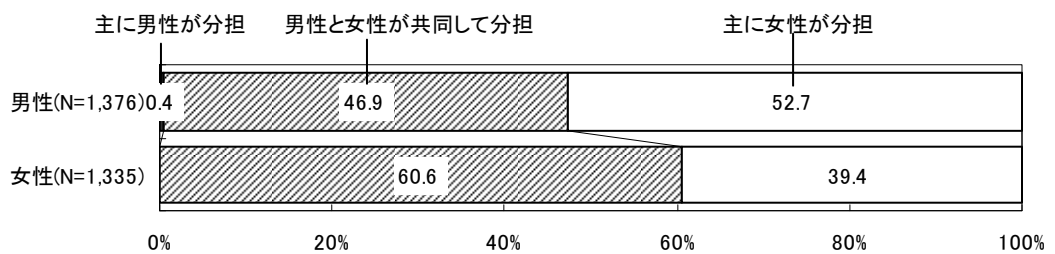
(3) 食事のしたく

理想では「男性と女性が共同して分担」が 53.7%と最も多くなっているが、現実では「両方同じ程度」は 6.0%で、『主に女性が担っている』が、91.3%と最も多くなっている。

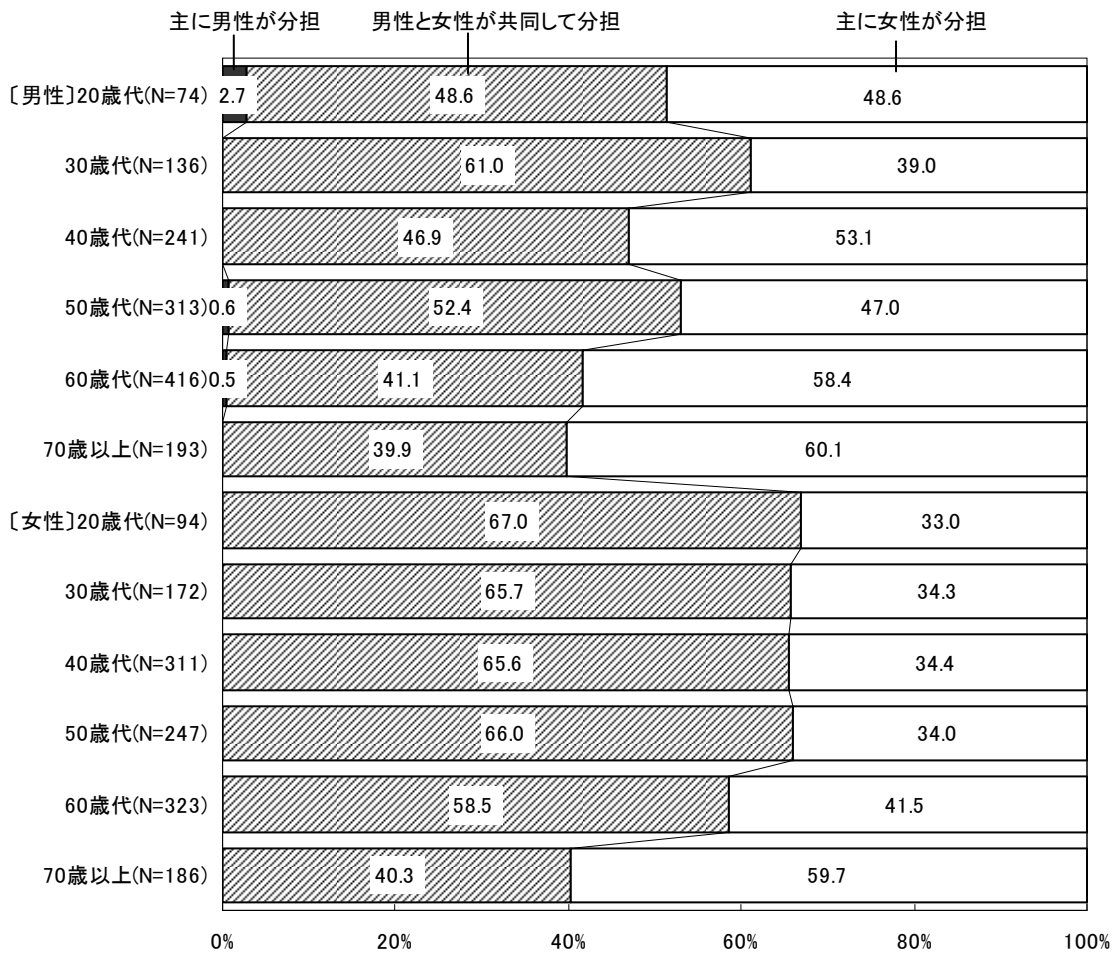


【理想の性別】

男性では「主に女性が分担」が最も多く、女性では「男性と女性が共同して分担」がもっとも多い。

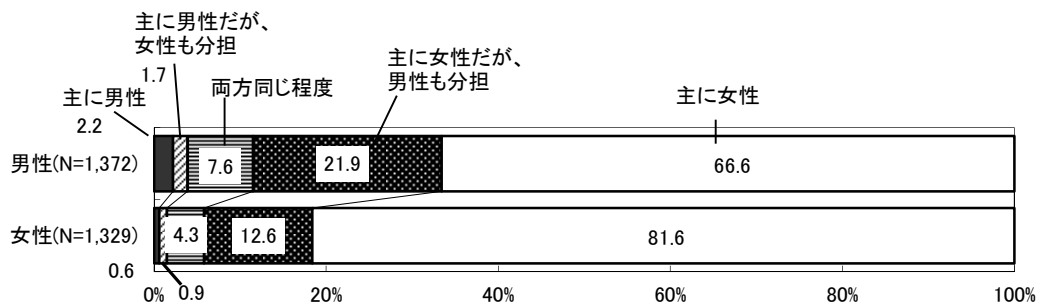


【理想の性・年代別】

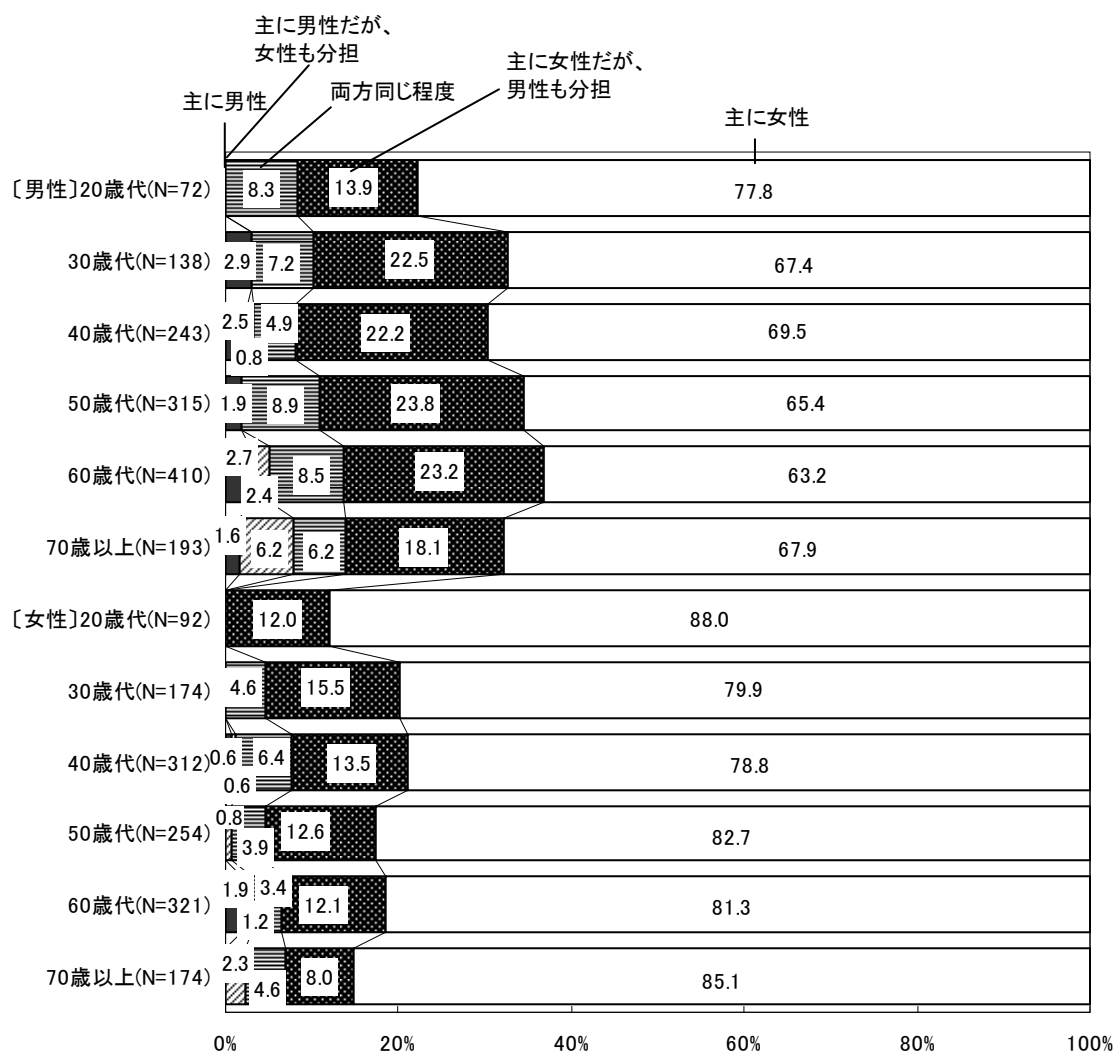


【現実の性別】

現実では「主に女性」が男性で 66.6%、女性で 81.6%と女性の方が多くなっている。「両方同じ程度」は男性 7.6%、女性 4.3%で男性の方が多くなっている。

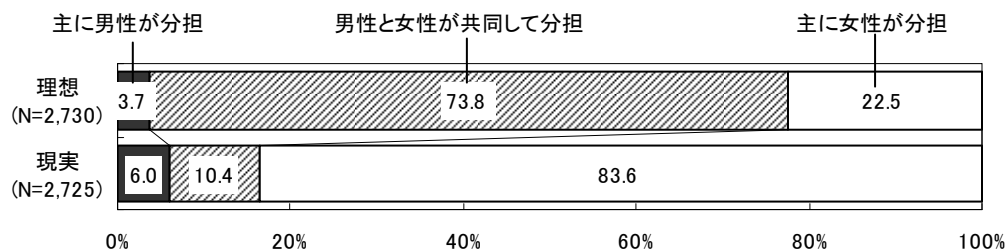


【現実の性・年代別】



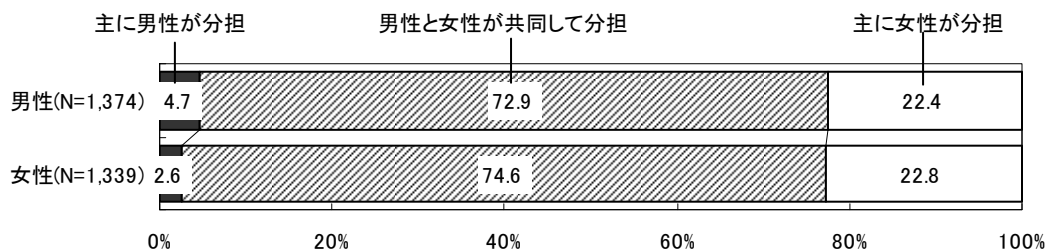
(4) 食事の後かたづけ

理想では「男性と女性が共同して分担」が 73.8%と最も多くなっているが、現実では「両方同じ程度」は 10.4%で、『主に女性が担っている』が、83.6%と最も多くなっている。

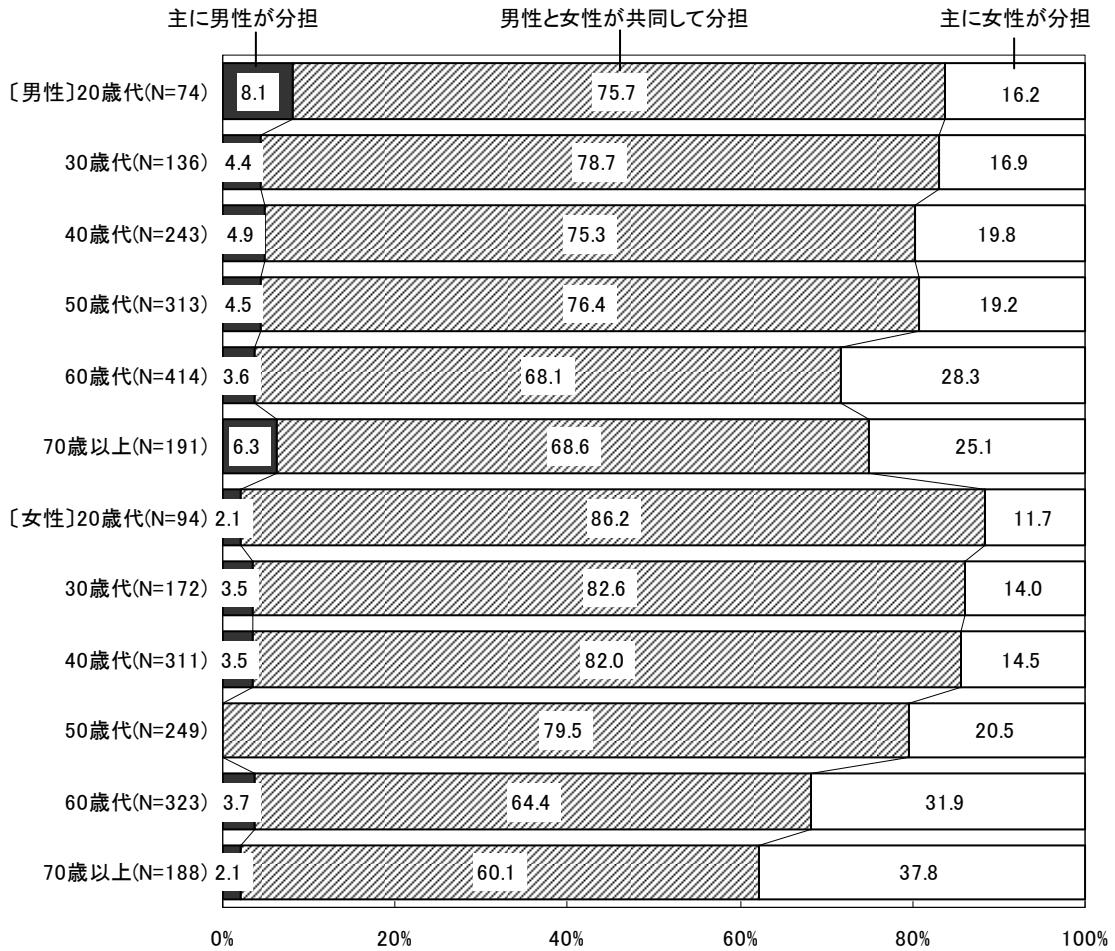


【理想の性別】

男性、女性ともに「男性と女性が共同して分担」が多い。

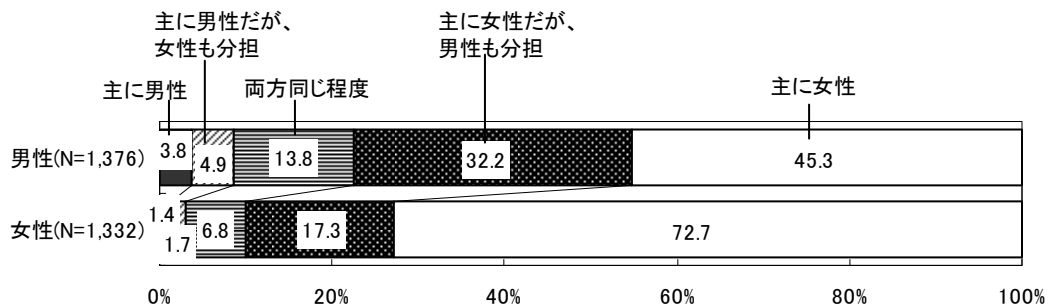


【理想の性・年代別】

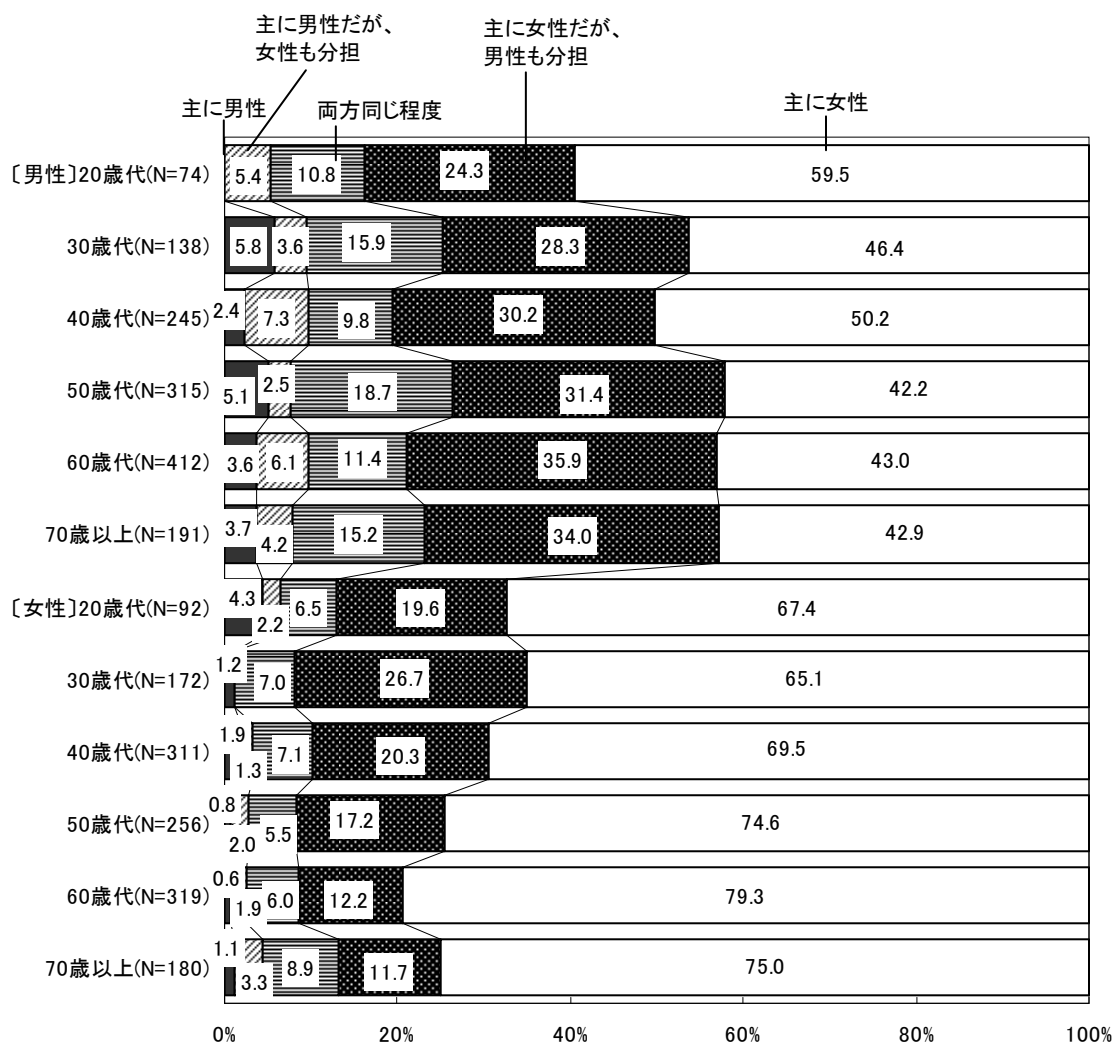


【現実の性別】

現実では「主に女性」が男性で 45.3%、女性で 72.7%と女性の方が多くなっている。「両方同じ程度」は男性 13.8%、女性 6.8%で男性の方が多くなっている。

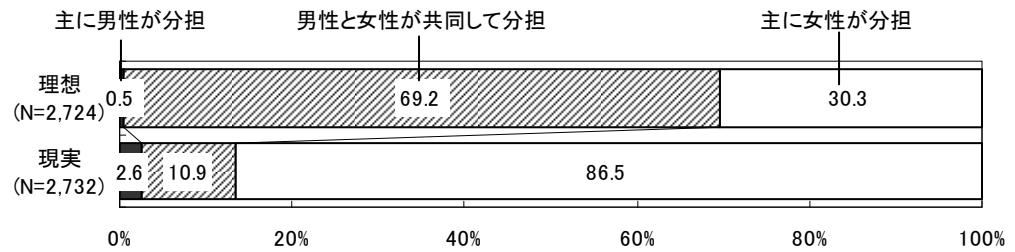


【現実の性・年代別】



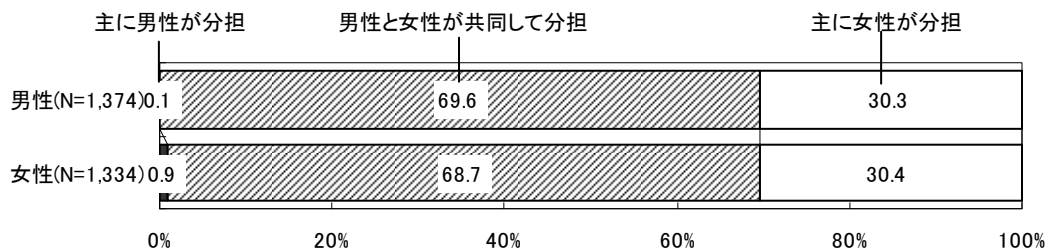
(5) 掃除、洗濯

理想では「男性と女性が共同して分担」が 69.2%と最も多くなっているが、現実では「両方同じ程度」は 10.9%で、『主に女性が担っている』が、86.5%と最も多くなっている。

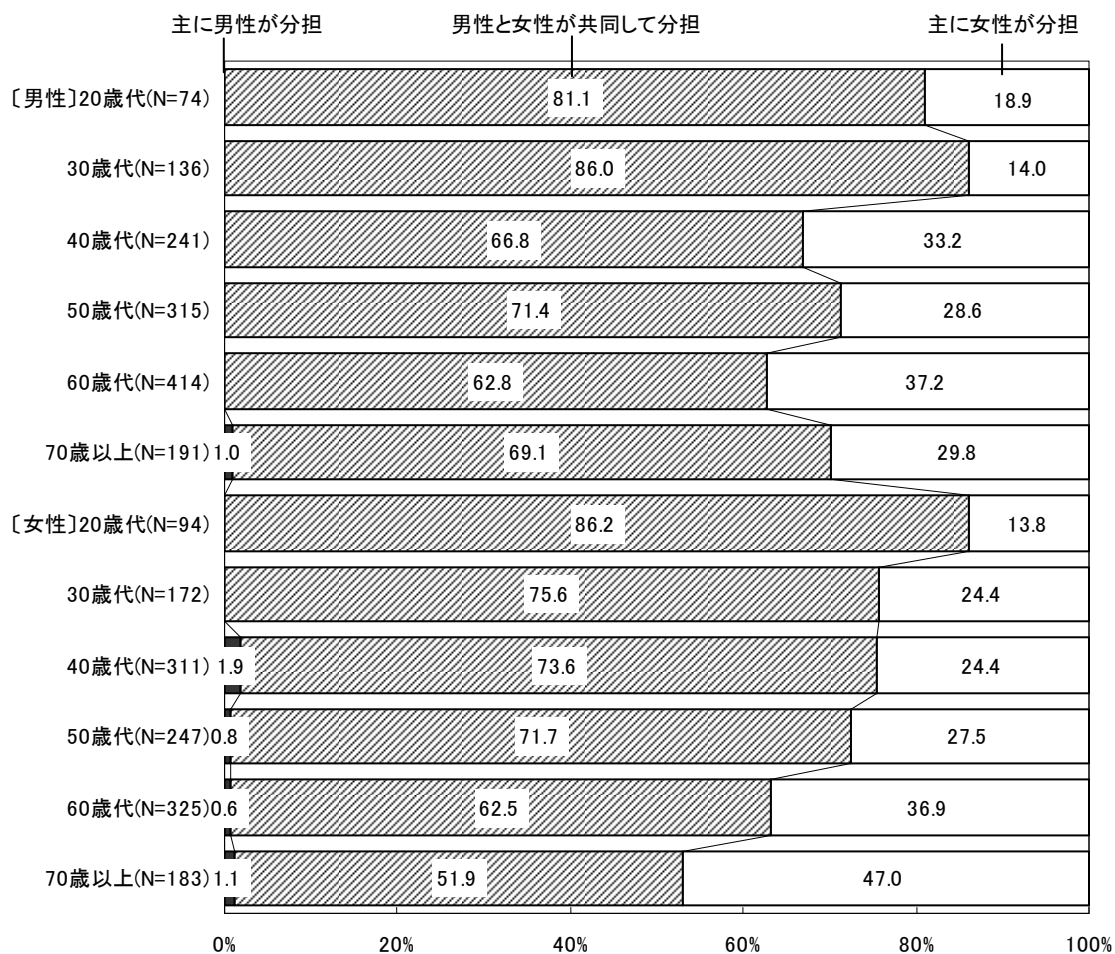


【理想の性別】

男性、女性ともに「男性と女性が共同して分担」が最も多くなっている。

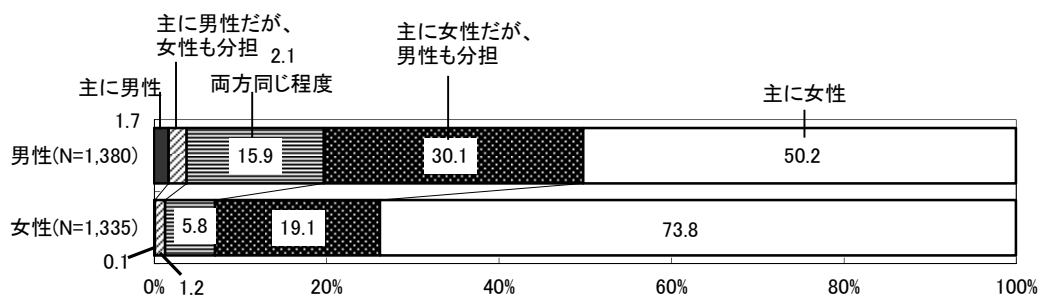


【理想の性・年代別】

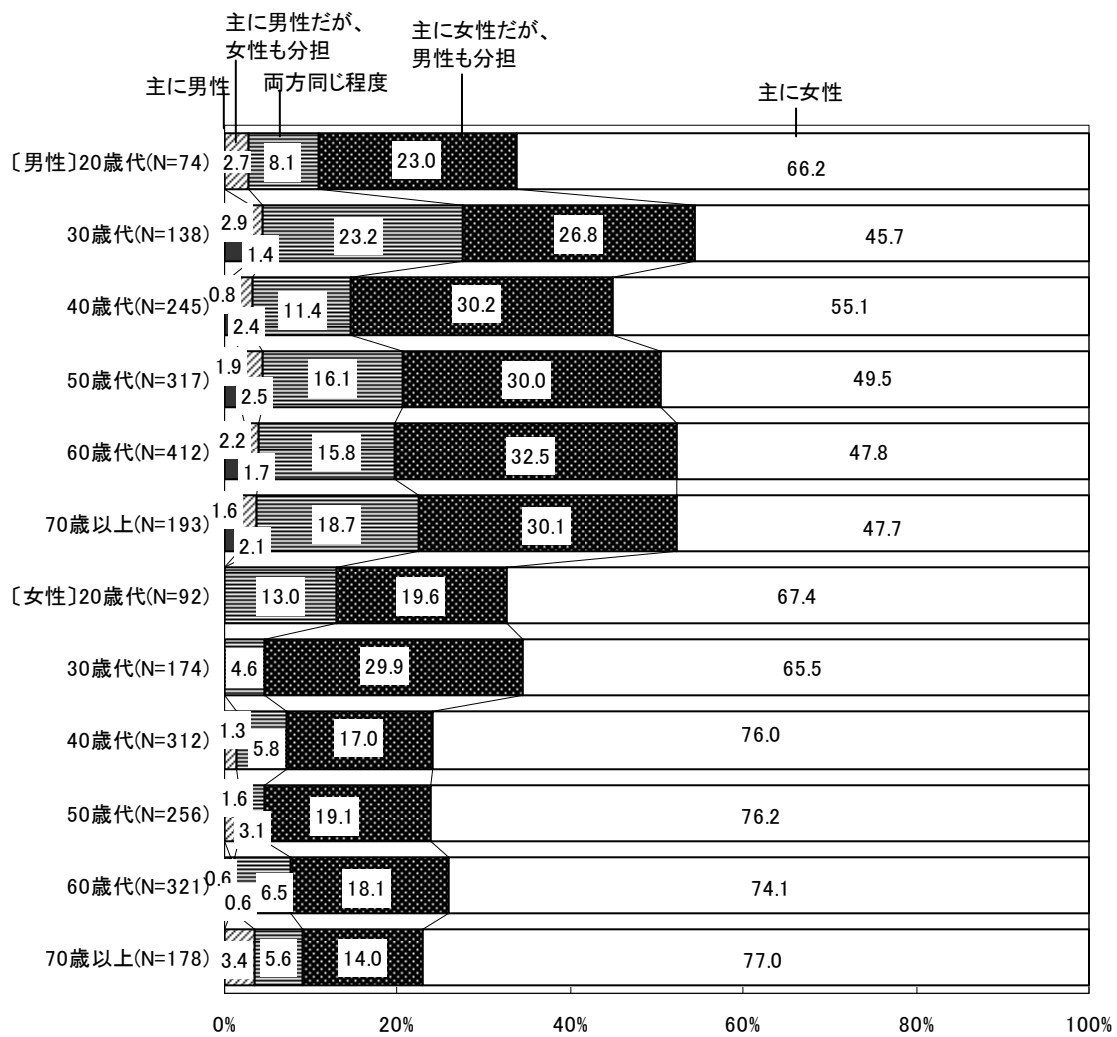


【現実の性別】

現実では「主に女性」は男性で 50.2%、女性で 73.8%と女性の方が多くなっている。
 「両方同じ程度」は男性 15.9%、女性 5.8%で男性の方が多くなっている。

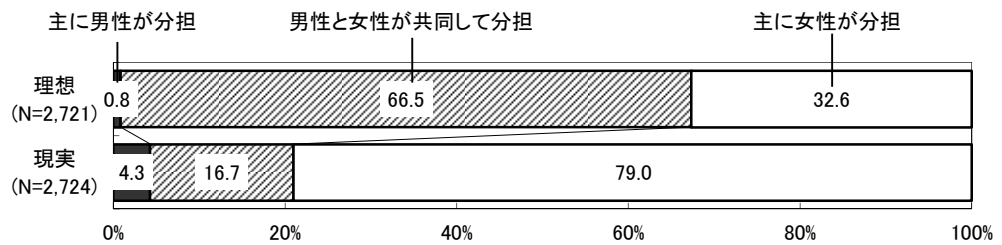


【現実の性・年代別】



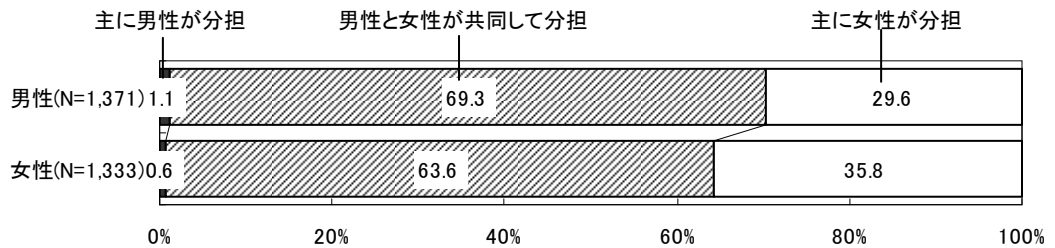
(6) 日常の買物

理想では「男性と女性が共同して分担」が66.5%と最も多くなっているが、現実では「両方同じ程度」は16.7%で、『主に女性が担っている』が、79.0%と最も多くなっている。

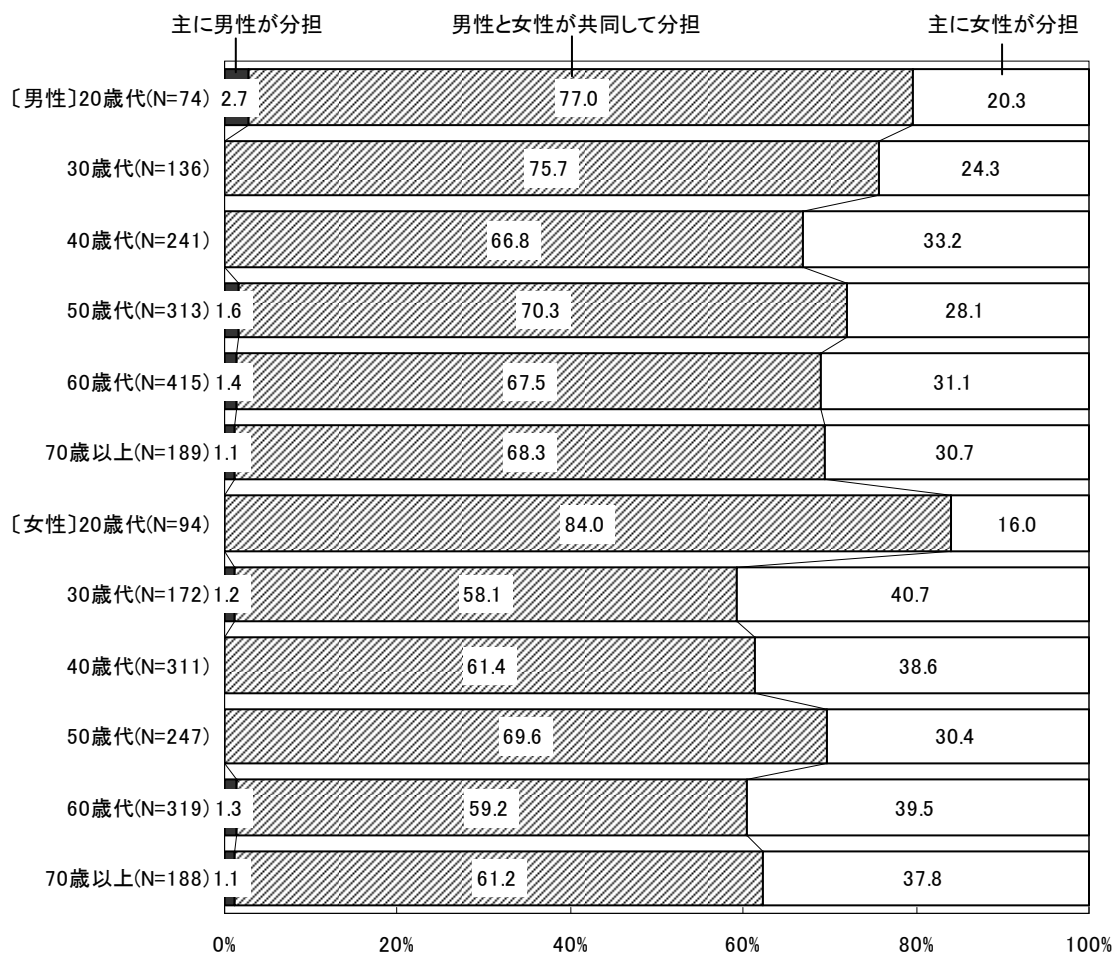


【理想の性別】

男性、女性ともに「男性と女性が共同して分担」が最も多くなっている。

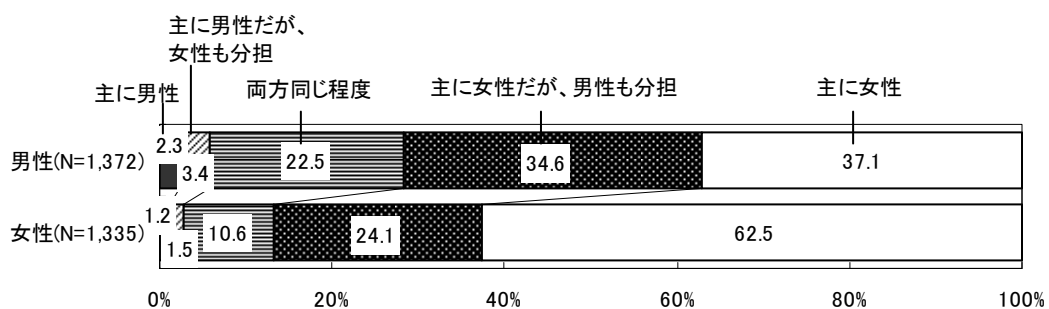


【理想の性・年代別】

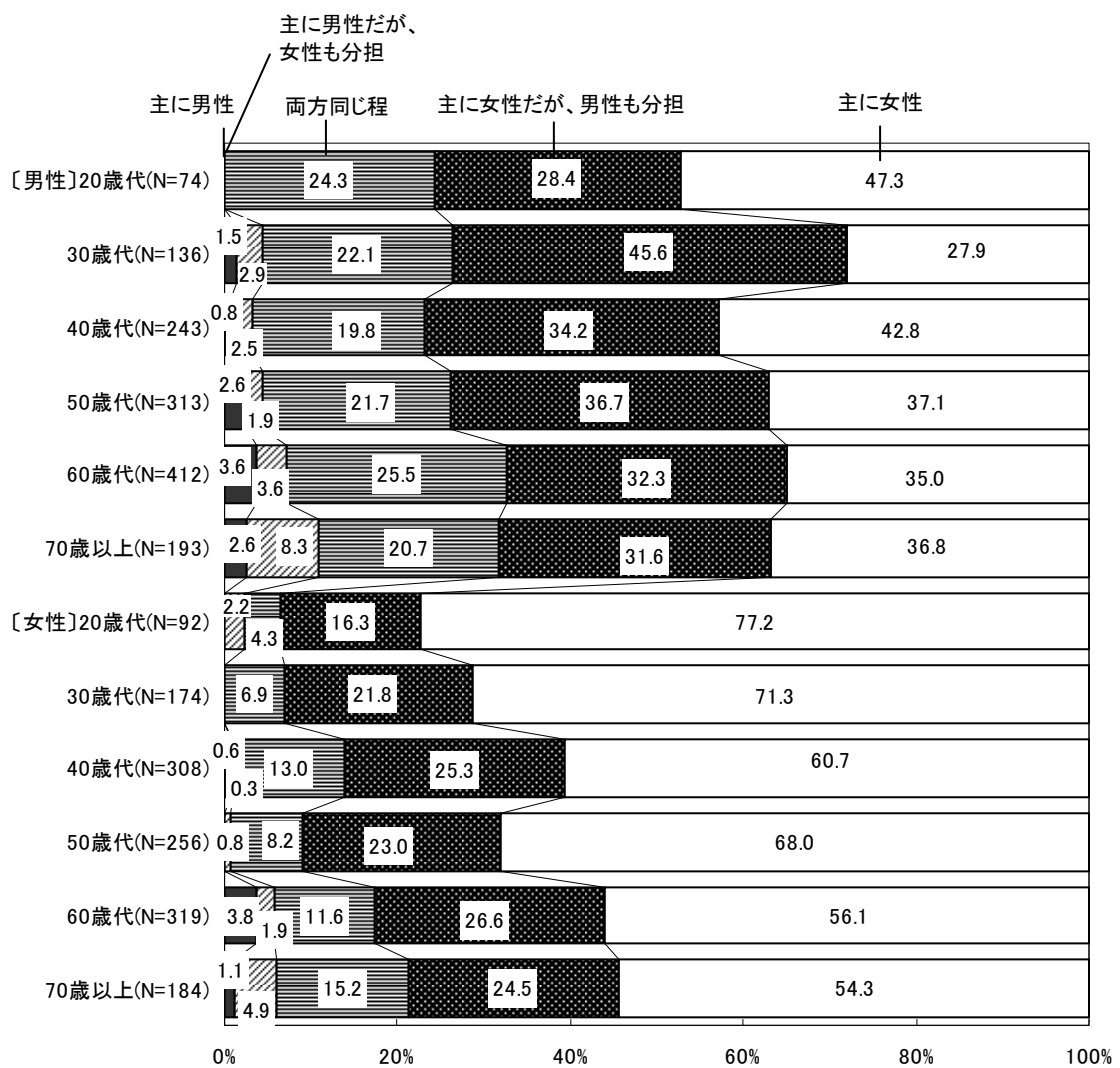


【現実の性別】

現実では「主に女性」は男性で 37.1%、女性で 62.5%と女性の方が多くなっている。
 「両方同じ程度」は男性 22.5%、女性 10.6%で男性の方が多くなっている。

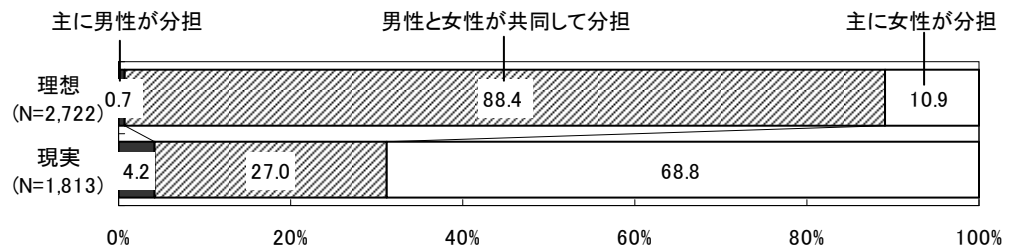


【現実の性・年代別】



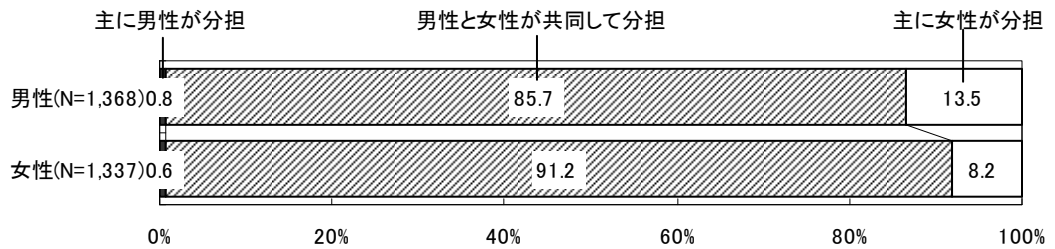
(7) 介護・看病

理想では「男性と女性が共同して分担」が88.4%と最も多くなっているが、現実では「両方同じ程度」は27.0%で、『主に女性が担っている』が、68.8%と最も多くなっている。

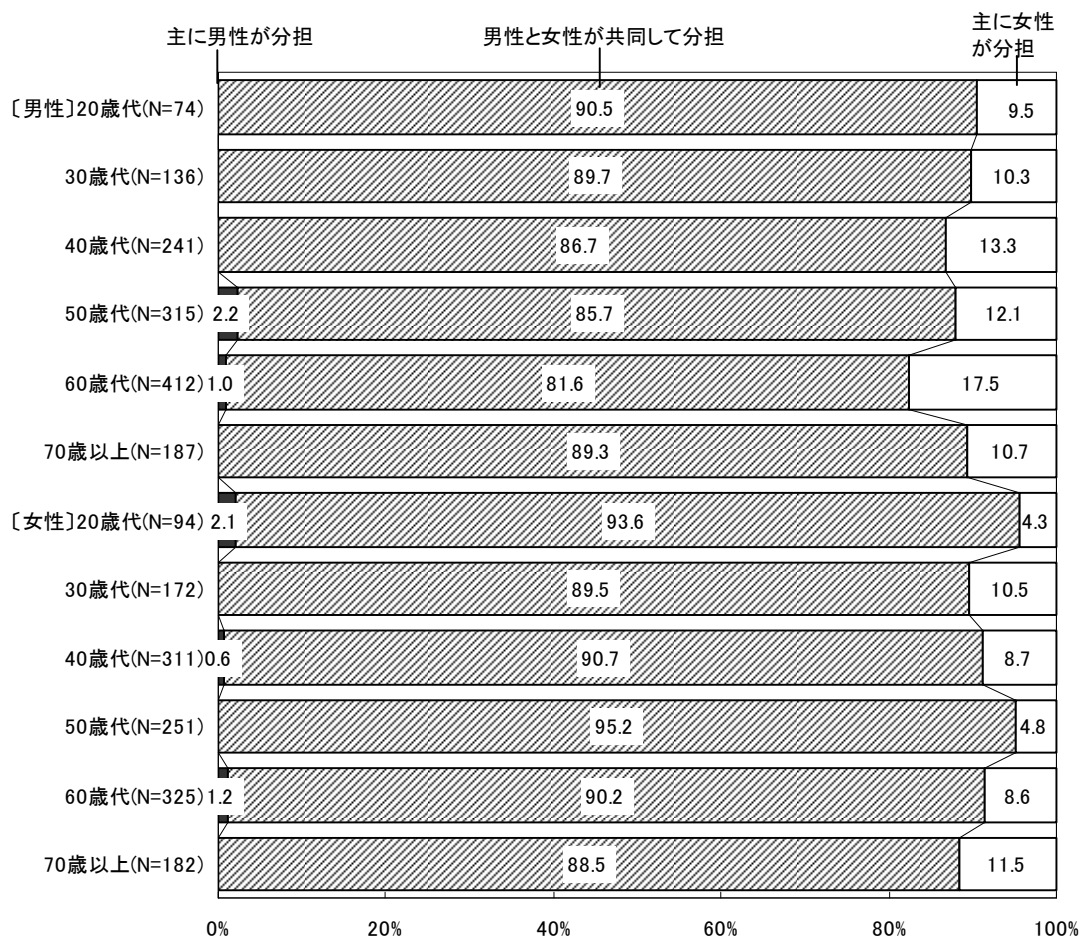


【理想の性別】

男性、女性ともに「男性と女性が共同して分担」が最も多くなっている。

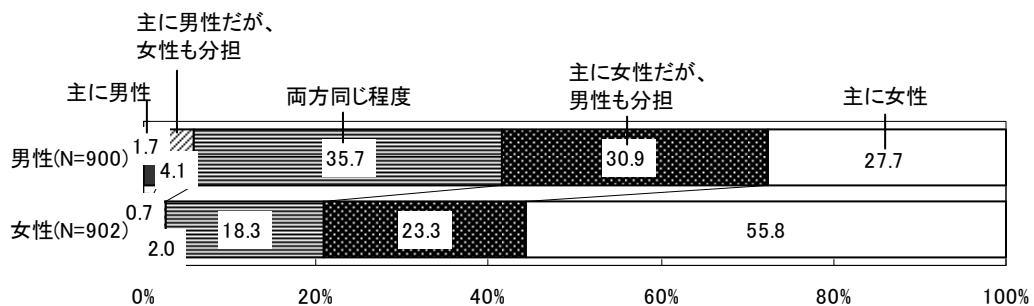


【理想の性・年代別】

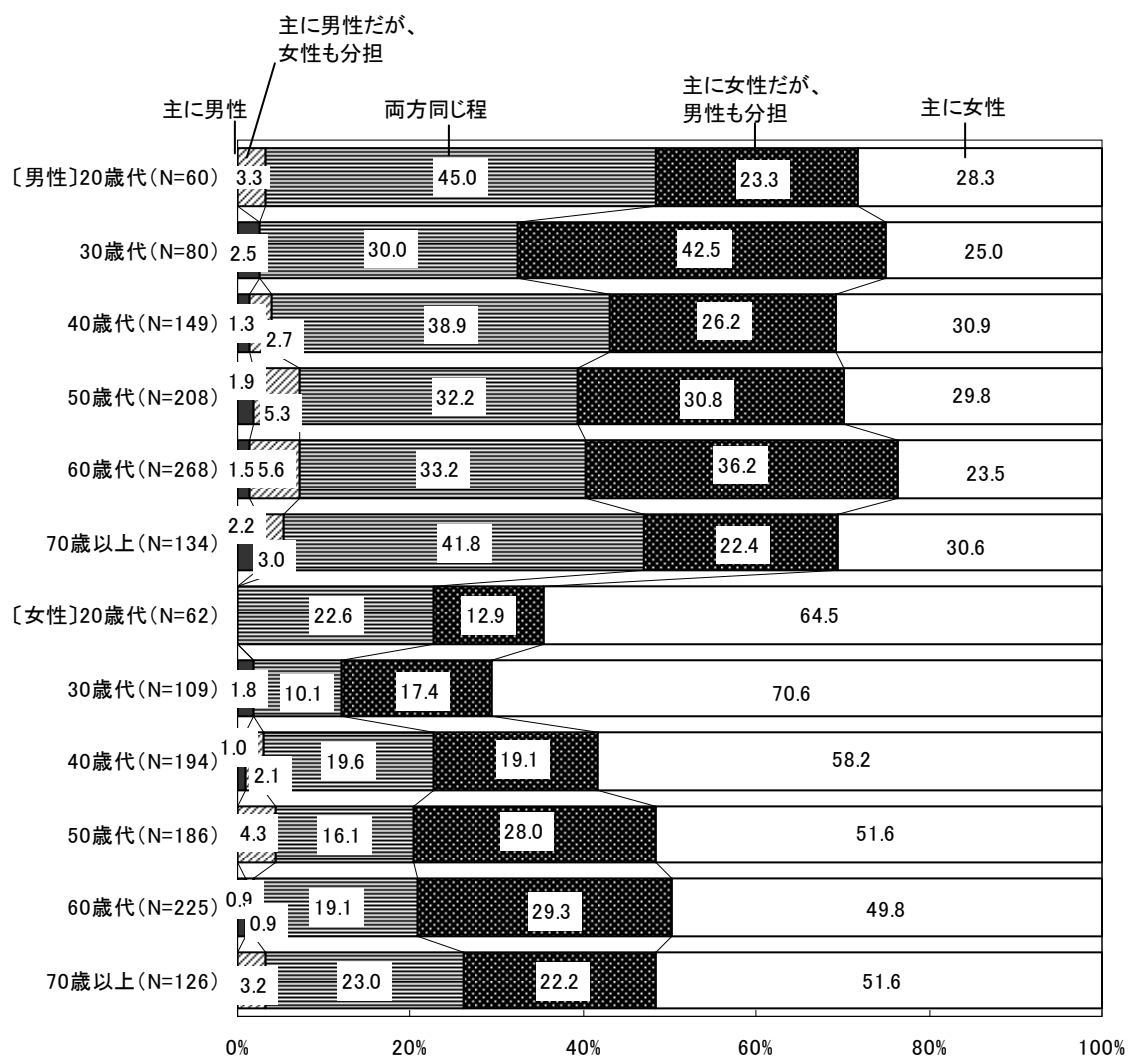


【現実の性別】

現実では「主に女性」は男性で 27.7%、女性で 55.8%と女性の方が多くなっている。
 「両方同じ程度」は男性 35.7%、女性 18.3%で男性の方が多くなっている。

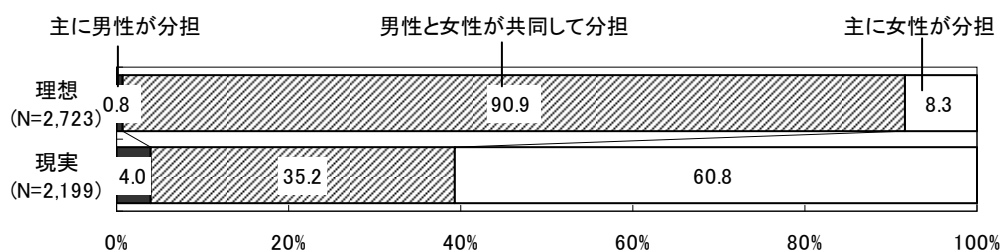


【現実の性・年代別】



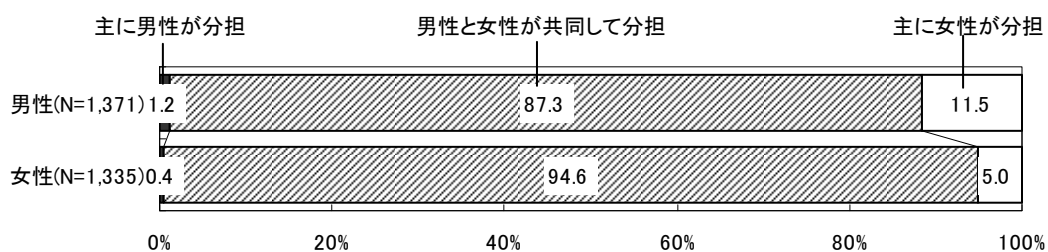
(8) 子どもの教育としつけ

理想では「男性と女性が共同して分担」が 90.9%と最も多くなっているが、現実では「両方同じ程度」は 35.2%で、『主に女性が担っている』が、60.8%と最も多くなっている。

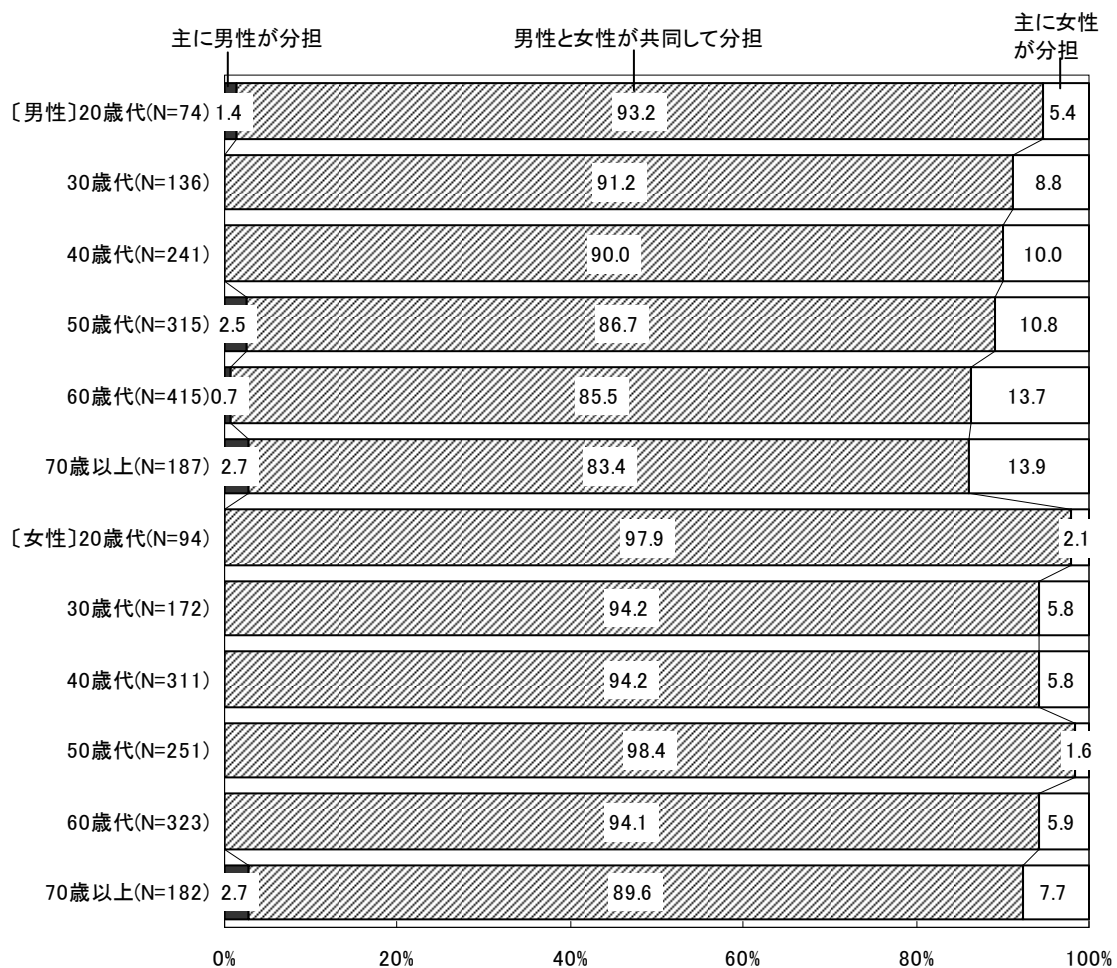


【理想の性別】

男性、女性ともに「男性と女性が共同して分担」が最も多くなっている。

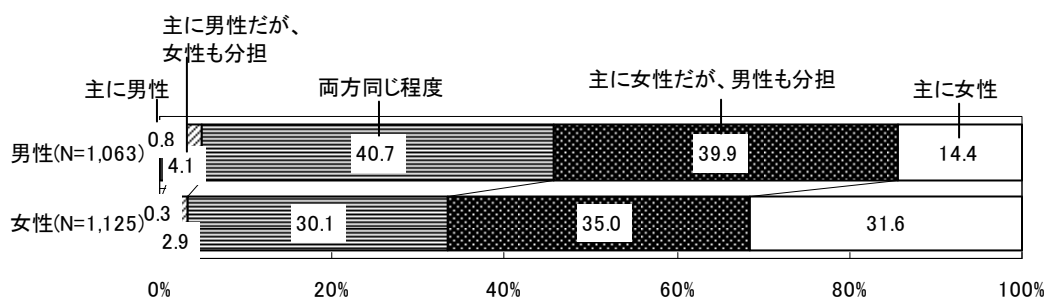


【理想の性・年代別】

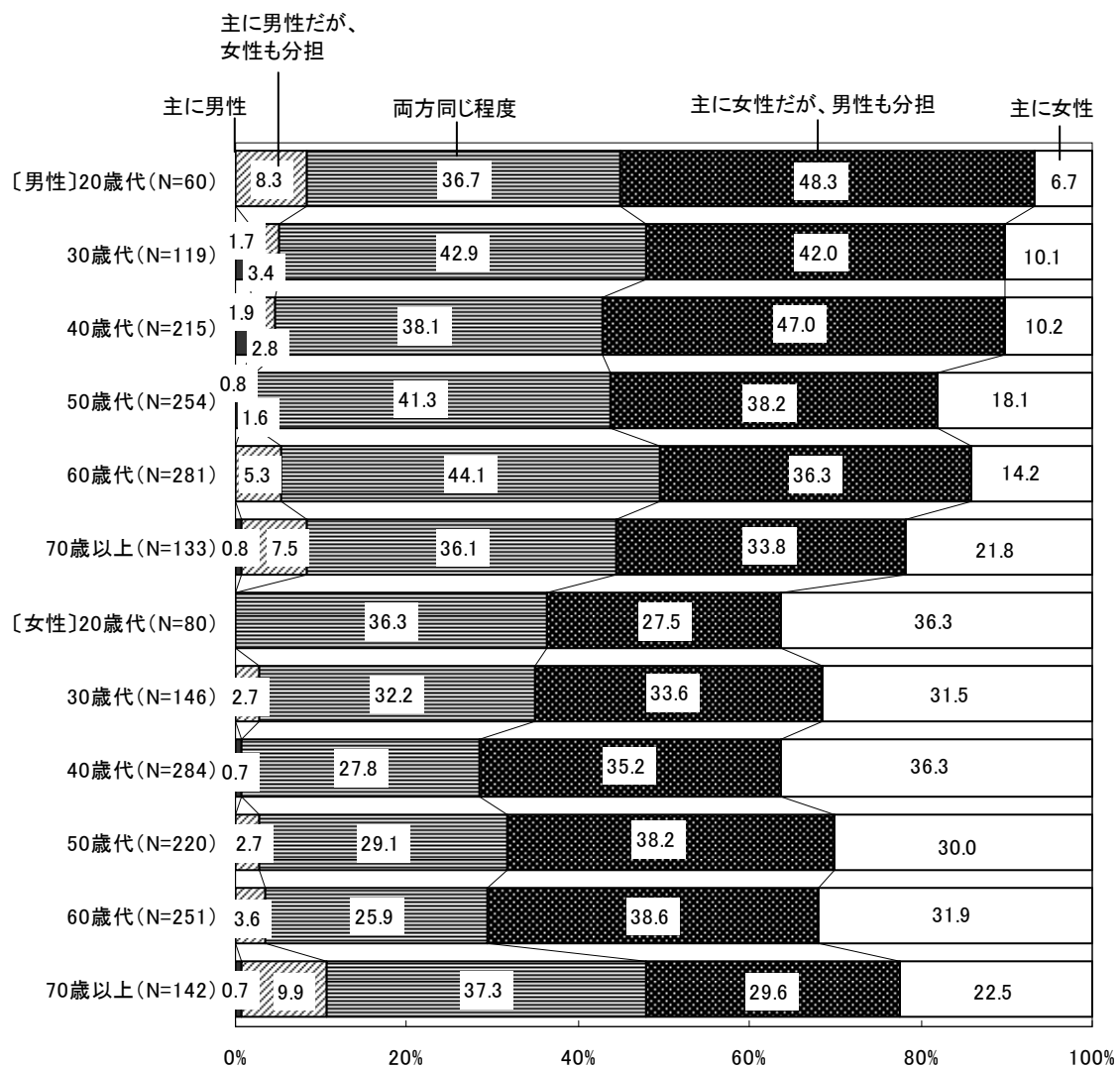


【現実の性別】

現実では「主に女性」は男性で 14.4%、女性で 31.6%と女性の方が多くなっている。
 「両方同じ程度」は男性 40.7%、女性 30.1%で男性の方が多くなっている。

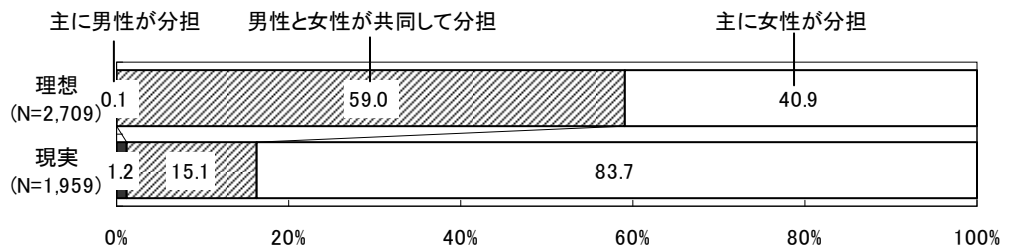


【現実の性・年代別】



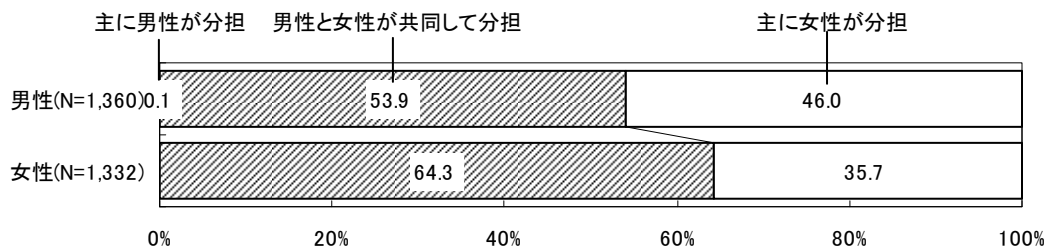
(9) 育児（乳幼児の世話）

理想では「男性と女性が共同して分担」が 59.0%と最も多くなっているが、現実では「両方同じ程度」は 15.1%で、『主に女性が担っている』が、83.7%と最も多くなっている。

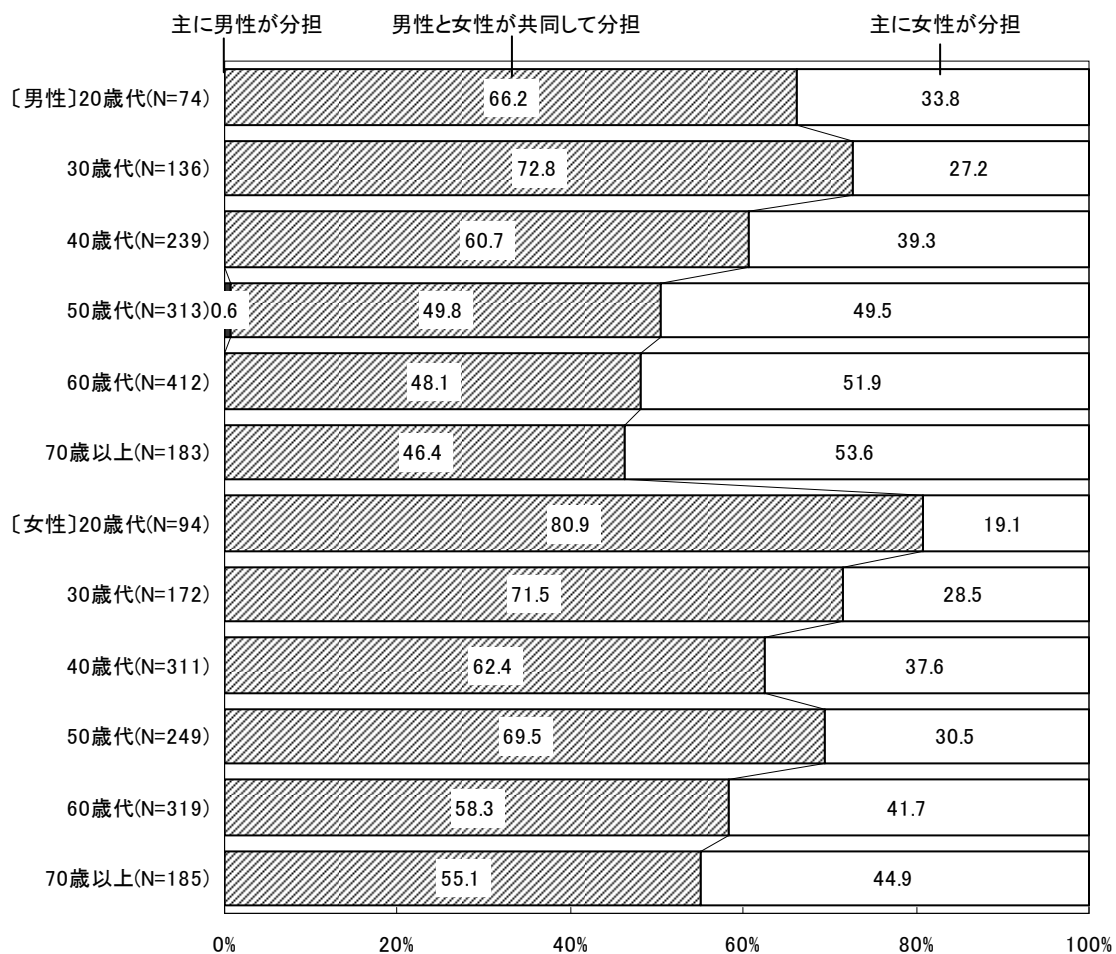


【理想の性別】

男性、女性ともに「男性と女性が共同して分担」が最も多くなっている。

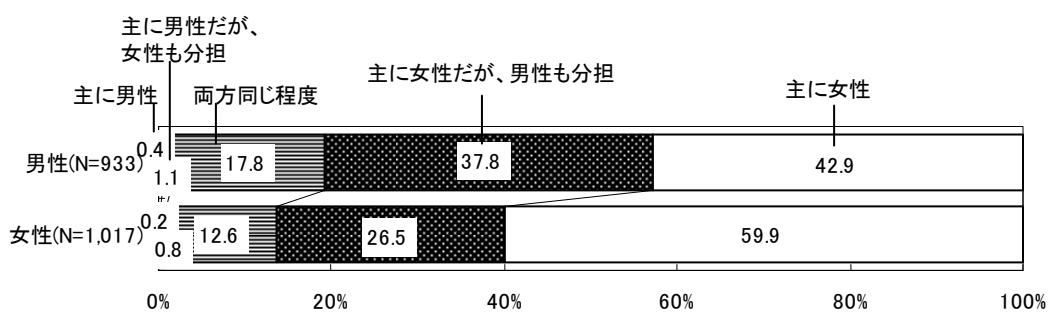


【理想の性・年代別】



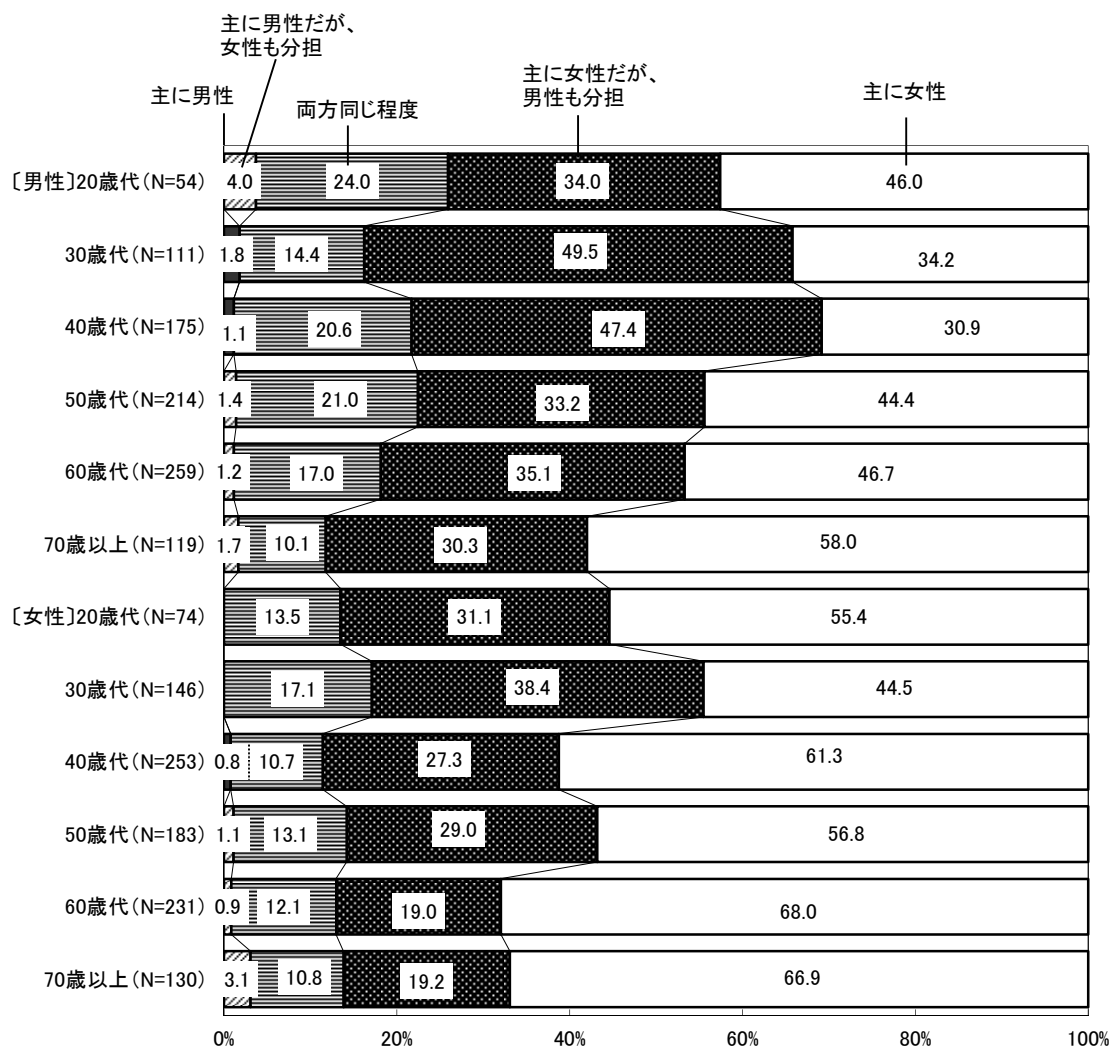
【現実の性別】

現実では「主に女性」は男性で 42.9%、女性で 59.9%と女性の方が多くなっている。
 「両方同じ程度」は男性 17.8%、女性 12.6%で男性の方が多くなっている。



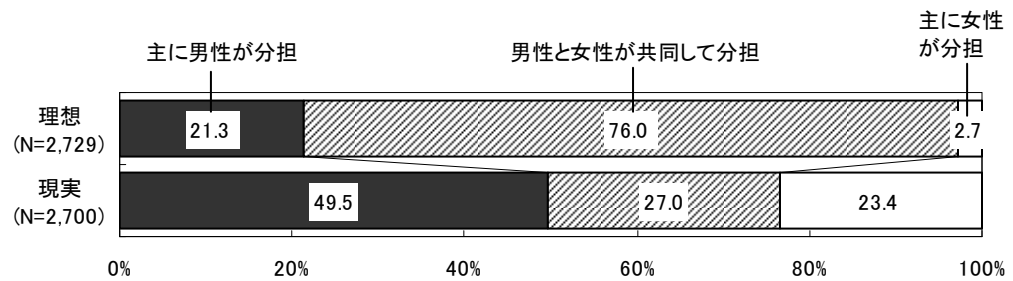
【現実の性・年代別】

年齢が高くなるほど「主に女性」が多くなる傾向になっている。



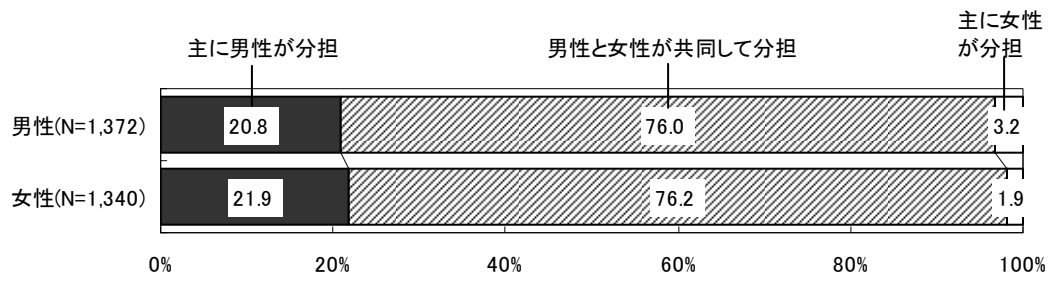
(10) 自治会等の地域活動への参加

理想では「男性と女性が共同して分担」が76.0%と最も多くなっているが、現実では「両方同じ程度」は27.0%で、『主に男性が担っている』が、49.5%と最も多くなっている。

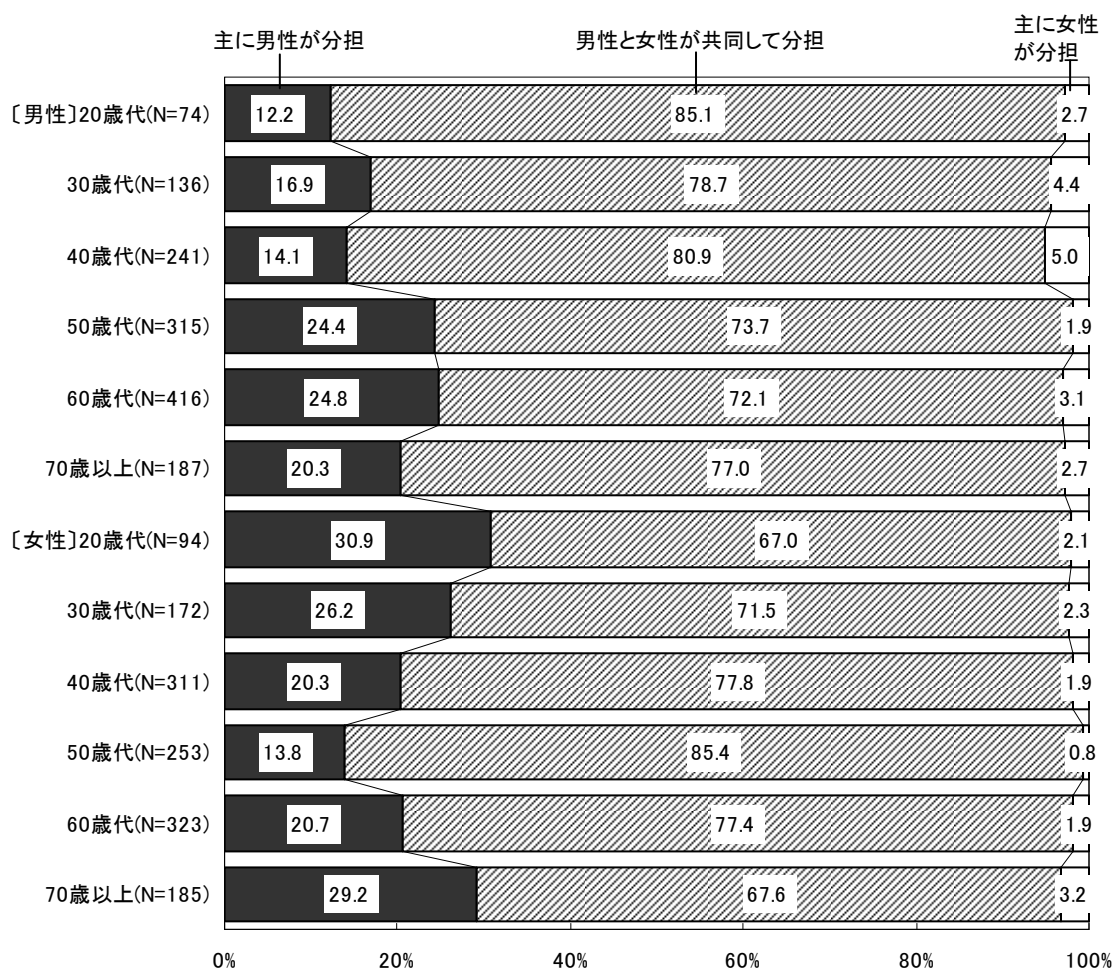


【理想の性別】

男性、女性ともに「男性と女性が共同して分担」が最も多くなっている。

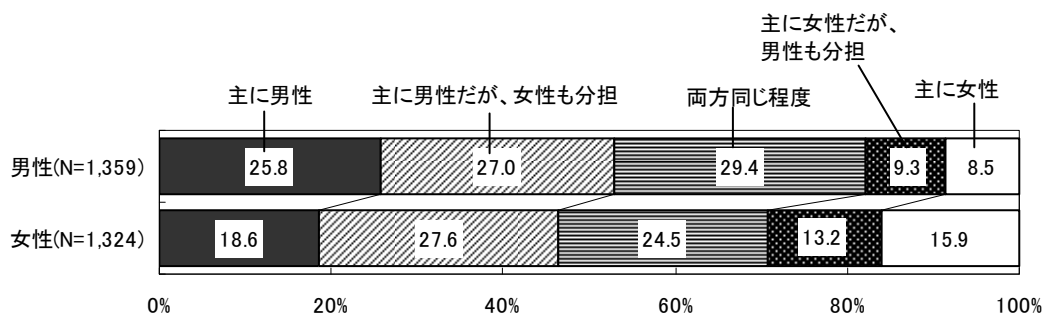


【理想の性・年代別】

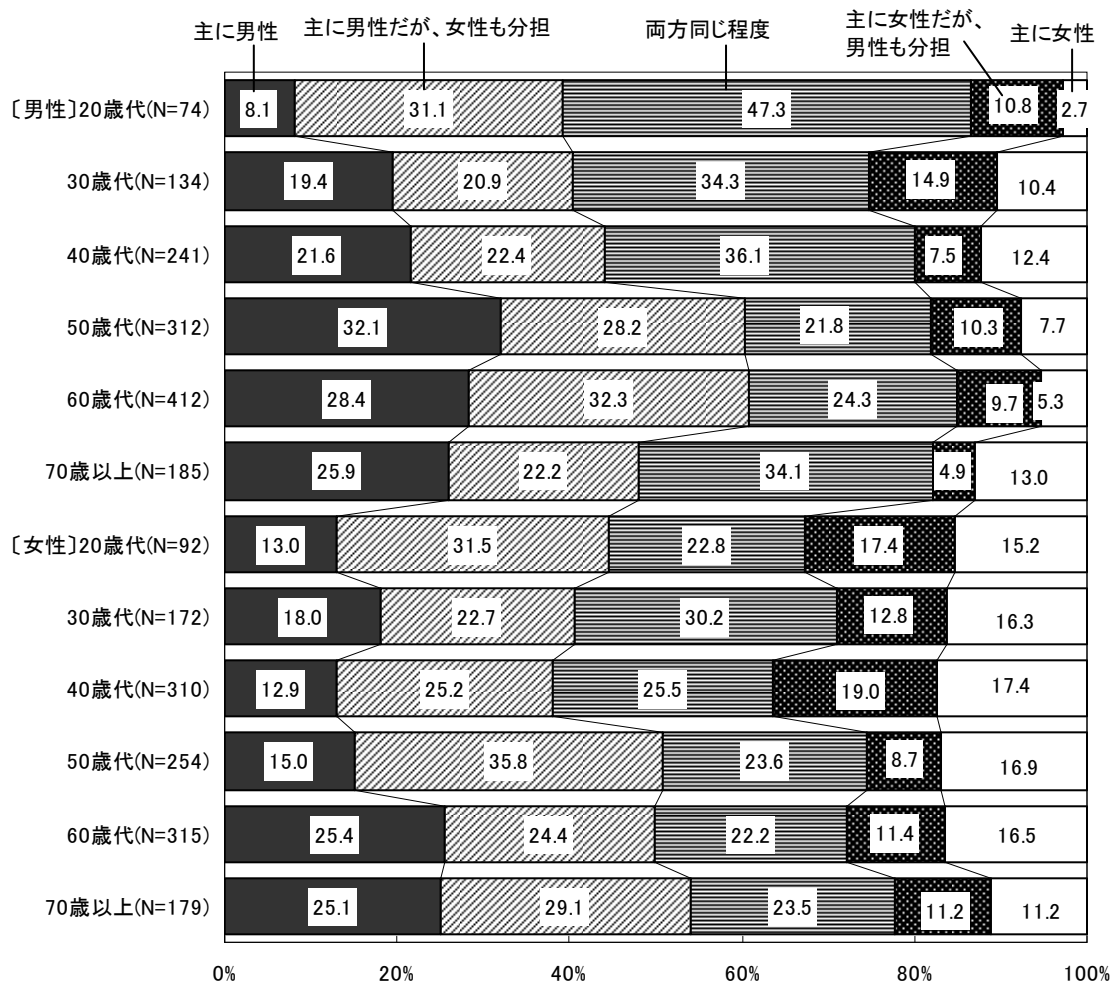


【現実の性別】

現実では「主に男性」は男性で 25.8%、女性で 18.6%と男性の方が多くなっている。「両方同じ程度」は男性 29.4%、女性 24.5%で男性の方が多くなっている。



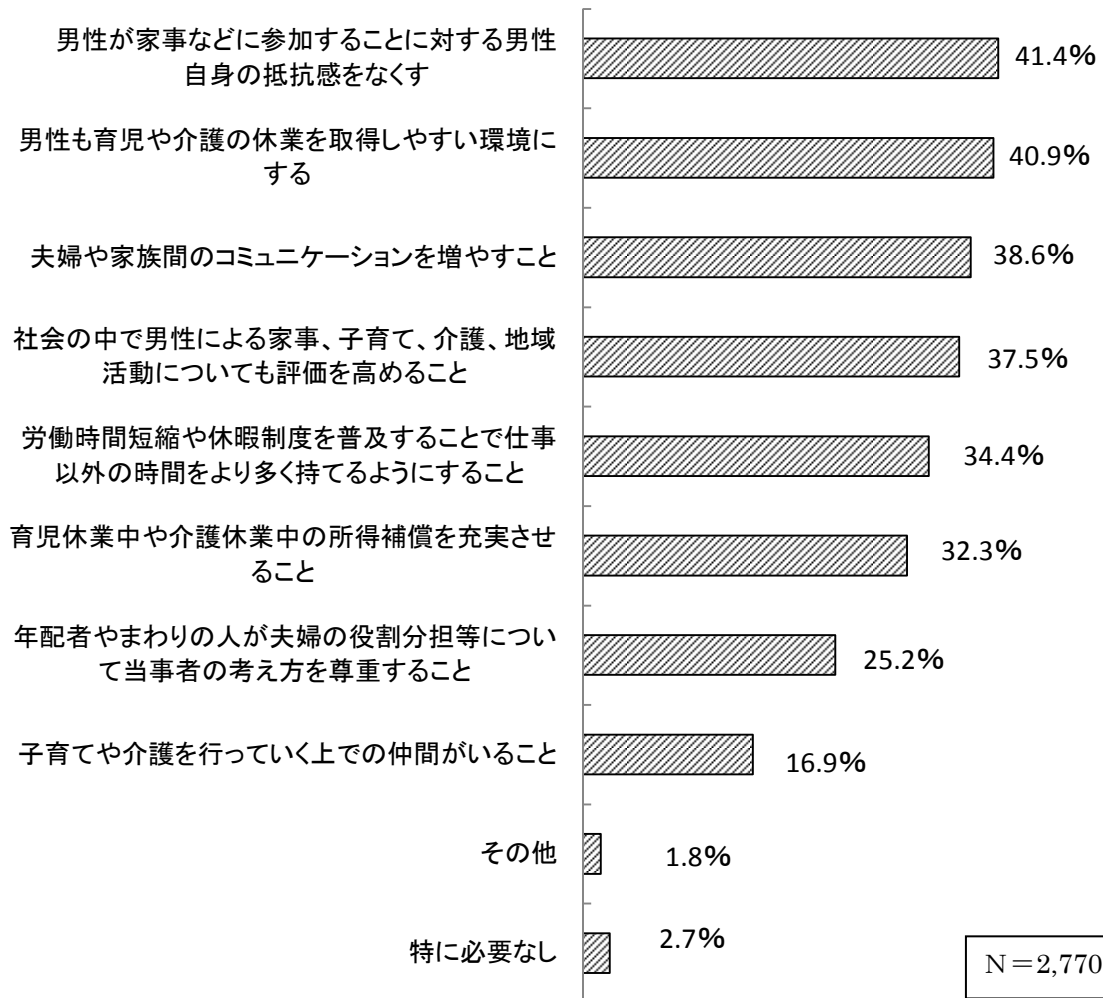
【現実の性・年代別】



2 男性が家事、育児、介護等に積極的に参加するために必要なこと

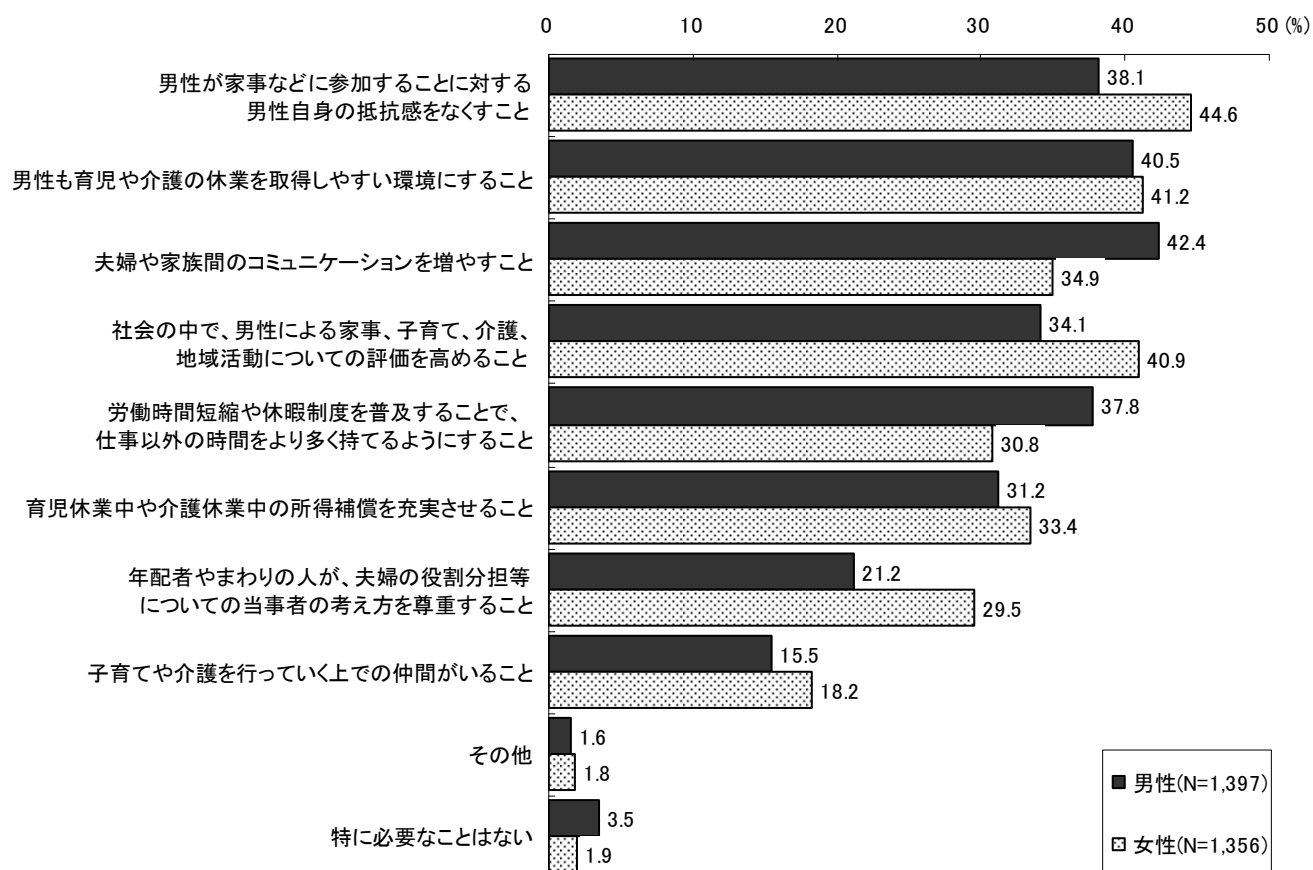
(あてはまるものを3つまで選択)

● 「男性自身の抵抗感をなくすこと」や「育児休業や介護休業を取得しやすい環境」が多い



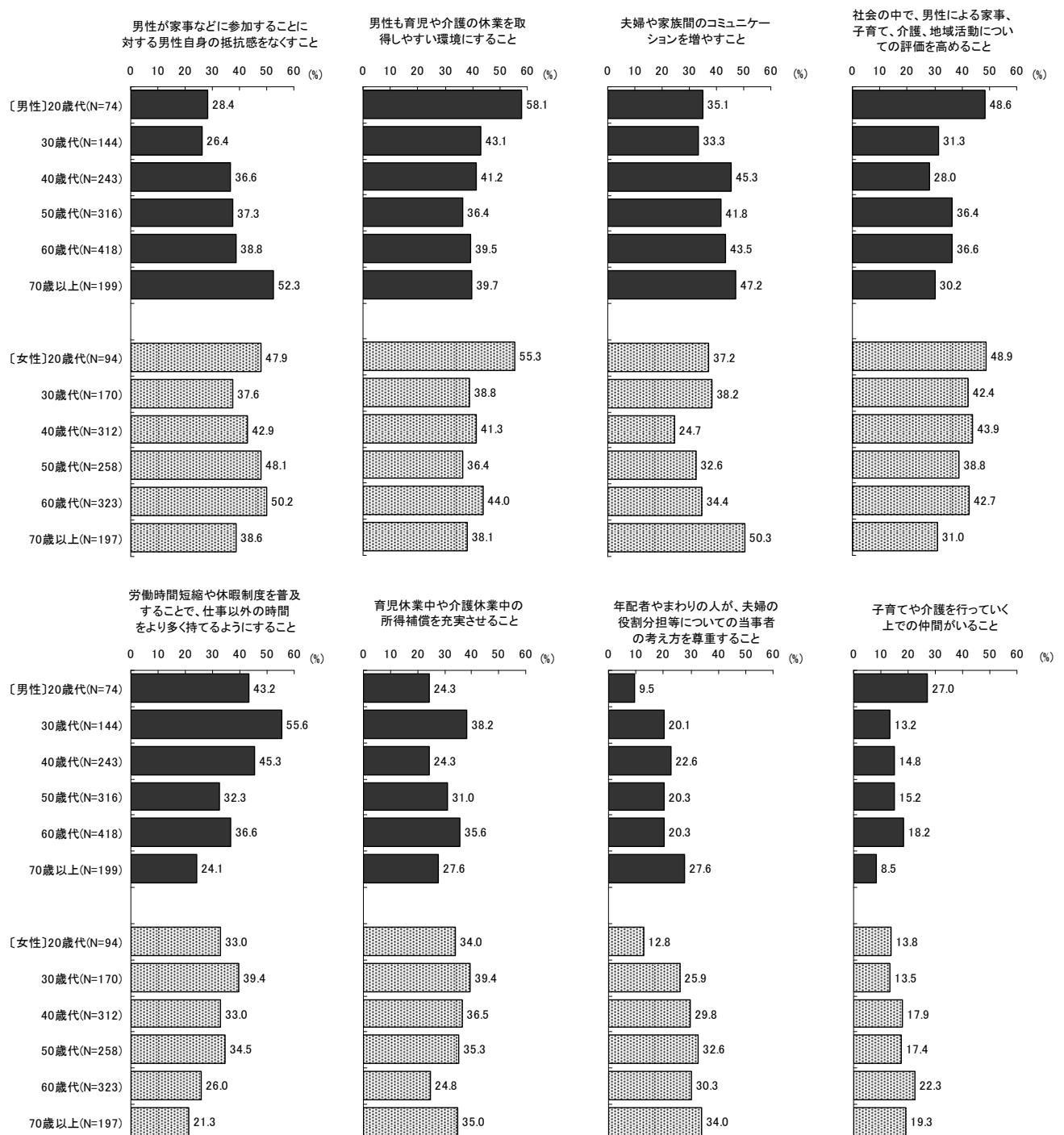
【性別】

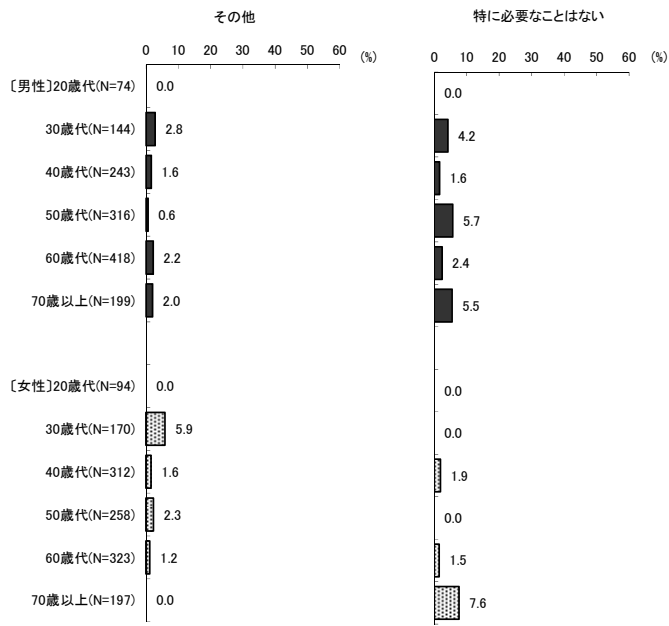
男性が家事、育児、介護等に積極的に参加するために必要なことは、男性では「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」(42.4%)が最も多く、次いで「男性も育児や介護の休業をとりやすい環境にすること」(40.5%)が多くなっている。女性では「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(44.6%)が最も多く、次いで「男性も育児や介護の休業をとりやすい環境にすること」(41.2%)、「社会の中で、男性による家事、子育て、介護、地域活動について評価を高めること」(40.9%)となっている。



【性・年代別】

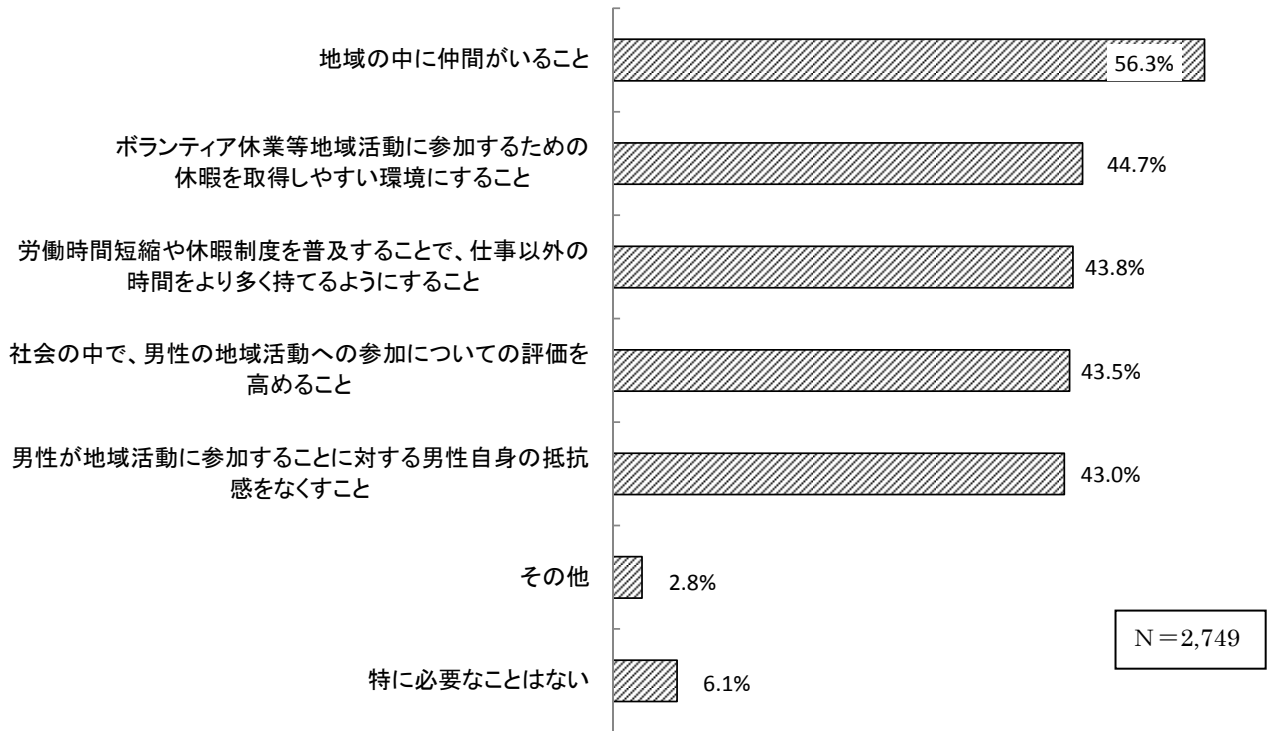
「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は、20歳代、30歳代の男性では他の年代に比べて少なくなっている。「夫婦や家族間のコミュニケーションを増やすこと」は40歳代以上の男性に多く、「男性も育児や介護の休業をとりやすい環境にすること」は20歳代の男女で多くなっている。





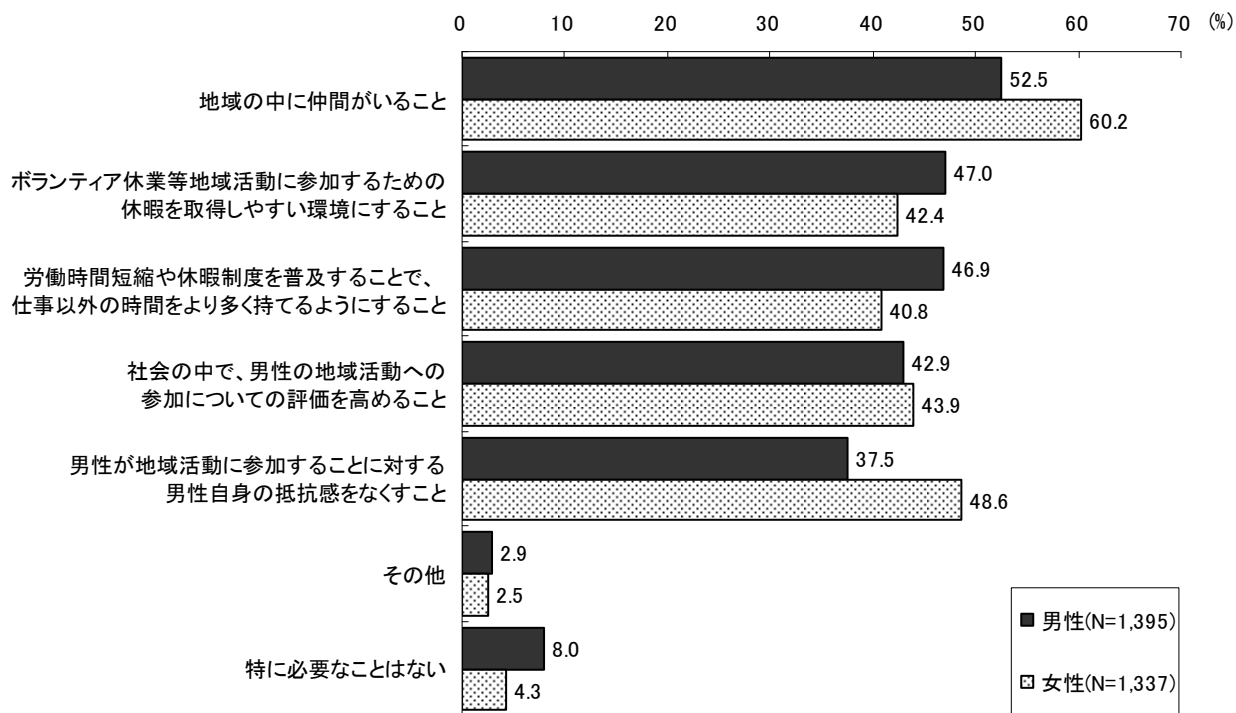
3 男性が地域活動に積極的に参加するために必要なこと(あてはまるものを3つまで選択)

●「地域の中に仲間がいること」が最も多い



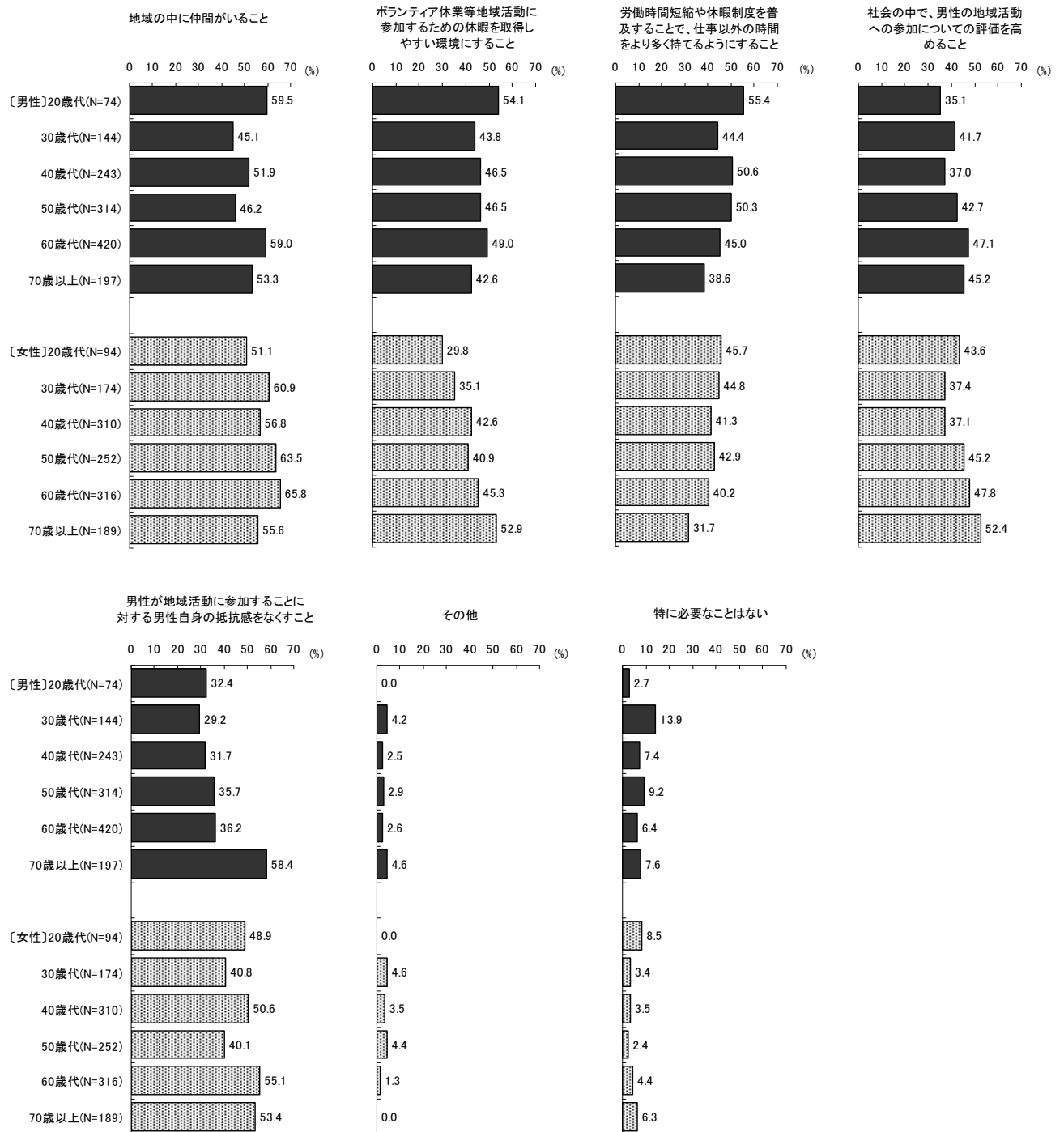
【性別】

男性が地域活動に積極的に参加するために必要なことは、男女ともに「地域に仲間がいること」（男性 52.5%、女性 60.2%）が最も多くなっている。女性では、「男性が地域活動に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が 48.6%であり、男性（37.5%）を 11.1 ポイント上回っている。



【性・年代別】

「男性が地域活動に参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」は、他の層に比べて 70 歳以上の男性で多くなっている。「ボランティア休業等地域に参加するための休暇を取得しやすい環境にすること」と「労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」は 20 歳代の男性で多くなっている。



4 仕事と生活の調和について

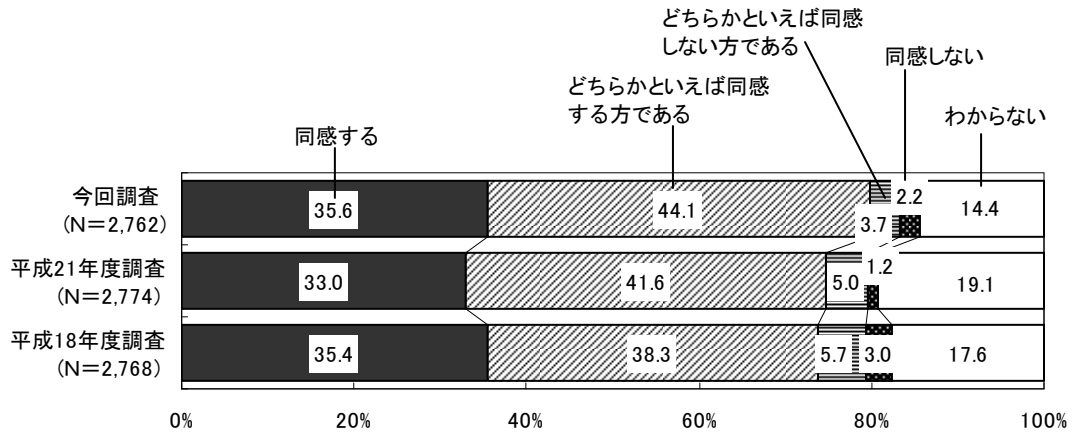
1 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス※）についての考え方

※ワーク・ライフ・バランスとは

一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすと共に、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる状態のこと。

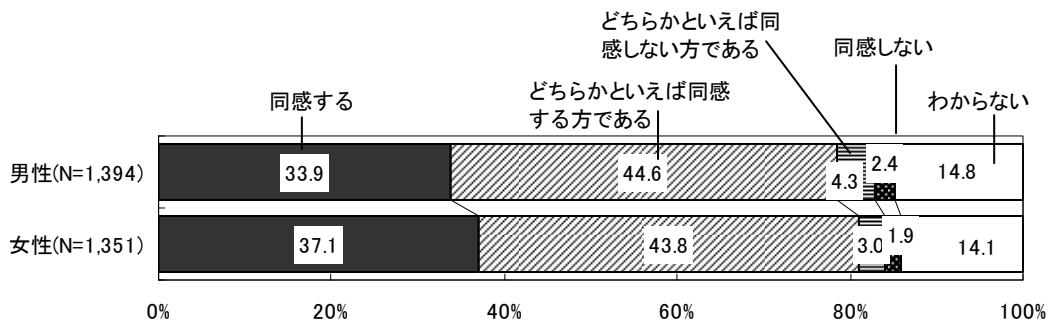
●『同感する』は全体で 79.7%

仕事と生活の調和についての考え方に『同感する』（「同感する」と「どちらかといえば同感する方である」の合計）は 79.7%で、平成 21 年度調査と比較すると、5.1 ポイント上昇している。



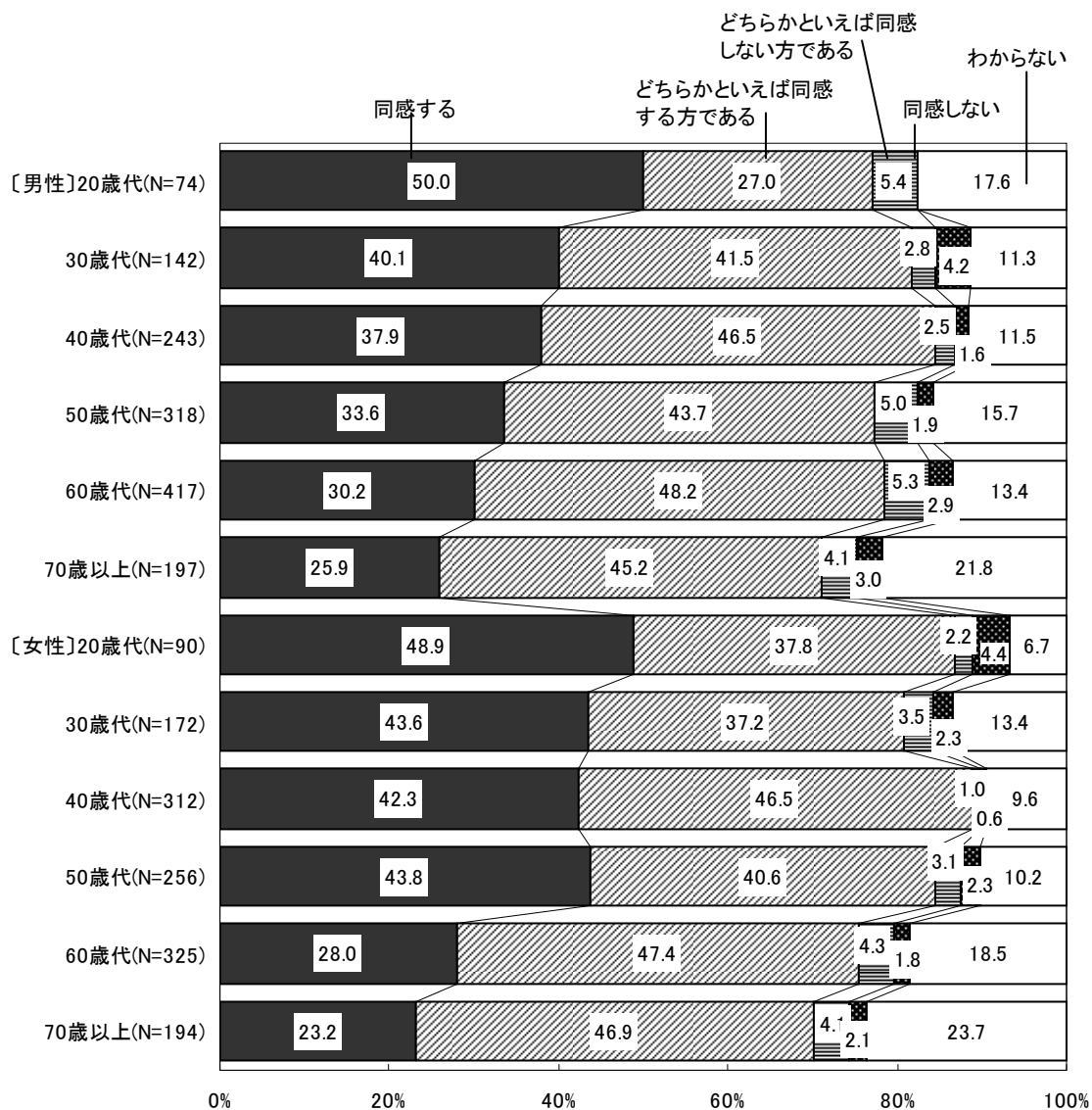
【性別】

『同感する』は、男性 78.5%、女性 80.9%で女性の方が多くなっている。



【性・年代別】

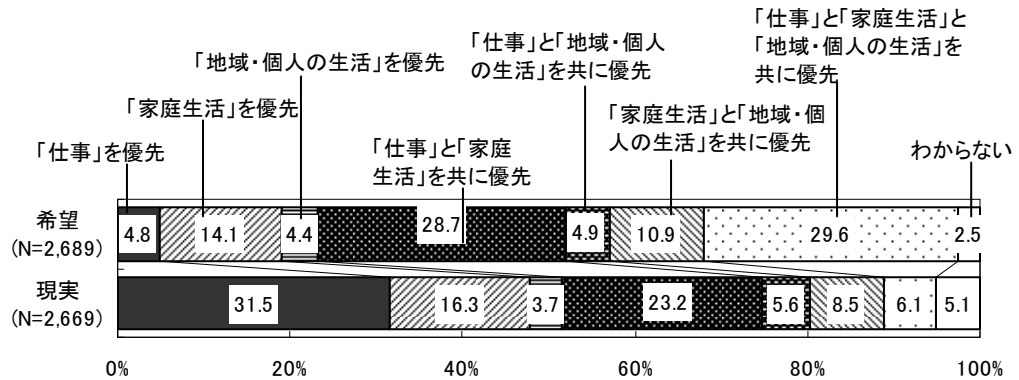
「同感する」は、男女とも年齢が高くなるにつれ少なくなり、「わからない」が多くなっている。



2 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度

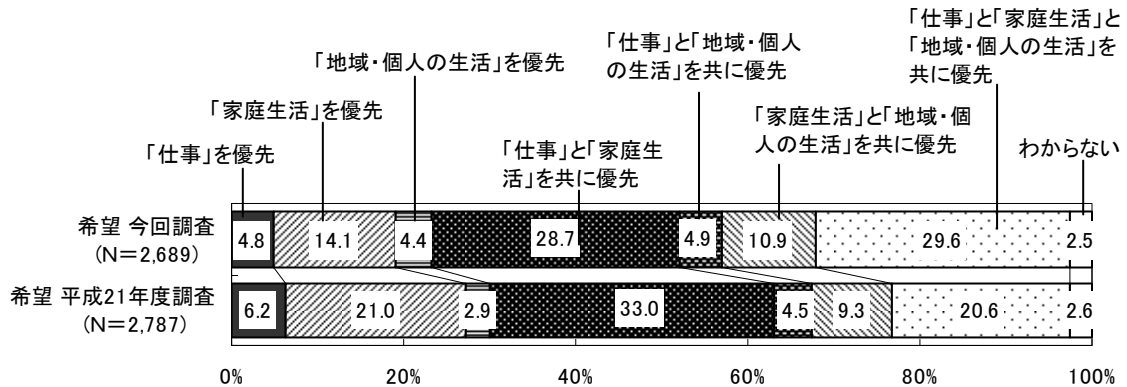
●希望は「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を共に優先」、現実には「仕事を優先」

生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度の希望は、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を共に優先」が 29.6%と最も多く、次いで「仕事と家庭生活を共に優先」(28.7%) となっている。しかし、現実では「仕事を優先」が 31.5%と最も多くなっている。



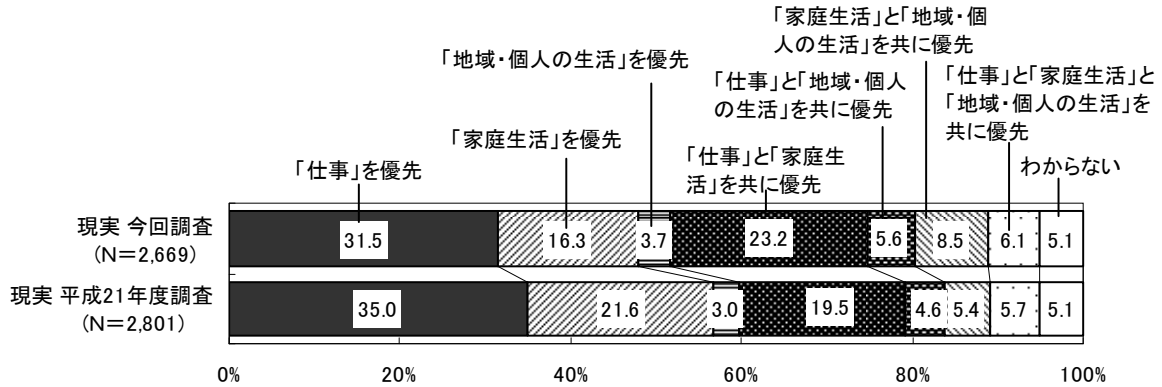
【希望の経年比較】

希望について平成 21 年度調査と比較すると、「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を共に優先」が 9.0 ポイント上昇し、「家庭生活を優先」は 6.9 ポイント、「仕事と家庭生活を共に優先」は 4.3 ポイント低下している。



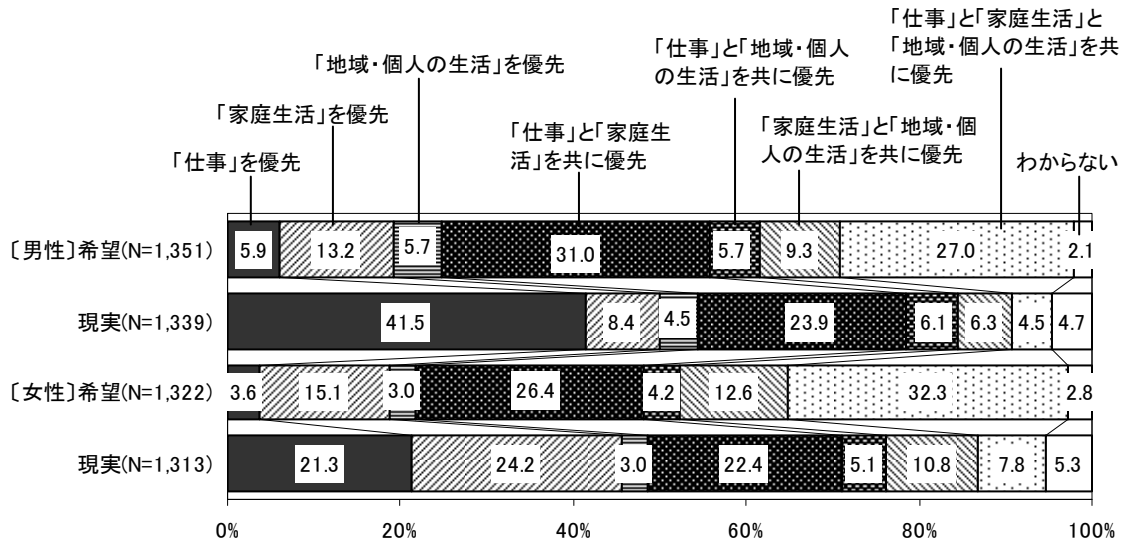
【現実の経年比較】

現実について平成 21 年度調査と比較すると、「仕事と家庭生活を共に優先」が 3.7 ポイント上昇し、「仕事を優先」は 3.5 ポイント、「家庭生活を優先」は 5.3 ポイント低下している。



【性別】

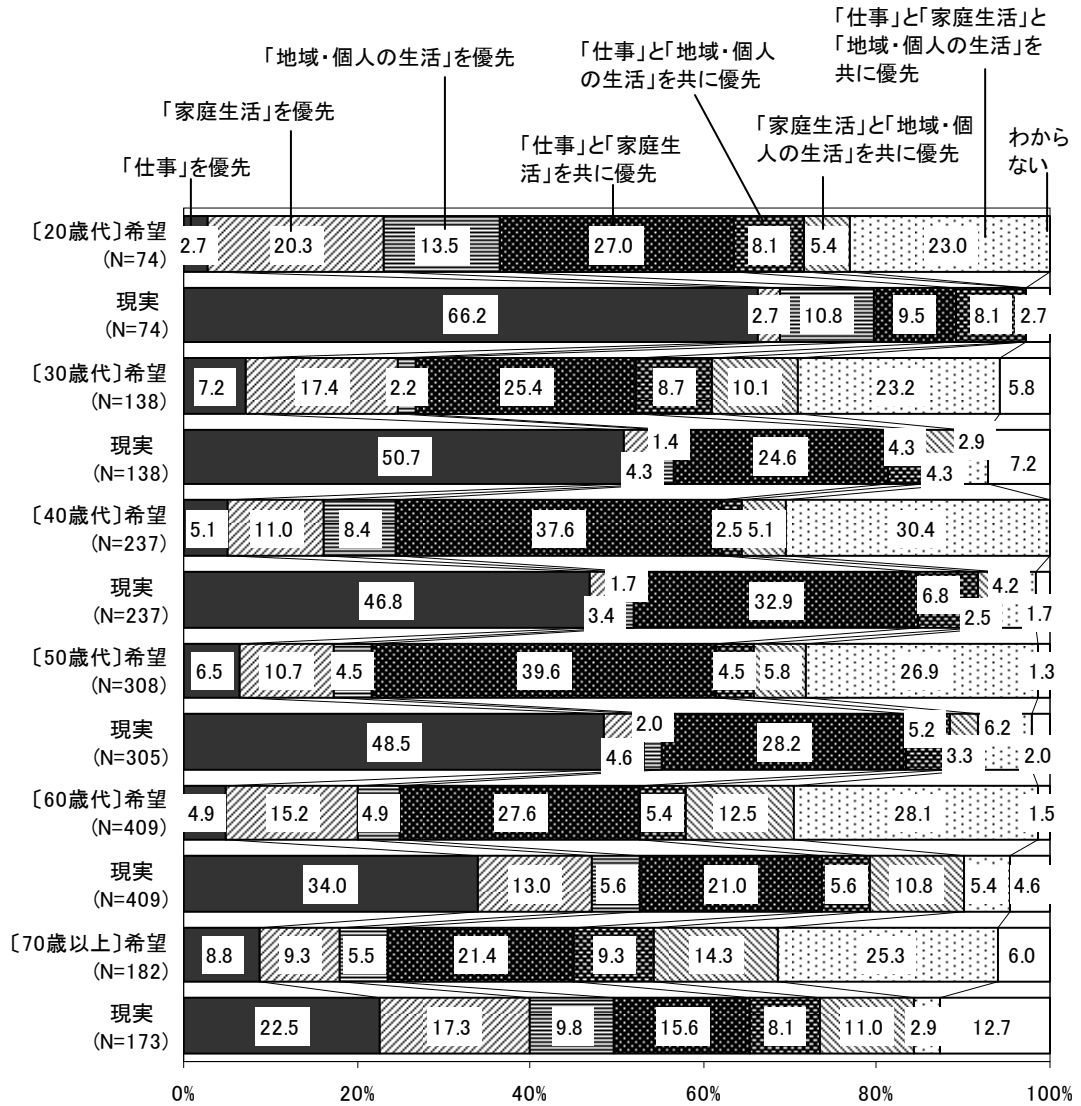
希望は、男性では「仕事と家庭生活を共に優先」(31.0%)、女性では「仕事と家庭生活と地域・個人の生活を共に優先」(32.3%) が最も多く、現実は、男性では「仕事を優先」(41.5%)、女性では「家庭生活を優先」(24.2%) が最も多くなっている。



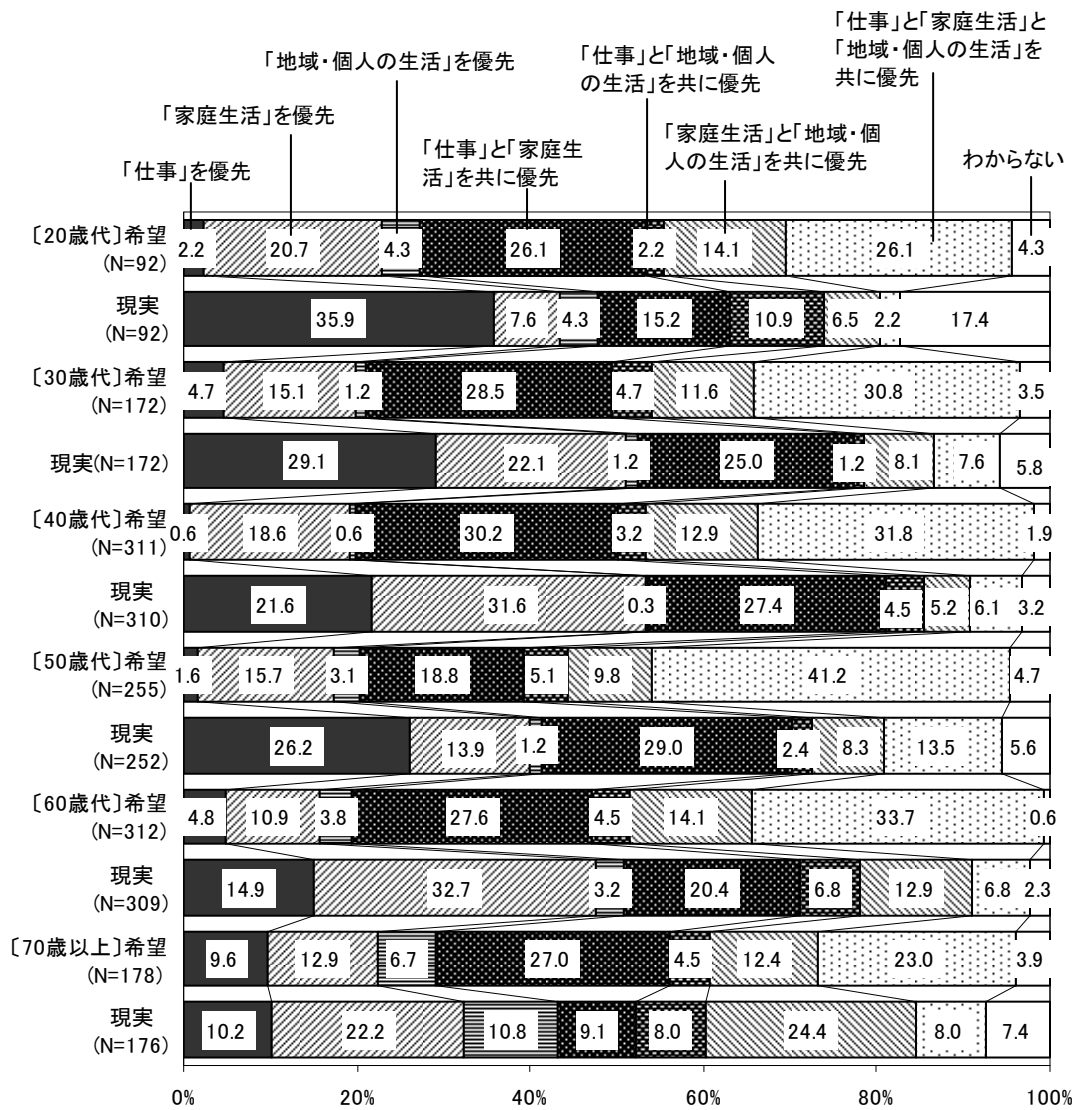
【性・年代別】

現実では 20 歳代～50 歳代の男性で「仕事を優先」が多く、30 歳代、40 歳代、60 歳代の女性で「家庭生活を優先」が多くなっている。

[男性]



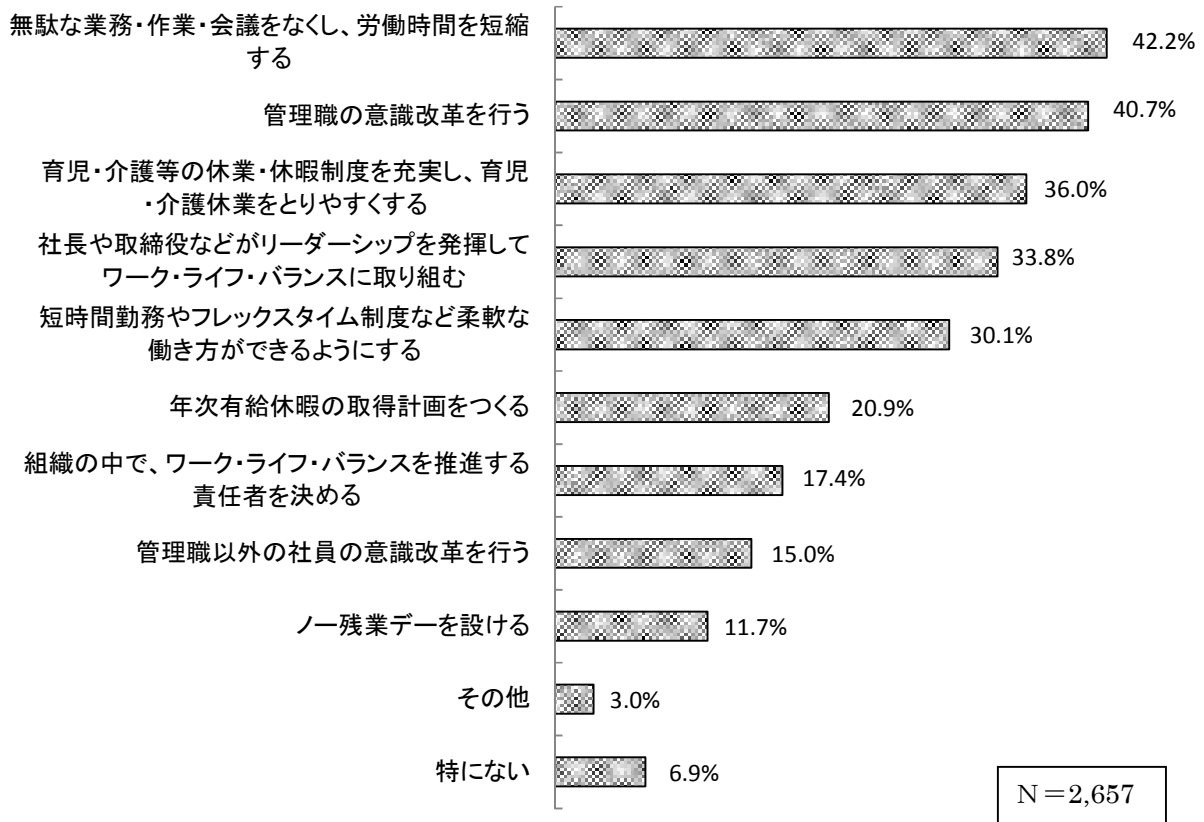
[女性]



3 仕事と生活の調和が実現された社会に近づくために職場における必要な取組

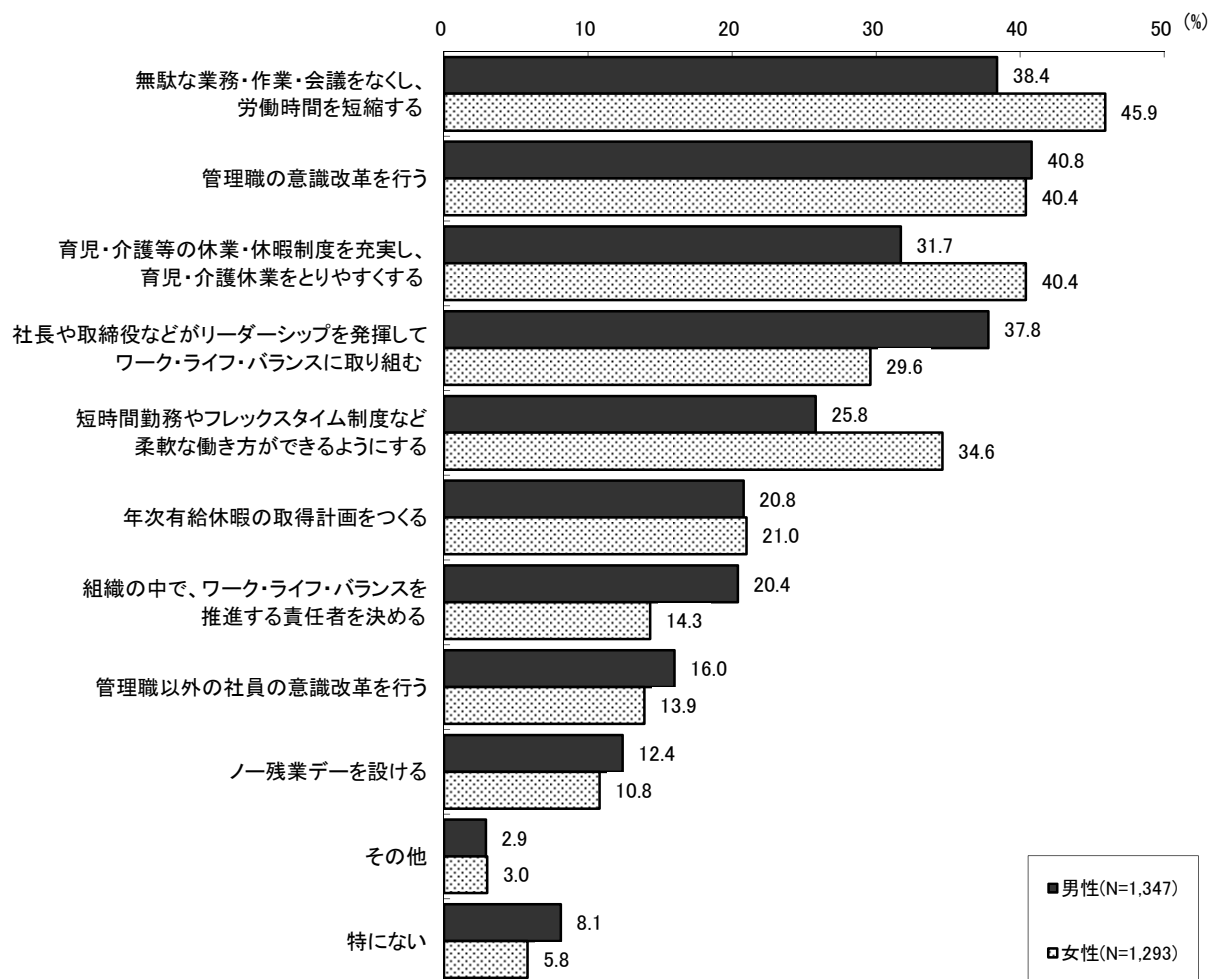
(あてはまるもの3つまで選択)

●「労働時間の短縮」や「管理職の意識改革」が上位



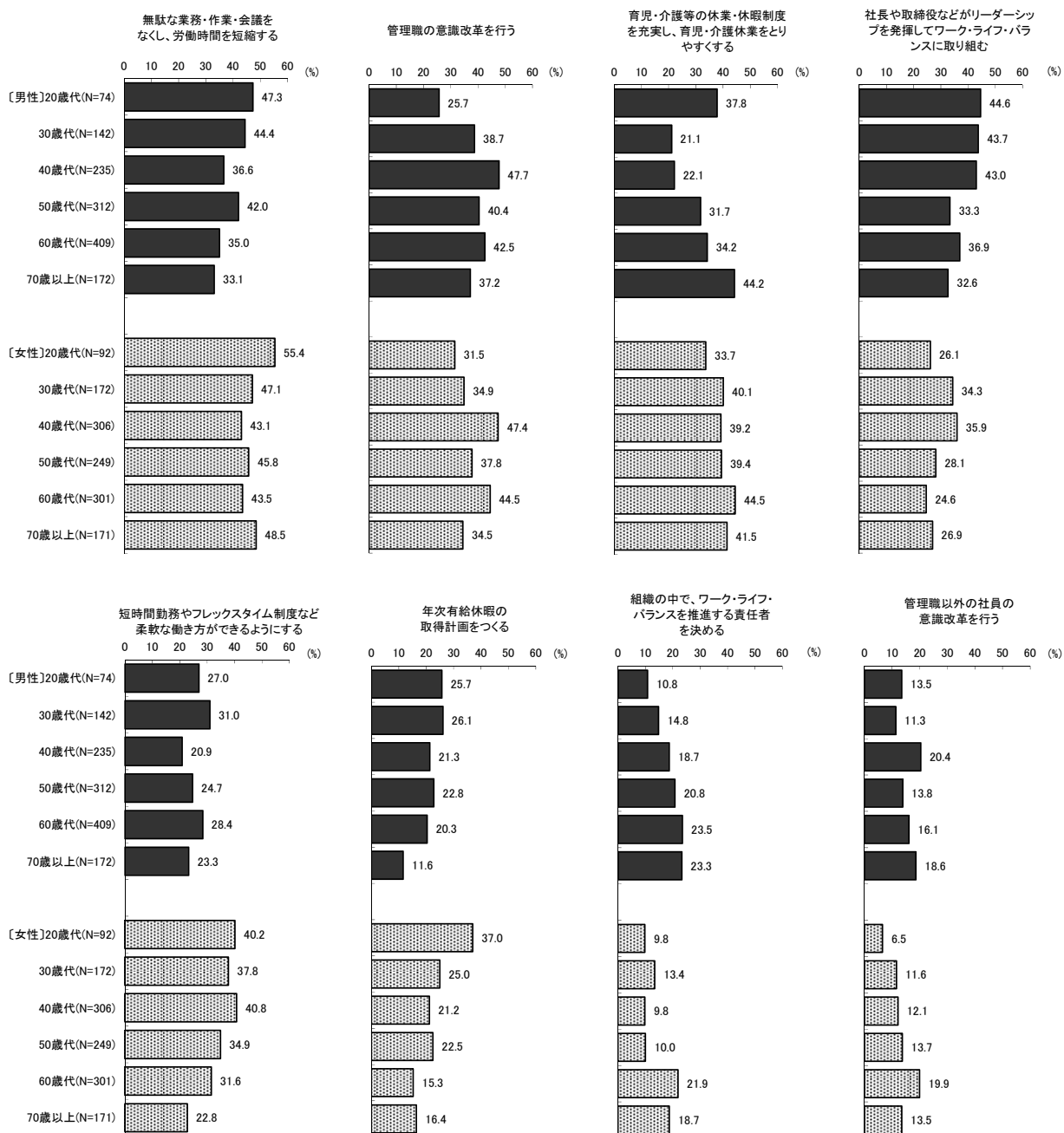
【性別】

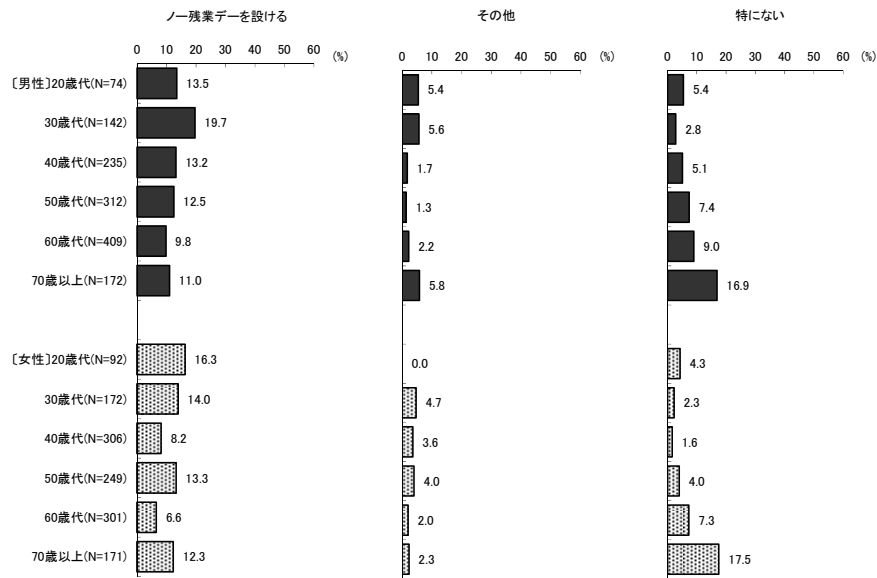
仕事と生活の調和が実現された社会に近づくために職場における必要な取組は、男性では「管理職の意識改革を行うこと」(40.8%)が最も多く、次いで「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」(38.4%)、「社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む」(37.8%)となっている。女性では「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」(45.9%)が最も多く、次いで「管理職の意識改革を行う」(40.4%)、「育児・介護等の休業・休暇制度を充実し、育児・介護休業をとりやすくする」(40.4%)となっている。



【性・年代別】

「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」は若年層に多くなっている。「管理職の意識改革を行うこと」は男女とも40歳代に多くなっている。



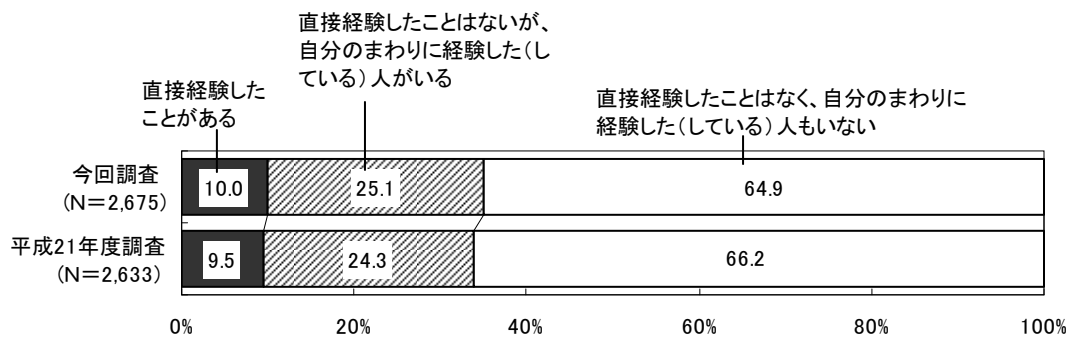


5 女性に対する暴力について

1 夫婦や恋人など親しい人間関係の中で起こる暴力の経験

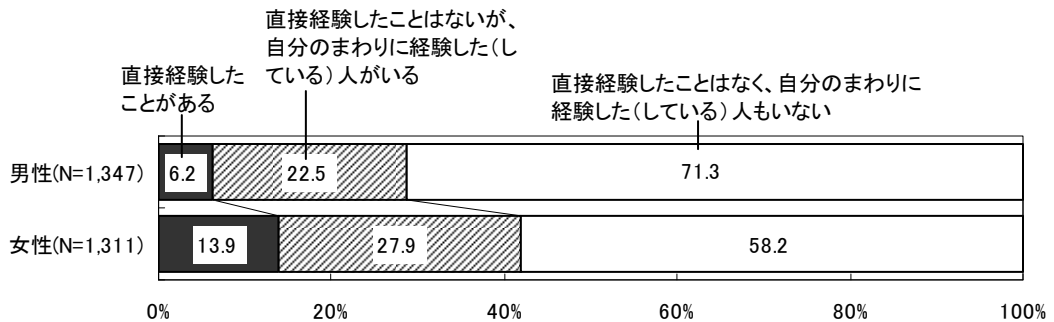
● 「直接経験したことがある」が1割

夫婦や恋人など親しい人間関係の中で起こる暴力について、「直接経験したことがある」が10.0%、「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる」が25.1%となっている。平成21年度調査と比較すると、「直接経験したことがある」は0.5ポイント、「直接経験したことはないが、自分のまわりに経験した（している）人がいる」も0.8ポイント上昇している。



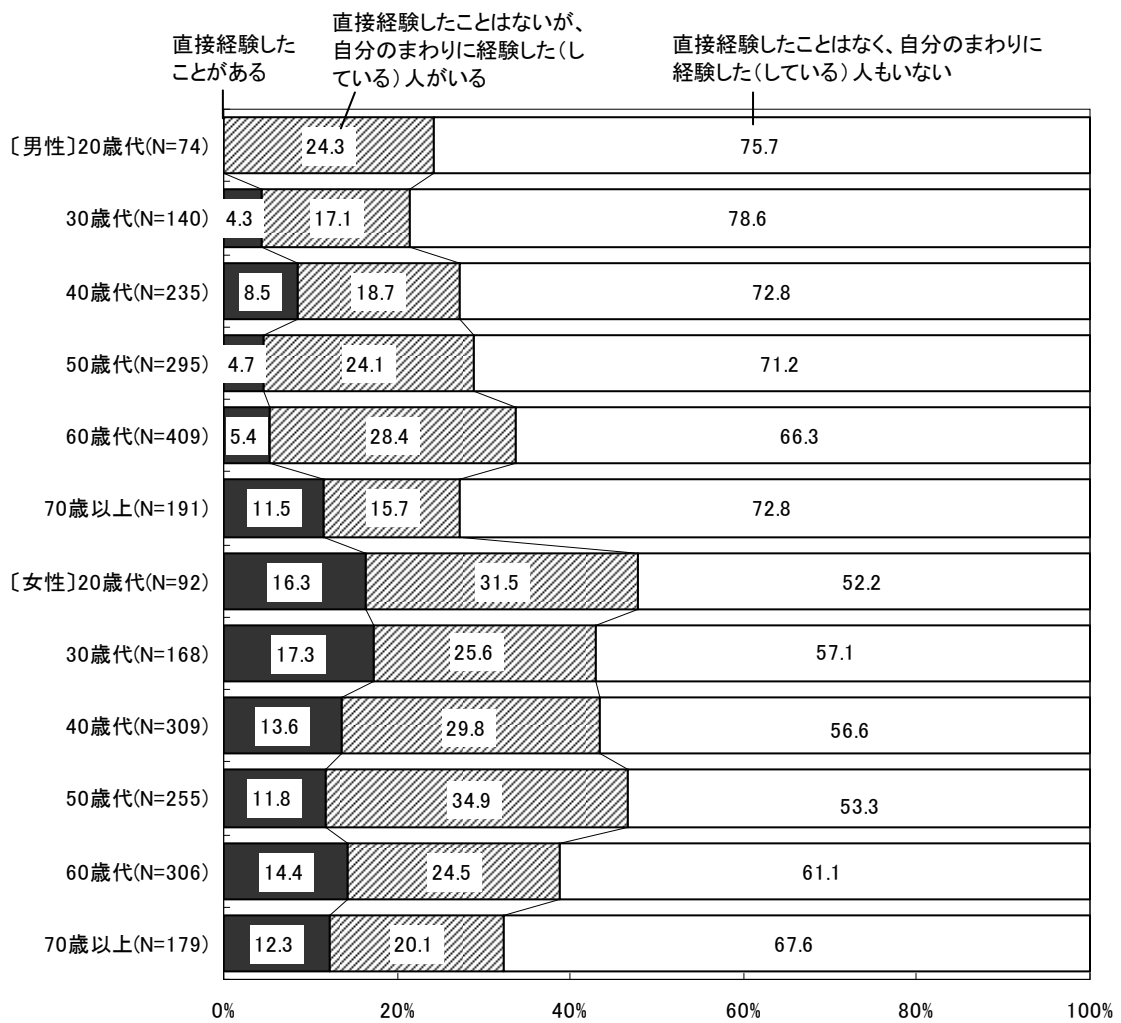
【性別】

女性では「直接経験したことがある」が約7人に1人であり、男性6.2%に比べて、女性が13.9%と多くなっている。



【性・年代別】

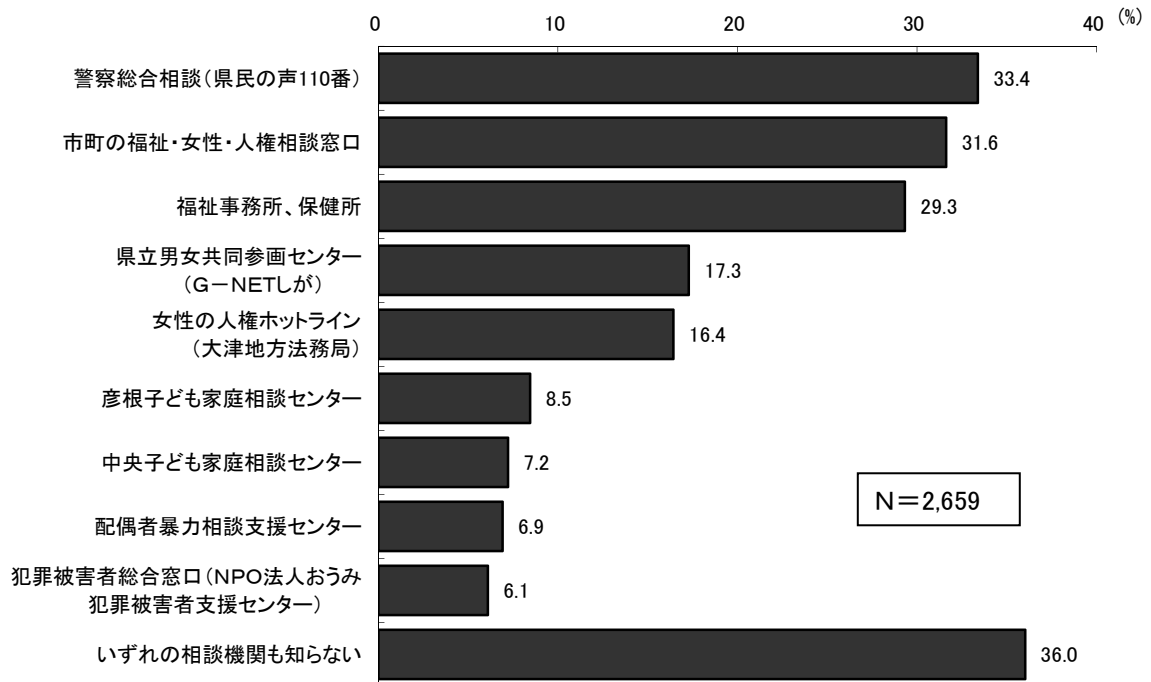
「直接経験したことがある」は20歳代、30歳代の女性で多くなっている。



2 夫婦や恋人の間で相手から暴力を受けたときに相談できる機関の周知度

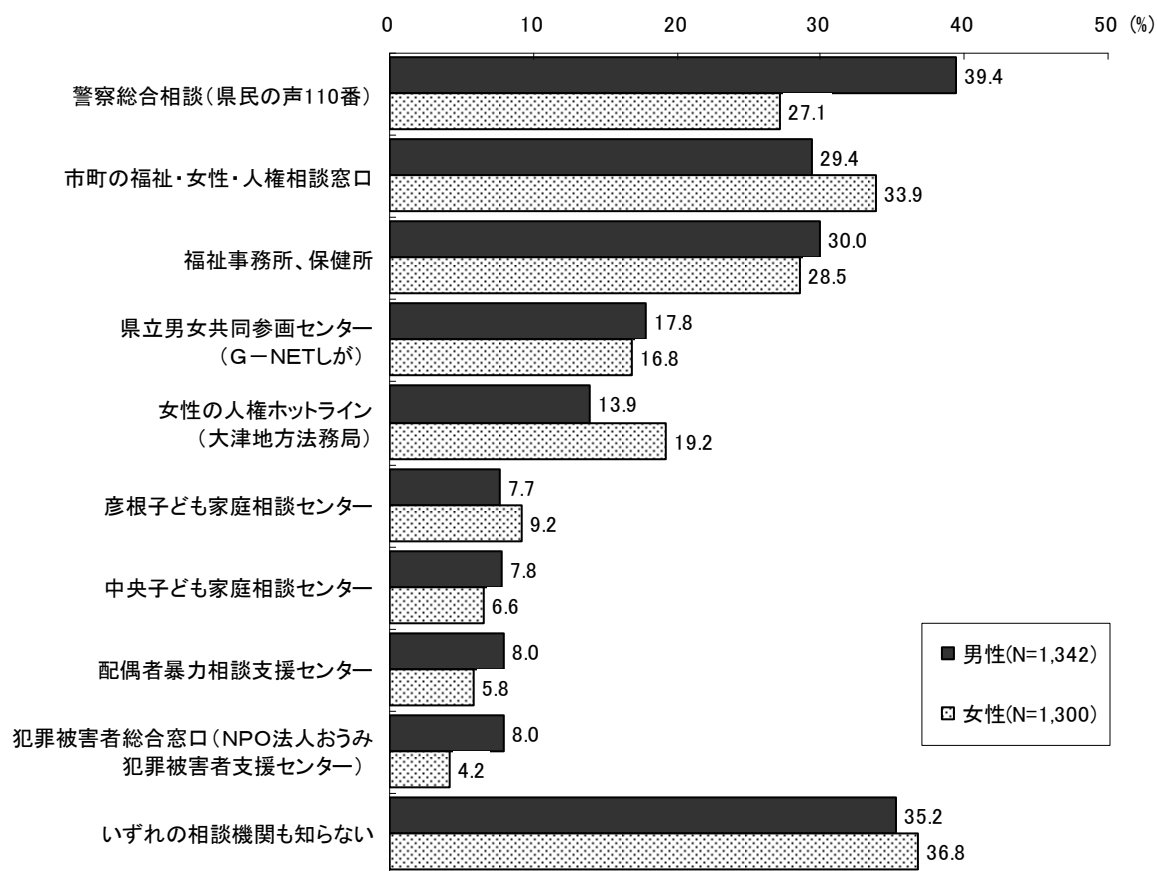
● 「警察総合相談（県民の声 110 番）」、「市町の福祉・女性・人権相談窓口」、「福祉事務所、保健所」が約3割

夫婦や恋人の間で相手から暴力を受けたときに相談できる機関の周知度は、「警察総合相談（県民の声 110 番）」が 33.4%で最も高く、次いで「市町の福祉・女性・人権相談窓口」（31.6%）、「福祉事務所、保健所」（29.3%）となっており、「いずれの相談機関も知らない」は 36.0%となっている。



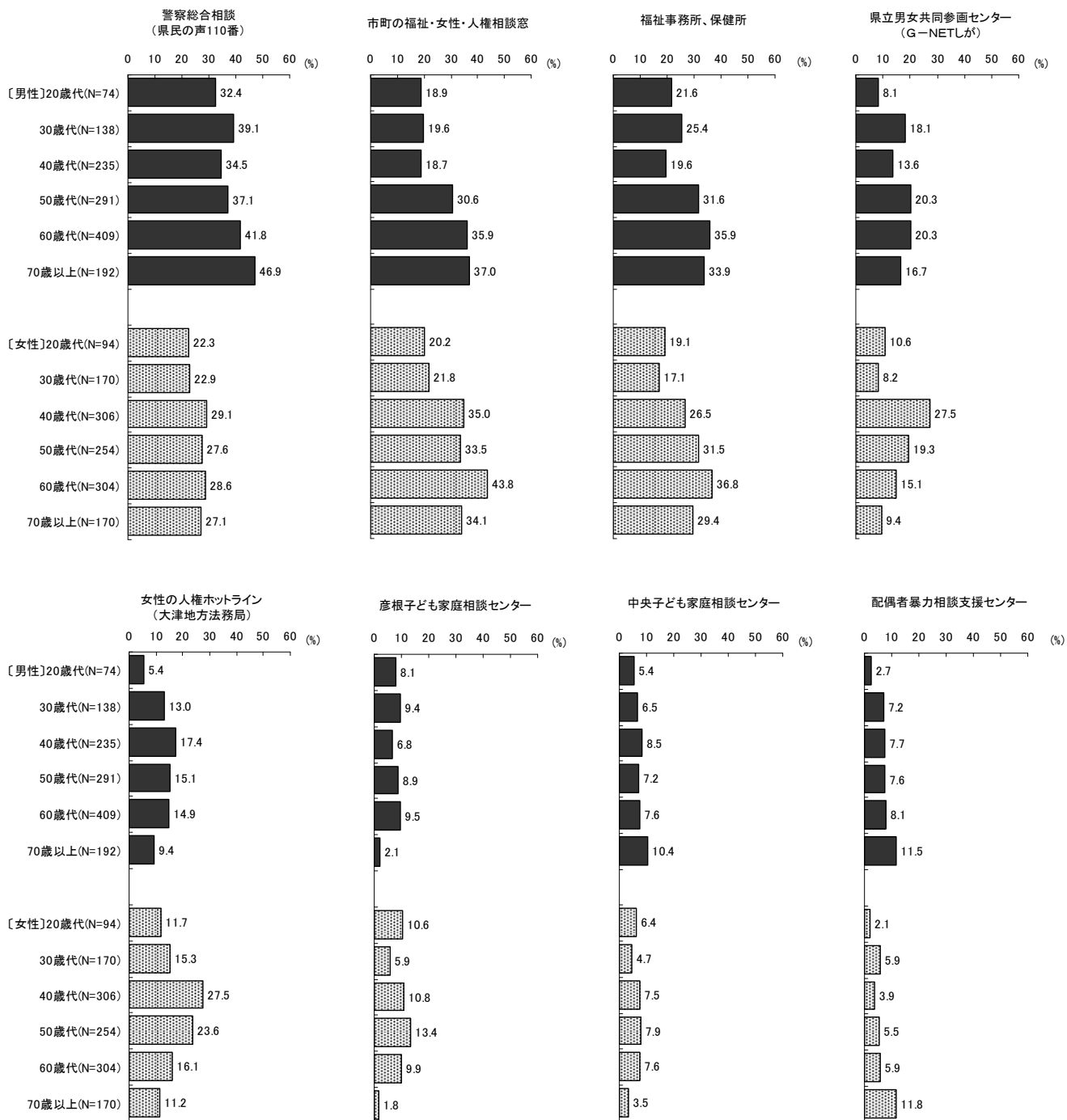
【性別】

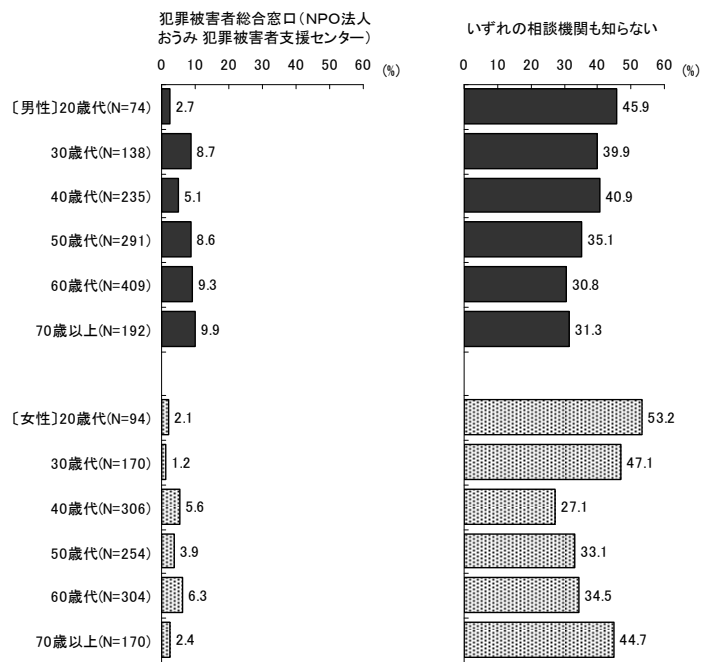
男性では「警察総合相談（県民の声 110 番）」（39.4%）が最も多く、女性では「市町の福祉・女性・人権相談窓口」（33.9%）が最も多い。



【性・年代別】

男女ともに若年層で「いずれの相談機関も知らない」が多くなっている。



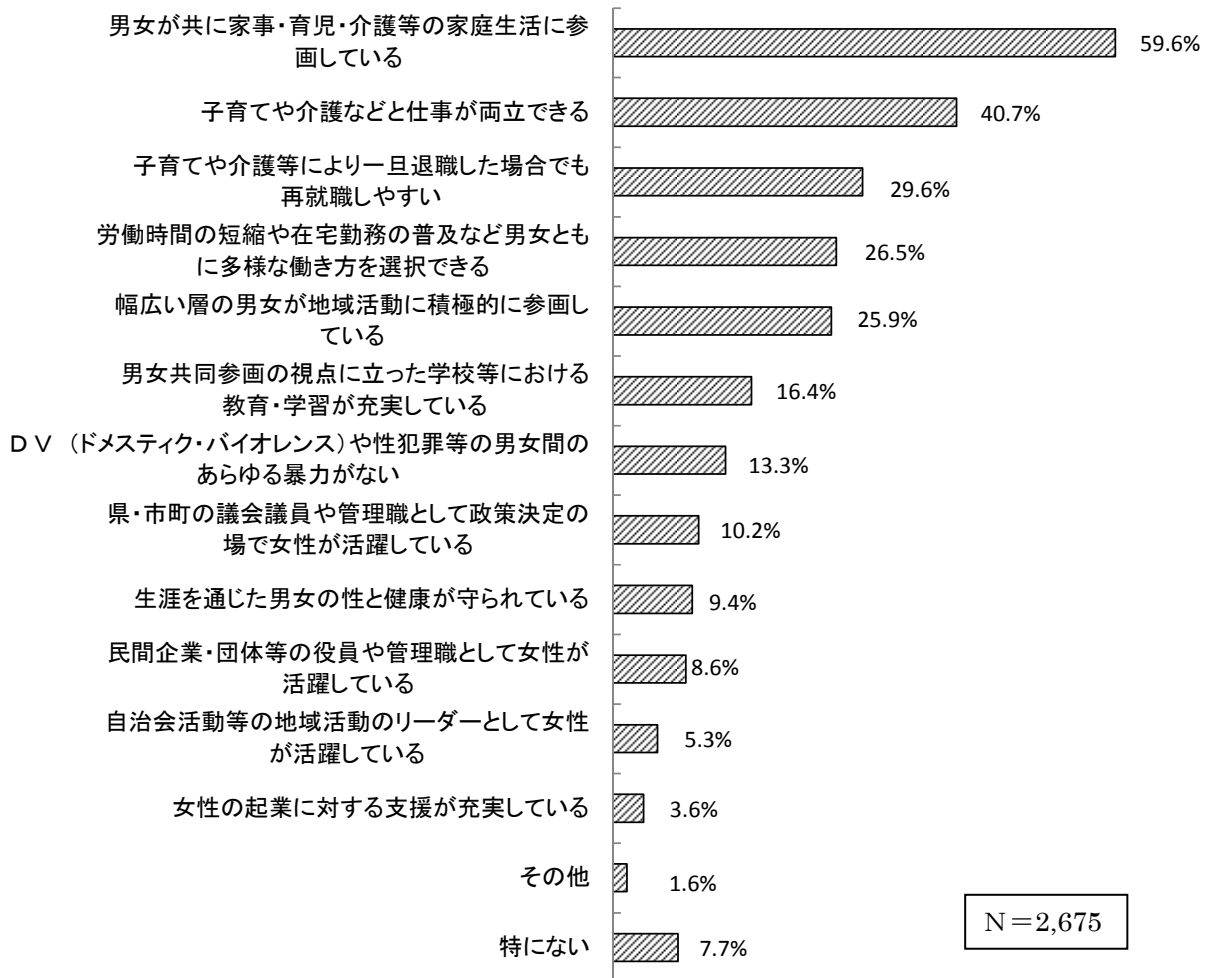


6

男女共同参画社会について

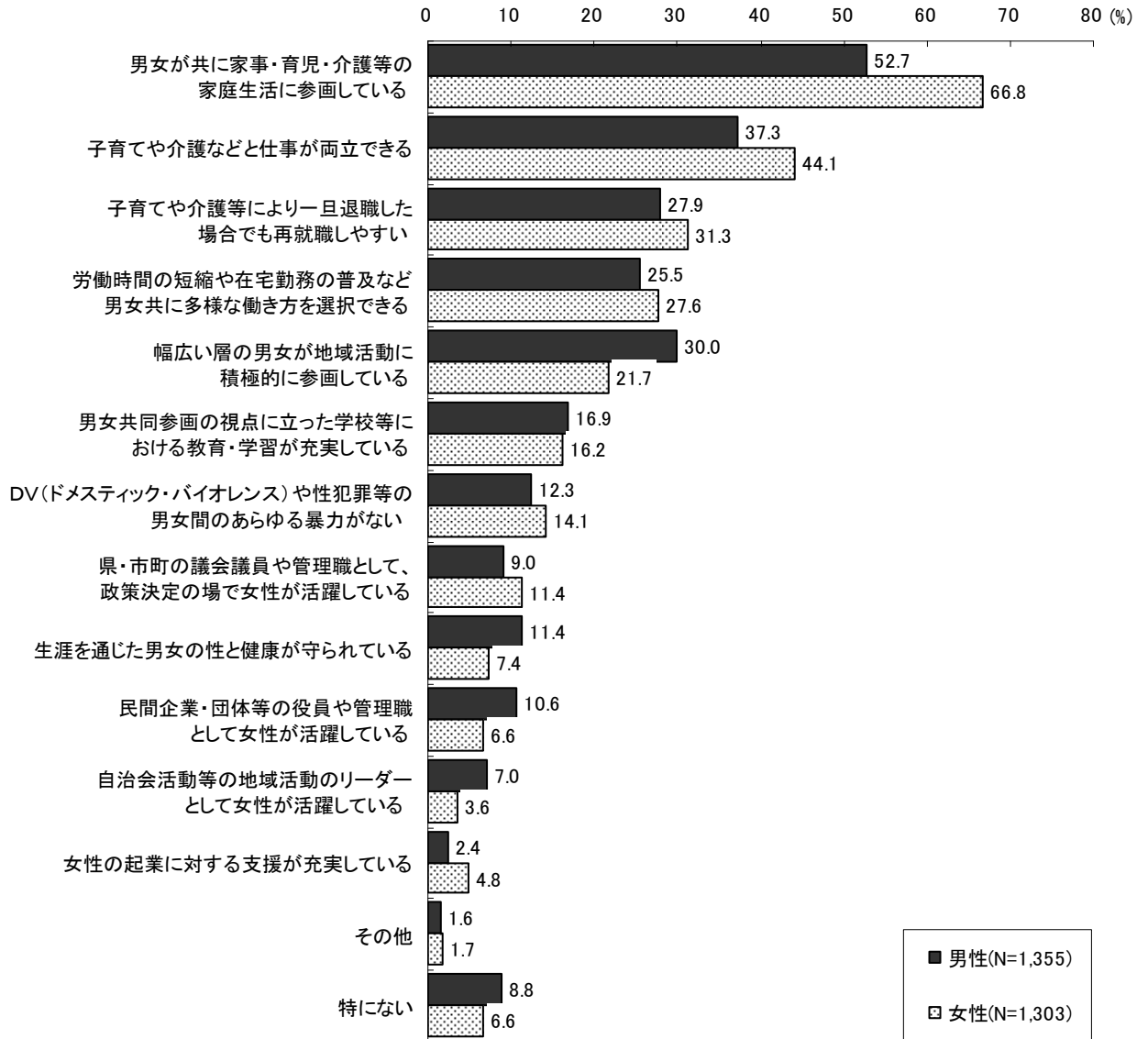
1 理想の男女共同参画社会の姿（あてはまるものを3つまで選択）

● 「男女が共に家事・育児・介護等の家庭生活に参画している」が最も多い



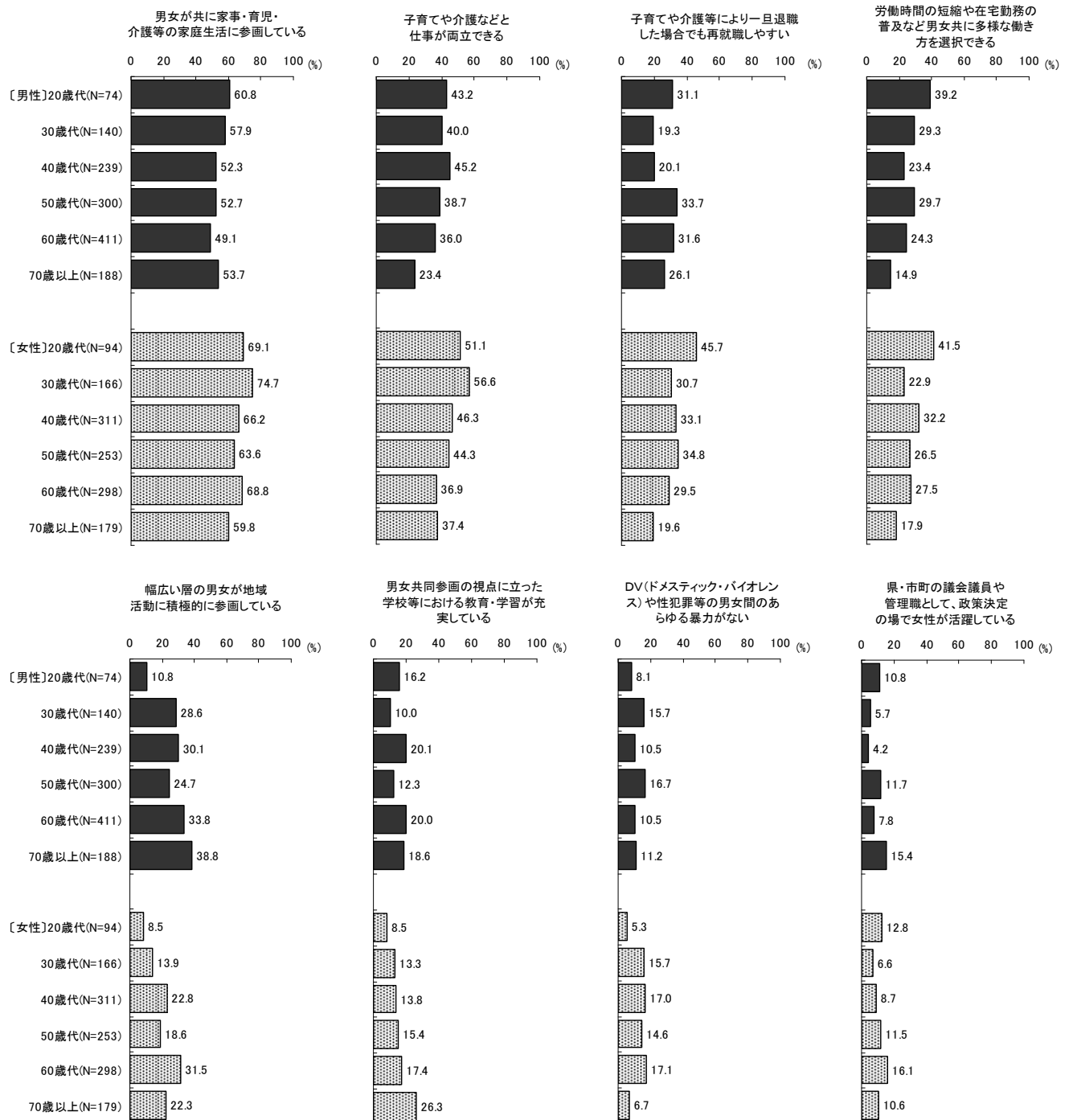
【性別】

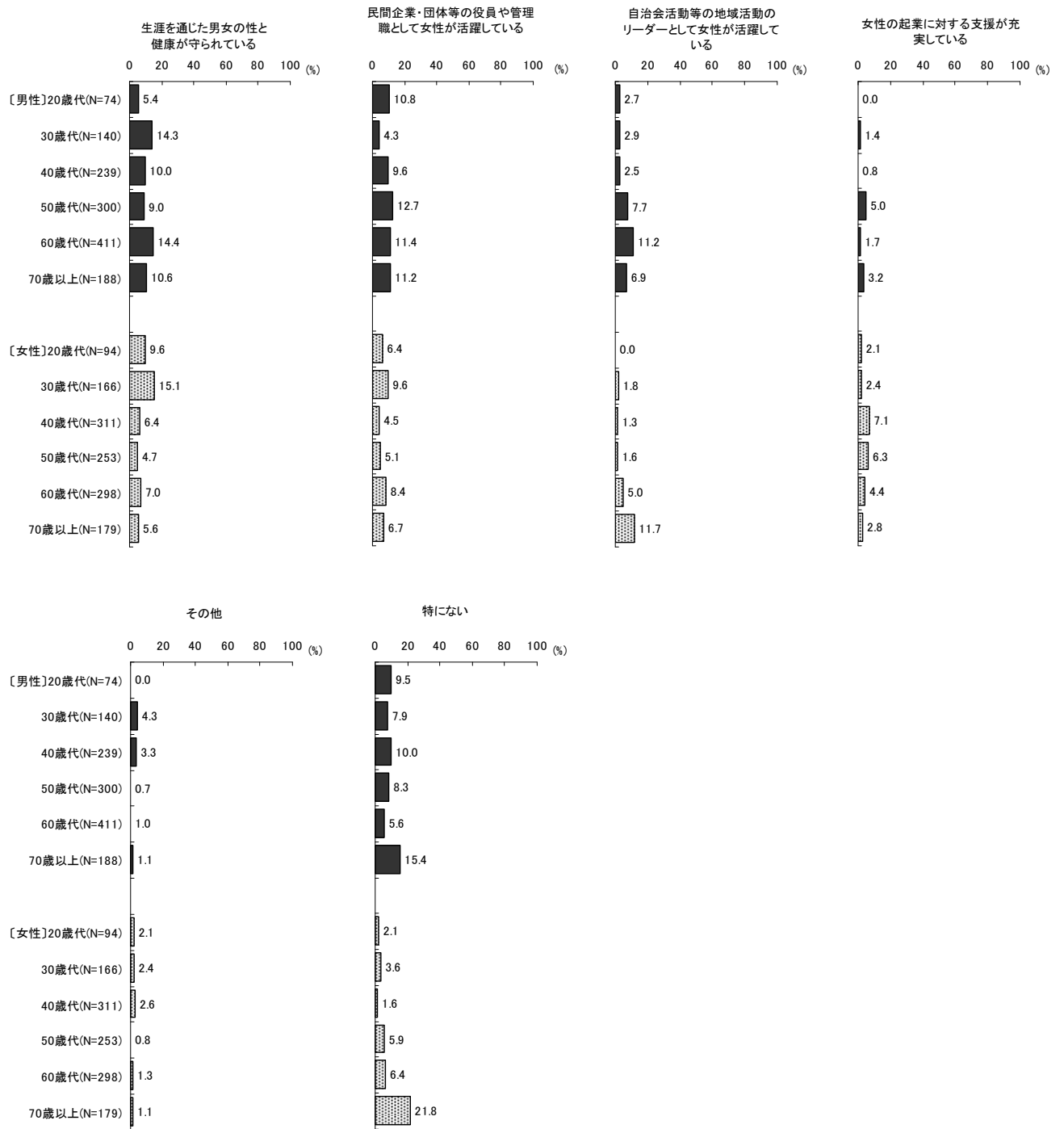
理想の男女共同参画の姿としては、男女とも「男女が共に家事・育児・介護等の家庭生活に参画している」（男性 52.7%、女性 66.8%）が最も多く、次いで「子育てや介護などと仕事が両立できる」（男性 37.3%、女性 44.1%）が多くなっている。



【性・年代別】

「子育てや介護により一旦退職した場合でも再就職しやすい」は20歳代の女性で多く
 なっており、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に多様な働き方を選択でき
 る」は20歳代の男女で多くなっている。

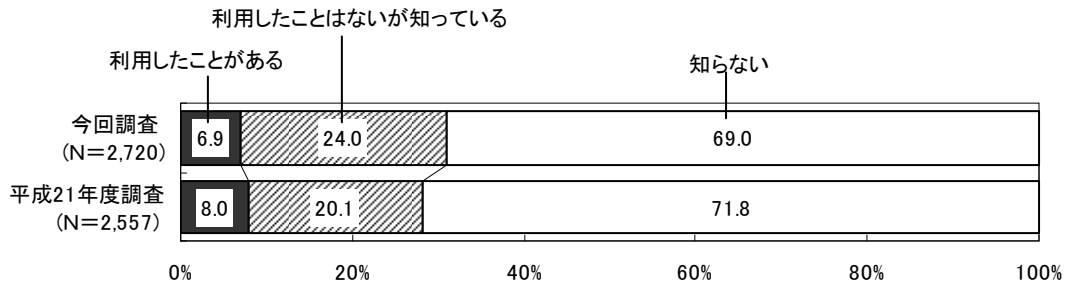




2 県立男女共同参画センターの周知度

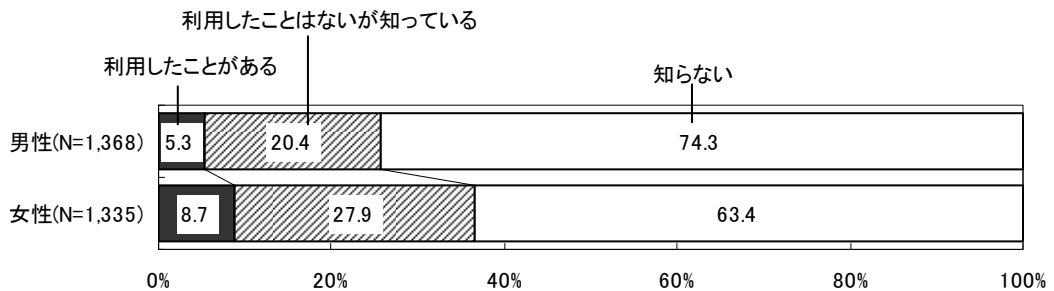
●『周知度』は約3割、「利用したことがある」は6.9%

県立男女共同参画センターの『周知度』（「利用したことがある」と「利用したことはないが知っている」の合計）は30.9%となっており、平成21年度調査と比較して2.8ポイント上昇している。「利用したことがある」は1.1ポイント減少している。



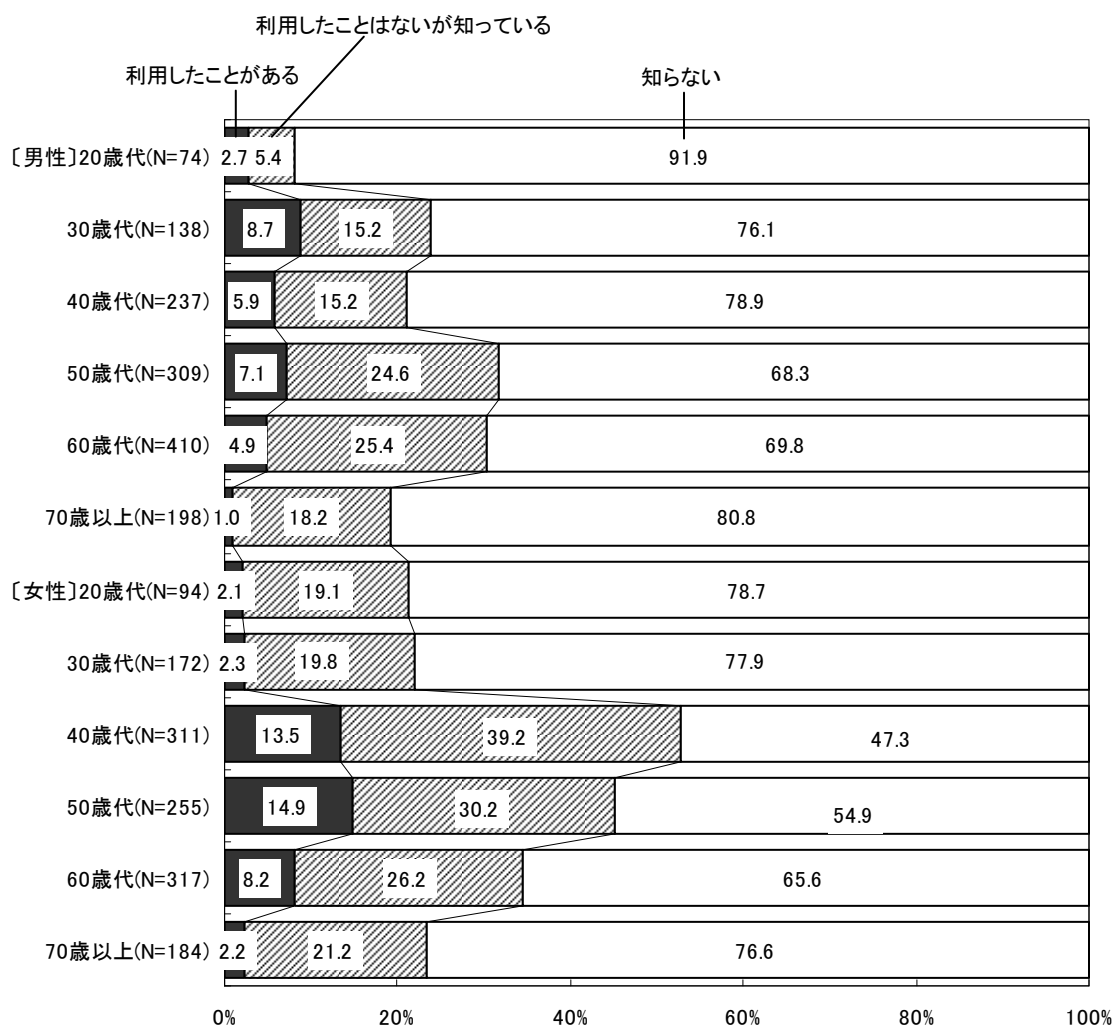
【性別】

「利用したことがある」、「利用したことはないが知っている」はともに女性の方が高くなっている。



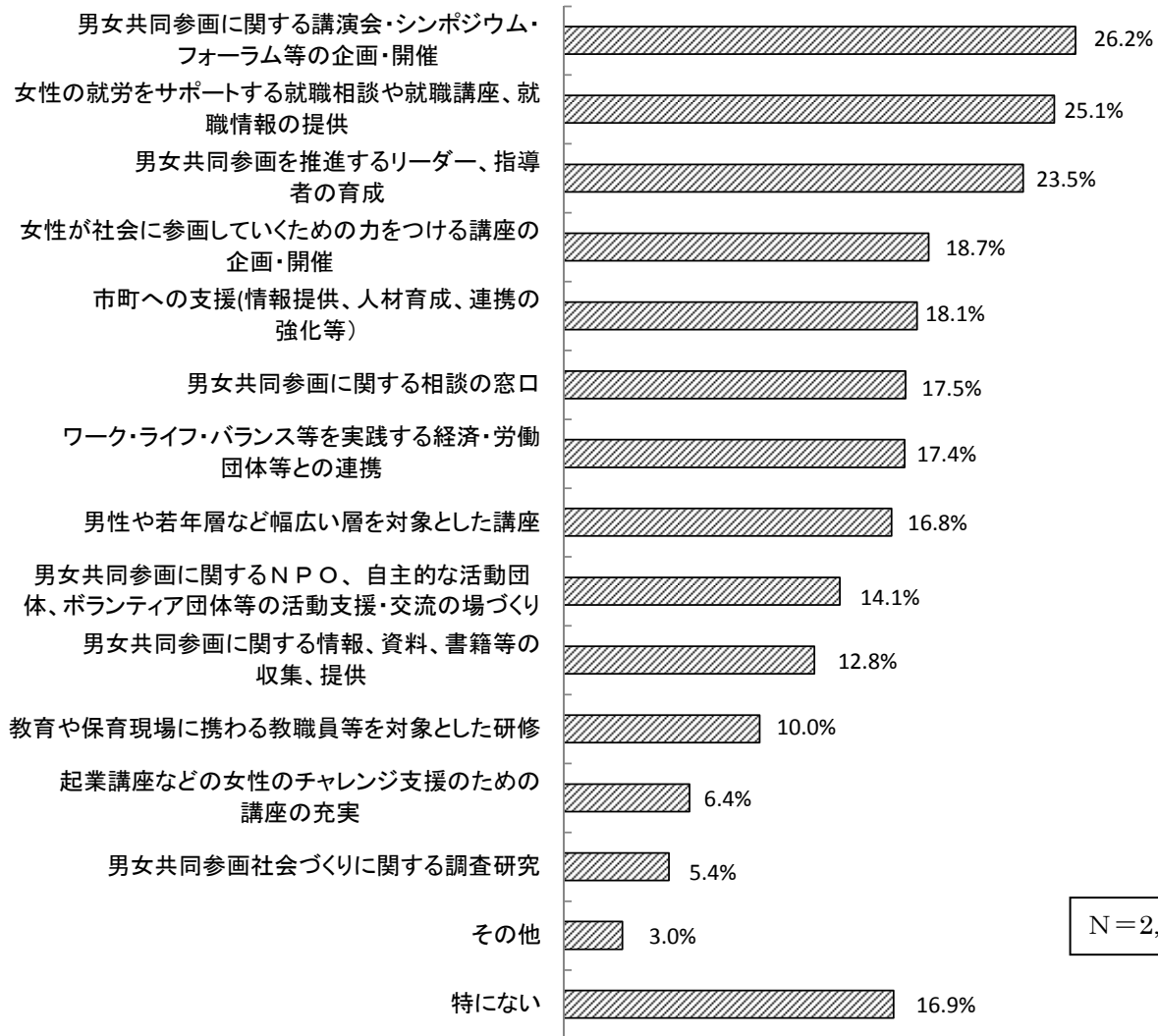
【性・年代別】

40歳代、50歳代の女性の『周知度』が高くなっている。



3 県立男女共同参画センターに期待する取組

●「男女共同参画に関する講演会・シンポジウム・フォーラム等の企画・開催」が最も多い

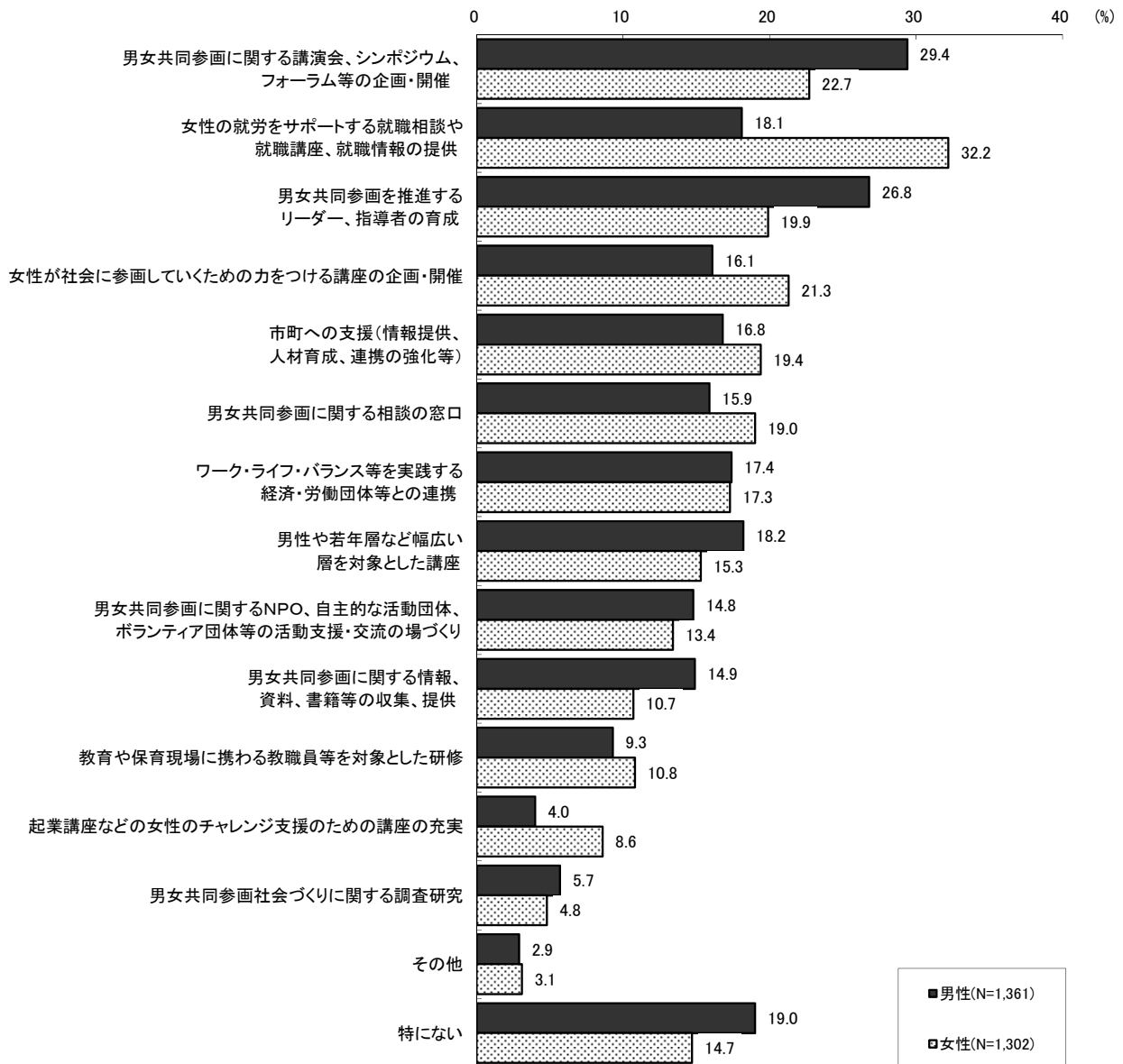


●女性では、「女性の就労をサポートする就職相談や就職講座、就職情報の提供」が最も多い

【性別】

県立男女共同参画センターに期待する取組は、男性では「男女共同参画に関する講演会、シンポジウム、フォーラム等の企画・開催」が最も多く、女性では、「女性の就労をサポートする就職相談や就職講座、就職情報の提供」が最も多くなっている。

また、30歳代の男女では、他の年代に比べ「ワーク・ライフ・バランス等を実践する経済・労働団体との連携」が高く、25%を超えている。



【性・年代別】

60歳代、70歳以上の男性で「男女共同参画に関する講演会、シンポジウム、フォーラム等の企画・開催」が多く、20歳代から50歳代の女性で「女性の就労をサポートする就職相談や就職講座、就職情報の提供」が多くなっている。

